

令和4年度 浜松市文化財年報

令和4年度の文化財保存・活用事業の要点

第1部 文化財年報

第1章 文化財保護事業報告

第2章 市内指定文化財等の動向

- 文化財の主な整備・保存修理事業
- 文化財の継承事業
- しずおか遺産の認定
- 浜松地域遺産の認定

第2部 埋蔵文化財調査報告

第1章 埋蔵文化財調査の概要

第2章 本発掘調査概要

第3章 試掘・確認・立会等調査報告

第4章 詳細報告

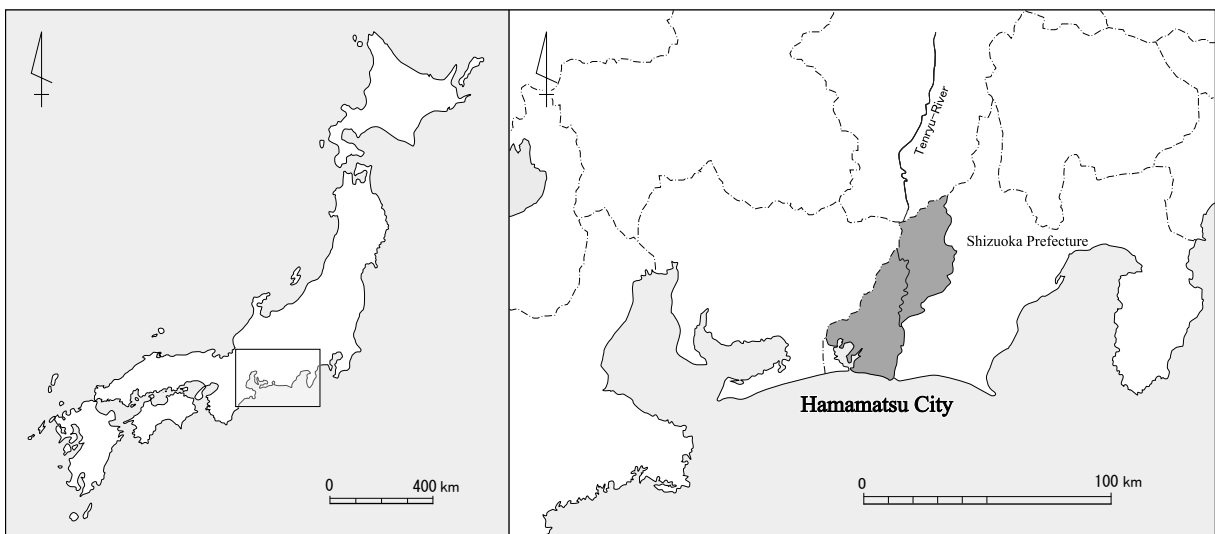
- 浜松城跡44・46次調査報告
- 浜松城跡45次調査報告
- 祝田遺跡5・6次調査報告

2024

浜松市教育委員会

例 言

- 1 本書は、浜松市教育委員会（市民部文化財課が補助執行）が令和4（2022）年度に実施した市内における文化財調査や保護事業等の報告集である。
- 2 第1部の文化財年報では、令和4（2022）年度に実施した市内文化財の保護、活用事業等について報告しており、第1章には、市内文化財の保護事業報告、第2章には、文化財の主な整備・保存修復事業や継承事業の概要、新たに認定された浜松地域遺産の一覧を掲載している。
第2部の埋蔵文化財調査報告では、令和4（2022）年度に実施した埋蔵文化財調査について報告しており、第1章には、埋蔵文化財調査の概要及び一覧、第2章には、本発掘調査の概要、第3章には、試掘・確認調査、工事立会いの報告、第4章には、小規模本発掘調査や重要な成果が得られた試掘・確認調査について詳細な報告を掲載した。
- 3 試掘・確認調査は、国の補助金を得て実施した調査、市単独費で実施した調査、原因者負担で実施した調査があり、その全てを掲載した。
- 4 本書の編集は、岡本佳枝（浜松市市民部文化財課）が行い、長谷川房枝（同）、内山範晃（同）が補佐した。執筆は浜松市市民部文化財課職員が分担して行い、第2部第4章のみ文責を文末に記した。
- 5 本書にかかわる遺跡の調査記録と出土遺物は、浜松市地域遺産センターで保管している。
- 6 当市の行政区は2024年（令和6年）1月1日に、7区（中区・東区・南区・西区・北区・浜北区・天竜区）から中央区（中区・東区・南区・西区・北区の一部）・浜名区（北区・浜北区）・天竜区の3区に移行したが、本書における区名は、事業実施時の名称とした。



浜松市の位置

令和4年度 浜松市文化財年報

目次

例言

令和4年度の文化財保存・活用事業の要点	1
---------------------------	---

【第1部 文化財年報】

第1章 文化財保護事業報告	5
第2章 市内指定文化財等の動向	19
1 文化財の主な整備・保存修理事業	19
2 文化財の継承事業	26
3 しずおか遺産の認定	28
4 浜松地域遺産の認定	29

【第2部 埋蔵文化財調査報告】

第1章 埋蔵文化財調査の概要	35
第2章 本発掘調査概要	41
第3章 試掘・確認・立会等調査報告	44
第4章 詳細報告	79
1 浜松城跡44・46次調査報告	79
2 浜松城跡45次調査報告	84
3 祝田遺跡5・6次調査報告	89

令和4年度の文化財保存・活用事業の要点

1 地域総がかりで文化財の将来を支える

令和元年度末から本市域でも本格的な拡大が確認されるようになった新型コロナウイルス感染症は、令和4年度においても本市の文化財関連事業に影響を与えた。「第5類」への移行が決まるなど規制緩和に向けた動きがある一方で、依然として文化財関連事業の内容の見直しなども余儀なくされた。3年以上にわたる新型コロナウイルス感染症の猛威は、文化財の保存・継承に大きな影響・ダメージを与え、危機的状況をより強く意識せざるを得なくなった。所有者・保存団体、行政だけでは、文化財の保存・継承や活用が困難になってきている中で、「新たな担い手・後継者」の確保・育成は喫緊の課題であり、急務である。これまでは、所有者等による「自助」、行政による「公助」により取り組んできたが、今後は、第三者が関与する「共助」による取り組みが必要不可欠である。NPOや企業、また、地域外・市外・県外の方の力を借りる必要もある。そのためには、文化財を保存・継承することに、理解や共感が得られることが必須である。文化財の活用は、そのためにも有効な手段でもあり、文化財の本質を変えたり価値を損ねないことを押さえつつ、柔軟に対応していくことが肝要であると考えられる。

2 文化財サポーター制度の創設

甚大な被害を及ぼした東日本大震災において、早くから被災文化財の救出に動いたのは、文化財レスキュー等の民間組織や文化財ボランティアであった。

本市では、東日本大震災の翌年度（平成23年度）、大規模災害時に文化財保護に力添えいただけるボランティアの養成などを目的として、「浜松市文化財防災ボランティア養成講座」を開始した。

講座では、市内で実施された津波痕跡調査の報告や、被水した古文書等の修復についての実技指導なども開催した。文化財防災ボランティア養成講座は、令和元年度まで毎年実施し、延べ2,500名を超える皆さんに受講いただいた。

令和4年度、文化財防災ボランティア養成講座を発展的に解消し、大規模災害時に限らず、日常的に文化財保護に取り組む担い手の育成を進めるため、「浜松市文化財サポーター制度」を創設した。文化財サポーターの活動内容の一つとして、「災害時の文化財救済ボランティア」を挙げており、引き続き、大規模災害時の文化財救済活動とそれに携わる文化財救済ボランティアを育成する講座も開催していく予定である。また、市が行うイベント等の普及活動への支援や、文化財に関する情報発信にも期待し、地域全体で文化財保護に取り組む体制を整えるための第一歩としたいと考えている。

3 文化財の指定・認定の動き

令和3年度は、新たな市指定と国登録はなかった。平成28年度から開始した浜松市認定文化財

制度（浜松地域遺産認定制度）は7年目を迎えた。令和4年度は新たに114件を認定し、認定文化財の総数は659件となった。

令和4年度のトピックとしては、制度創設以来初めて、「記憶遺産」として西区の「神久呂の民話」を認定したことが挙げられる。

4 指定文化財の保護

令和4年度も市内の寺院が所有する文化財の保存修理が行われた。修理を実施した主要な文化財としては、宝林寺木造二十四善神立像のうち金剛密迹菩薩・摩醯首羅菩薩（北区、県指定）、秋葉神社神門（天竜区、市指定）などが挙げられる。

また、記念物については白山神社のクス（浜北区、市指定天然記念物）の保護事業を実施した。

5 埋蔵文化財の調査

令和4年度の開発行為に先立つ市内の遺跡照会の件数は、6,129件を数えた（前年比521件減、92%）。開発に先立つ埋蔵文化財の手続きについては、文化財保護法第93条の届出（民間開発）が248件（前年比18件減、93%）、同第94条の通知（公共事業）が31件（前年比1件減、97%）を数えた。埋蔵文化財に関する手続きが着実に周知されていることがうかがえる。

6 地域遺産センターの運営

本市の文化財の保存と活用の拠点施設である地域遺産センターは平成29年1月の開館から6年が経過し、活動も軌道に乗りつつある。指定文化財や認定文化財に関する情報公開を随時進めたほか、センター周辺の文化財や新たな発掘調査成果などをお知らせする展示をはじめ、静岡県埋蔵文化財センター主催の巡回展、若年層を中心に歴史や文化財への関心を促すための普及啓発事業「GWキッズイベント」・「夏のまいぶんクラフトWeek」などを開催した。また、WEBサイトやSNSを活用し、情報発信にも努めた。

【第 1 部 文化財年報】

第1章 文化財保護事業報告

1 文化財の調査と顕彰

(1) 浜松地域遺産の認定

地域での貴重な文化資源を指定文化財とは別の枠組みで「浜松地域遺産」として認定し顕彰することで、後世への保存継承と地域活性化への活用により、個性ある地域の創造への寄与を期待するもの。令和4年度は推薦153件のうち114件を認定した。

※詳細は第2章(29頁)に掲載。

※このほか、令和元年度・令和2年度・令和3年度認定分への構成要素の追加がある。

区別	件数
中区	5
東区	10
西区	15
南区	1
北区	25
浜北区	46
天竜区	12
合計	114

分類別	件数
建造物	4
美術工芸品	27
無形文化財	0
有形民俗文化財	32
無形民俗文化財	4
史跡	41
名勝	0
天然記念物	0
文化的景観	3
伝統的建造物群	0
文化財の保存技術	0
近代化遺産	0
記憶遺産	1
伝承地	2
伝統的生活文化	0
合計	114

(2) 指定文化財等の現状調査

適切な保護事業の推進及び新たな文化財指定の検討材料とするため、指定文化財及び指定文化財候補等について調査、情報収集を行った。

区分	種別	文化財等の名称	所在地
市指定	建造物	秋葉神社神門(彫刻修理状況確認)	袋井市(澤元彫刻)
市指定	建造物	気賀関所本番所	北区細江町気賀
国登録	建造物	旧田代家住宅(建具)	天竜区二俣町鹿島
他市国登録	建造物	原田家住宅活用状況調査	焼津市
未指定	絵画	方広寺 美術工芸品	北区引佐町奥山
市指定	彫刻	木造阿弥陀如来坐像及び周辺環境	北区細江町気賀
市指定	彫刻	木造天部立像	北区細江町気賀(東林寺)
市指定	有形民俗	初生衣神社織殿	北区三ヶ日町岡本
国指定	無形民俗	川名のひよんどり	北区引佐町川名
国指定	無形民俗	寺野のひよんどり	北区引佐町渋川
国指定	無形民俗	懐山のおくない	天竜区懐山
国指定	無形民俗	西浦の田楽	天竜区水窪町奥領家
国選択	無形民俗	滝沢のシンウチ行事	北区滝沢町
県指定	無形民俗	呉松の大念仏	西区庄内町
県指定	無形民俗	滝沢の放歌踊	北区滝沢町
県指定	無形民俗	川合花の舞	天竜区佐久間町川合
県指定	無形民俗	横尾歌舞伎	北区引佐町横尾・白岩
県指定	無形民俗	西浦の念仏踊	天竜区水窪町奥領家
県選択	無形民俗	今田花の舞	天竜区佐久間町奥領家
県選択	無形民俗	水窪の念仏踊(神原の虫送り)	天竜区水窪町奥領家
市指定	無形民俗	遠州大念仏	中区鹿谷町ほか
市指定	無形民俗	勝坂神楽	天竜区春野町豊岡
市指定	無形民俗	妙功庵観音堂の百万遍念仏と念仏講	北区細江町中川
市指定	無形民俗	犬居つなん曳	天竜区春野町堀之内
未指定	無形民俗	浦川歌舞伎	天竜区佐久間町浦川
未指定	無形民俗	息神社の田遊祭	西区雄踏町宇布見
未指定	無形民俗	神澤のおくない	天竜区神沢

区分	種別	文化財等の名称	所在地
未指定	無形民俗	雄踏歌舞伎「万人講」	西区雄踏町宇布見
市指定	天然記念物	新原の大マキ	浜北区新原
市指定	天然記念物	船明の二本スギ	天竜区船明

2 文化財の保護と継承

(1) 文化財保護審議会の開催

文化財保護法第190条第1項の規定に基づき設置する附属機関(浜松市文化財保護条例第43条)。教育委員会の諮問に応じて、浜松市内の文化財の保存及び活用に関する重要事項について調査審議し、これらの事項に関して教育委員会に建議した。

審議会委員 任期: 令和3年～5年の3箇年

氏名	所属・役職等	備考
片桐 弥生	静岡文化芸術大学文化政策学部教授	会長 2期目
中谷 悟	静岡県文化財建造物監理士	副会長 2期目
荒川 章二	国立歴史民俗博物館特任教授、静岡大学名誉教授	1期目
金 明美	静岡大学情報学部教授	1期目
名倉 慎一郎	遠州常民文化談話会会長	1期目
新妻 淳子	静岡文化芸術大学デザイン学部准教授	2期目
西田 かほる	静岡文化芸術大学文化政策学部教授	2期目
藤下 章男	日本樹木医会	2期目
松本 一男	大日本報徳社 専務理事	1期目

審議会開催状況

回	開催日	内容
第1回	令和4年8月5日	令和3年度の実績、令和4年度の事業計画、文化財関係計画の報告等
第2回	令和4年12月12日	文化財関係事業の報告、指定等文化財について、文化財関係計画の報告等
第3回	令和5年3月3日	文化財関係事業の報告、文化財関係事業の課題等、浜松地域遺産(認定文化財)の意見聴取等

(2) 文化財の管理

文化財等の維持管理・整備 市内の文化財等の保存状態や見学の環境を整えるため、除草、清掃、設備の保守点検など日常的な維持管理を行ったほか、臨時的な修繕や整備等を実施した。

区	主な実施状況
中区	追分一里塚(市史跡)及び住吉南古墳(市史跡)の除草及び清掃
東区	蛭子森古墳(市史跡)の除草及び清掃
南区	米津台場(市史跡)の除草及び清掃
西区	入野古墳(市史跡)の樹木伐採、火穴古墳(市史跡)、東大山一里塚(市史跡)及び東海道の松並木(市史跡)の除草及び清掃、中村家住宅(国有形)及び舞坂宿脇本陣(市有形)の修繕
北区	【細江町】滝峯才四郎谷銅鐸公園(県史跡)、伝堀川城跡(市史跡)、井伊直親の墓及び細江文化財倉庫の除草及び清掃 【引佐町】三岳城跡(国史跡)、鈴木家住宅周辺環境整備(国有形)湍伊神社境内遺跡(県史跡)、シブカワツツジ群落(県天然記念物)、北岡大塚古墳(市史跡)、馬場平古墳(市史跡)及び白山1号墳(市史跡)の除草及び清掃 【三ヶ日町】凌苔庵跡(市史跡)、本坂一里塚(市史跡)、宇志北大里遺跡(市史跡)、姫街道、千頭ヶ峯城跡(県史跡)及び西山古墳(市史跡)の除草及び清掃
浜北区	北浜の大カヤノキ(国天然記念物)の樹幹部治療・土壌改良、二本ヶ谷積石塚群(県史跡)の史跡公園維持管理、赤門上古墳(県史跡)・向野古墳(市史跡)等の除草及び清掃
天竜区	旧王子製紙製品倉庫(県建造物)の維持管理・建具修繕、ヒラシロ遺跡(市史跡)史跡公園の維持管理、高瀬のニッケイ(市天然記念物)の除草及び清掃、高根城跡(市史跡)除草及び修繕、田代家住宅(国登録)の修繕

現状変更等への対応 指定文化財及びその指定地内で行われる現状変更や所在地変更などの各種申請・届出等については、法令に基づき事務処理を行った。

区分	種別	内容	件数	文化財名称(数の記載がないものは1件)
国指定	有形文化財	き損	1	寶林寺仏殿・方丈×2、中村家住宅
		修理届	1	寶林寺仏殿
	記念物	現状変更	10	光明山古墳×2、蜷塚遺跡×2、二俣城跡及び鳥羽山城跡×2、北浜の大カヤノキ、カモシカ、龍潭寺庭園、イイジマムシクイ
		き損	3	光明山古墳×2、二俣城跡及び鳥羽山城跡
		滅失	12	カモシカ×12
県指定	有形文化財	現状変更	1	木造二十四善神立像(金剛密迹菩薩・摩醯首羅菩薩)
		損傷届	1	旧王子製品倉庫
		修理届	1	旧王子製品倉庫
		所有者住所変更	1	内山真龍自筆稿本遠江国風土記伝及び自筆日記
	民俗文化財	損傷届	1	旧ヤマセ家のコヤ
		所有者変更	1	染型紙
	記念物	現状変更	22	浜名湖×15、竜山のホソバシヤクナゲ群落、雲立の樟×5、大居城跡
市指定	有形文化財	所在場所変更	6	ジェームズ・ペイトン号遭難事件関係資料、絹本着色南溪瑞閣像、袈裟褌文銅鐸 中川滝峯七曲り出土、木造阿弥陀如来坐像、田代家文書、木造阿弥陀如来坐像のうち納入品
		所有者変更	1	ジェームズ・ペイトン号遭難事件関係資料
		現状変更	2	秋葉神社神門、気賀関所本番所
		き損届	2	木造阿弥陀如来坐像、木造阿弥陀如来坐像のうち納入品
		修理届	1	旧舞坂脇本陣
	記念物	現状変更	30	追分一里塚、入野古墳×2、宇布見のイヌマキ、乎那の峯、高根城跡、東海道の松並木、中村家屋敷地、白山神社のクス、浜松海岸のアカウミガメ及びその産卵地×3、浜松城跡×11、東大山一里塚、御堂平遺跡、瑞雲院境内 附 天野家墓所×2、姫街道の松並木×3
		き損	1	瑞雲院境内附天野家墓地
		滅失	1	浜松海岸のアカウミガメ及びその産卵地
国登録	有形文化財	き損	2	ヤマタケの蔵北の蔵

(3) 文化財保存事業に対する補助金

文化財の管理者が修理や保護、維持管理等に必要な費用について、国や県とともに補助金を交付したほか、国や民間の補助・助成制度の活用についても促した。

文化財の保存修理に対する補助金

区分	種別	事業名	交付先	市交付額
国指定	建造物	宝林寺仏殿・方丈建造物保存修理事業	宗教法人 宝林寺	286千円
市指定	建造物	秋葉神社神門建造物保存修理事業	宗教法人 秋葉山本宮秋葉神社	30,000千円
県指定	美術工芸品	木造二十四善神立像のうち金剛密迹菩薩・摩醯修羅菩薩美術工芸品保存修理等事業	宗教法人 宝林寺	1,969千円

※秋葉神社神門建造物保存修理事業、木造二十四善神立像のうち金剛密迹菩薩・摩醯修羅菩薩美術工芸品保存修理等事業の詳細は第2章(23頁)に掲載。

記念物の保護に対する補助金

区分	種別	事業名	交付先	市交付額
市指定	天然記念物	白山神社のクス天然記念物保護事業	宗教法人 岩水寺	2,596千円

文化財の管理事業に対する補助金

区分	種別	事業名	交付先	市交付額
国指定	建造物	宝林寺仏殿・方丈指定文化財管理事業	宗教法人 宝林寺	63千円
国指定	建造物	濱名惣社神明宮本殿指定文化財管理事業	濱名惣社神明宮	30千円
国指定	建造物	方広寺七尊菩薩堂指定文化財管理事業	宗教法人 方広寺	12千円
県指定	史跡	陣座ヶ谷古墳管理事業	陣座ヶ谷古墳管理	30千円
県指定	名勝	実相寺庭園管理事業	宗教法人 実相寺	22千円
市指定	建造物	甘露寺中門指定文化財管理事業	宗教法人 甘露寺	30千円
市指定	有形民俗	初生衣神社織殿管理事業	宗教法人 初生衣神社	26千円
市指定	史跡	伝橋逸勢墓管理事業	本坂自治会	30千円
市指定	史跡	伝井伊共保出生井管理事業	宗教法人 龍潭寺	30千円

無形民俗文化財の保存伝承・活用に対する補助金

区分	事業名	交付先	市交付額
国指定	西浦田楽保存伝承・活用等事業	西浦田楽保存会	120千円
国指定	寺野のひよんどり保存伝承・活用等事業	寺野伝承保存会	70千円
国指定	川名のひよんどり保存伝承・活用等事業	川名ひよんどり保存会	70千円
県指定	横尾歌舞伎保存伝承・活用等事業	横尾歌舞伎保存会	188千円
県指定	横尾歌舞伎保存伝承・活用等事業	横尾歌舞伎保存会	70千円
県指定	滝沢の放歌踊り保存伝承・活用等事業	滝沢の放歌踊り保存会	70千円
市指定	犬居つなん曳保存伝承・活用等事業	犬居自治会(龍勢社)	188千円
市指定	犬居つなん曳保存伝承・活用等事業	犬居自治会(龍勢社)	86千円
市指定	妙功庵観音堂の百万遍念仏と念仏講保存伝承・活用等事業	妙功庵観音堂の百万遍念仏と念仏講保存会	70千円

国・民間からの補助金・助成金

補助・助成元の名称	事業名	補助・助成先	補助・助成額
国（文化芸術振興費補助金）	地域文化財総合活用推進事業（地域の伝統行事等のための伝承事業）	西浦の田楽	279千円
		寺野のひよんどり	1,328千円
		川名のひよんどり	1,022千円
		浜松市無形民俗文化財保護団体連絡会	2,334千円
一般財団法人伊豆屋伝八文化振興財団（文化財修理保存等助成事業）	宝林寺仏殿及び方丈建造物保存修理事業（防災設備）	宗教法人 宝林寺	300千円
	秋葉神社神門建造物保存修理事業	宗教法人 秋葉山本宮秋葉神社	300千円

3 文化財等の公開

(1) 文化財建造物の公開

以下の文化財建造物を公開し、必要な維持管理等を実施した。

区分	施設名	所在地	事業内容	入場者数
国指定有形文化財	鈴木家住宅	北区引佐町的場	燻蒸、消防設備保守点検、建造物保存修理工事等	279人
国指定有形文化財	中村家住宅	西区雄踏町宇布見	警備、植栽管理、施設管理、施設修繕、土蔵修繕、支障木伐採等	2,589人
市指定有形文化財	舞坂宿脇本陣	西区舞阪町舞阪	警備、消防設備保守点検、施設管理、施設修繕等	3,812人
国登録有形文化財	田代家住宅	天竜区二俣町鹿島	樹木管理、施設管理、施設修繕等	2,104人

(2) 賀茂真淵記念館の運営

国学者賀茂真淵の業績及び関係資料を紹介するため、展示や講座等を開催した。なお、(一社)浜松史蹟調査顕彰会が指定管理者として施設の運営を行った。入館者数 : 5,474人。



賀茂真淵記念館



同展示室

(3) 内山真龍資料館の運営

国学者内山真龍の業績を紹介するため常設展3回・特別展を開催したほか、施設の維持管理、施設修繕等を行った。入館者数 : 830人。



内山真龍資料館



同展示室

(4) 浜松市地域遺産センターの運営

埋蔵文化財をはじめとする市内の文化財に関する保存・活用事業を行う施設である浜松市地域遺産センターの運営・管理、施設修繕等を行った。入館者数 : 5,843人。

	令和4年度		令和3年度		前年比	
	入館者 (人)	人/日	入館者 (人)	人/日	入館者 (人)	比率 (人/日)
計	5,843	21	4,341	15	1,502	140%
累計	133,442					



浜松市地域遺産センター



同展示室

4 文化財の災害対策

(1) 普及啓発

防災やボランティアを含んだ文化財全般に及ぶ人材活用制度である「浜松市文化財サポーター制度」を令和4年12月に創設し、文化財サポーターガイダンス講座、文化財防災ボランティア養成講座を開催した。

また、将来予想される災害に際しての文化財被災に備え、防火訓練、文化財救済物品の点検等を行った。

①文化財サポーターガイダンス講座 令和5年1月8日(日) 70人 [浜松市地域情報センター]

②文化財防災ボランティア養成講座全2回 各20人 [引佐協働センター]

「文化財と災害について」令和5年1月28日(土)

「文化財取り扱いの実技」令和5年2月4日(土)



文化財サポーター
ガイダンス講座



文化財サポーター
歴史文化学習会

(2) その他の災害対策

文化財防火デー訓練 文化財防火デーである1月26日とその前後に浜松市博物館、中村家住宅、舞坂宿脇本陣等において消防訓練を実施した。



消防訓練の様子 (中村家住宅)



消防訓練の様子 (舞坂宿脇本陣)

5 地域と連携した文化財の保存と活用

(1) 市指定天然記念物「アカウミガメ」の保護

遠州灘海岸でアカウミガメの保護に努めている特定非営利活動法人サンクチュアリエヌピーオーとの相互連携や業務委託によって、以下の事業を実施した。

保護監視と生態調査 指定区域内のアカウミガメ及びその産卵地の保護監視、生態及び産卵状況の調査等を行い、29の産卵巣を確認し、3,338個の卵を保護した。

親と子のウミガメ教室 文化財や自然保護への理解を深めるため、ウミガメ講座、海岸ウォッチング、早朝の産卵調査、子ガメの放流会等の教室を開催した。

開催日	大人	子ども	合計
6月25日	43人	51人	94人
8月6日	41人	45人	86人
8月27日	38人	43人	81人
合計	122人	139人	261人



ウミガメ教室の様子

(2) 無形民俗文化財の活性化

市内各所で無形民俗文化財を伝承している各地域の保存団体の自主的な取組を支援することにより、民俗芸能の確実な伝承と地域の活性化を図った。

浜松市無形民俗文化財保護団体連絡会事務局の運営 各保存団体の相互連携や情報交換を図るために設置されている連絡会の事務局として運営補助・調整等を行った。

また、静岡文化芸術大学との共催事業として面の展示と講演会を開催し、佐久間神社が神楽舞の実演を行った。

- ・理事会 令和4年5月19日(木) 会場: 引佐協働センター
- ・総会 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため書面開催
- ・面の展示、講演会 令和4年7月15日(金)～20日(水)
会場: 静岡文化芸術大学
※静岡文化芸術大学との共催事業(浜松市後援)



文芸大と連絡会の共催事業
面の世界

浜松市無形民俗文化財保護団体連絡会 参加団体

団体名称	文化財名称	所在地	指定区分
寺野伝承保存会	遠江のひよんどりとおくない(寺野のひよんどり)	北区引佐町渋川	国指定
川名ひよんどり保存会	遠江のひよんどりとおくない(川名のひよんどり)	北区引佐町川名	国指定
懐山おくない保存会	遠江のひよんどりとおくない(懐山のおくない)	天竜区懐山	国指定
西浦田楽保存会	西浦の田楽	天竜区水窪町奥領家	国指定
滝沢おくない保存会	滝沢のシシウチ行事	北区滝沢町	国選択
遠州大念仏呉松組	呉松の大念仏	西区呉松町	県指定
滝沢放歌踊り保存会	滝沢の放歌踊	北区滝沢町	県指定
横尾歌舞伎保存会	横尾歌舞伎	北区引佐町横尾・白岩	県指定
川合花の舞保存会	川合花の舞	天竜区佐久間町川合	県指定
西浦の念仏踊保存会	西浦の念仏踊	天竜区水窪町奥領家	県指定
今田花の舞保存会	今田花の舞	天竜区佐久間町奥領家	県選択
遠州大念仏保存会	遠州大念仏	中区鹿谷町	市指定
妙功庵観音堂の百万遍念仏と念仏講保存会	妙功庵観音堂の百万遍念仏と念仏講	北区細江町中川	市指定
犬居自治会	犬居つなん曳	天竜区春野町堀之内	市指定
勝坂神楽保存会	勝坂神楽	天竜区春野町豊岡	市指定
神澤おくない継承同好会	神澤おくない	天竜区神沢	未指定
東久留女木地区	東久留女木のおくない	北区引佐町東久留女木	未指定
雄踏歌舞伎保存会万人講	雄踏歌舞伎「万人講」	西区雄踏町字布見	未指定
浦川歌舞伎保存会	浦川歌舞伎	天竜区佐久間町浦川	未指定
有玉神社流鏝馬神事保存会	有玉神社流鏝馬神事	東区有玉南町	未指定
雄踏息神社田遊祭	息神社の田遊祭	西区雄踏町字布見	未指定

情報の発信 無形民俗文化財広報誌「遠江・山と里の民俗」(第19号・第20号)を発刊し、関係各所にて配布した。
発行部数:各4,000部



遠江・山と里の民俗 第19号・20号

次世代への継承 浜松市無形民俗文化財保護団体連絡会への業務委託により、学校と地域の保存会との連携による次世代への継承事業(民俗芸能の体験等)を実施した。

文化財名称	学校・団体名	内容
滝沢の放歌踊	都田小学校 都田中学校	滝沢の放歌踊について、歴史の学習、舞の所作や演奏の練習、楽器や道具類の管理や手入れについての体験などを行い、その成果を校内発表会及び浜松市民文化フェスティバル、北区DEまつりで披露した。
横尾歌舞伎	井伊谷小学校 引佐南部中学校	横尾歌舞伎について、歴史の学習、所作や台詞の練習、道具類の管理や手入れについての体験などを行い、その成果を横尾歌舞伎特別公演で披露した。
浦川歌舞伎	浦川小学校	浦川歌舞伎について、歴史の学習、所作や台詞の練習、道具類の管理や手入れについての体験などを行い、その成果を校内学習成果発表会で披露した。
雄踏歌舞伎「万人講」	雄踏小学校 他	雄踏歌舞伎について、歴史の学習、所作や台詞の練習、道具類の管理や手入れについての体験などを行い、その成果を雄踏歌舞伎「万人講」定期公演で披露した。
川名のひよんどり	井伊谷小学校 浜松学院大学 静岡大学	川名のひよんどりについて、歴史の学習、所作や台詞の練習、道具類の管理や手入れについての体験などを行い、その成果を実際の祭礼で披露した。
勝坂神楽	浜松学院大学	勝坂神楽について、歴史の学習、所作や台詞の練習、道具類の管理や手入れについての体験などを行い、その成果を実際の祭礼で披露した。

文化財名称	学校・団体名	内 容
川合花の舞	浦川小学校	それぞれの無形民俗文化財について、歴史の学習、所作や演奏の体験などを行った。
息神社田遊祭	雄踏小学校	
神澤のおくない	神澤おくない継承同好会 一般市民（社会人）	神澤のおくないについて、担い手及び指導者育成のため社会人を対象とした所作や演奏の練習・指導を行い、天竜地区芸能連盟大会「春を告げる」及びザ山フェス 2023 で実際に披露した。



次世代継承事業（勝坂神楽）



次世代継承事業（大学連携 伝統文化体験イベント）

「地域伝統芸能賞」授賞式への出席 新型コロナウイルス感染症対策として延期されていた第30回地域伝統芸能全国大会「地域伝統芸能による豊かなまちづくり大会山口」が令和4年10月8日に山口市において開催され、以下の2団体が出席し、表彰を受けた。

- ・令和2年度 高円宮殿下記念地域伝統芸能賞受賞(同賞の大賞にあたる) 西浦田楽保存会
- ・令和3年度 支援賞受賞 横尾歌舞伎保存会床山衣装部

(地域伝統芸能大賞について)

多年にわたり、地域の民衆の生活の中で受け継がれ、当該地域固有の歴史、文化等を色濃く反映した地域伝統芸能等の活用を通じ、観光又は商工業の振興に顕著な貢献が認められる団体や個人を表彰することを目的に、平成5年に創設された。

三遠南信念仏踊り競演事業及び遠州大念仏保存会 統合90周年記念大会の開催と動画の配信 令和4年10月2日(日)に浜松市浜北文化センター(大ホール)において三遠南信念仏踊り競演事業及び遠州大念仏保存会 統合90周年記念大会を無観客で開催し、収録した実演映像と歴史背景や芸能の特徴の解説、映像資料による念仏踊りの紹介等を計3本の動画にまとめ公開した。

1 三遠南信の念仏踊り・遠州大念仏の競演【前編(実演)】

遠州大念仏(浜松市指定無形民俗文化財)並びに木原大念仏(袋井市指定無形民俗文化財)の実演映像と、保護団体である遠州大念仏保存会の会長インタビューを収録した。

2 三遠南信の念仏踊り・遠州大念仏の競演【前編(解説)】

【前編(実演)】で出演している遠州大念仏と木原大念仏について、中村羊一郎氏(静岡市歴史博物館館長)が解説した動画。遠州大念仏の由来とされる三方ヶ原の戦いや、芸能の特徴等について解説している。

3 三遠南信の念仏踊り・遠州大念仏の競演【後編(実演・解説)】

和合の念仏踊り(国指定 重要無形民俗文化財)による実演映像と保護団体である和合念仏踊り保存会の会長インタビュー、三遠南信地域の念仏踊りについての中村羊一郎氏の解説に加え、解説に登場する三遠南信地域の念仏踊りや大念仏を映像で紹介している。



三遠南信念仏踊り・遠州大念仏競演事業
(遠州大念仏)



三遠南信念仏踊り・遠州大念仏競演事業
(和合の念仏踊り)

民俗芸能大会等参加団体に対する支援 民俗芸能その他の無形の民俗文化財の保存と振興及び文化遺産を活かしたシティプロモーションの推進を図るため、浜松市を代表して民俗芸能大会等へ出場する団体に対して激励金を交付した。

保存会	大会名(場所)	日程
西浦田楽保存会 横尾歌舞伎保存会	第30回地域伝統芸能全国大会(山口大会)	令和4年10月8日
西浦田楽保存会	ふじのくに民俗芸能フェスティバル(静岡市民文化会館)	令和5年2月26日
川名ひよどり保存会 神澤おくない継承同好会	ザ山フェス2023(プレ葉ウォーク浜北)	令和5年3月18日~19日

(3) 城跡等史跡の整備活用

古墳や城郭をはじめとする史跡等を歴史・文化資源、観光資源として有効に活用するため、調査研究を進めるとともに、国指定史跡二俣城跡及び鳥羽山城跡の整備基本設計、植生整備基本計画の策定、国指定史跡光明山古墳の史跡指定地の公有化などを進めた。また、市指定史跡である浜松城跡については、引き続き石垣調査を実施するとともに、保存活用計画の策定を進めた。

国史跡二俣城跡及び鳥羽山城跡 令和4年3月に策定した整備基本計画に基づき、城跡の整備工事の基本設計を行った。また、史跡指定地内の樹木を適切に管理するための植生整備基本計画の策定も合わせて行った。いずれも作業を円滑に進めるため、関係する分野の有識者から助言及び指導を受け、成果品に反映させた。

また、令和3年度から開始した石垣安定度調査を引き続き実施した。令和4年度は鳥羽山城跡を対象に調査を実施し、石垣の現況把握とカルテ作成、安定度の評価を実施した。

なお、一連の事業の実施にあたっては国庫補助金(歴史生き生き！史跡等総合活用整備事業)を活用した。

国史跡光明山古墳 史跡指定地の適切な保存と管理、今後の整備活用のため、令和2年度に古墳の墳丘本体部分の公有化を実施したのに続き、令和3年度から寄附により古墳の立地する斜面地部分の公有化を進め、令和4年5月に当該部分の取得を完了した。公有化部分について、令和3年度から墳丘部分の環境整備事業を行い、令和4年度も継続して維持管理に努め、斜面地の取得後は環境整備事業の実施範囲に追加した。

市史跡浜松城跡 城跡の石垣の安全対策を講じるとともに、適正な保存・活用を図るため、作成済みの石垣カルテに基づき、引き続き必要な箇所の詳細調査を実施した。また、城跡を適切に保存活用していくための保存活用計画の策定作業を令和3年度に引き続き実施した。策定作業を円滑に進めるため、有識者を集めた保存活用検討会を開催し、事務局と参加者による討議を行った。

浜松城跡保存活用検討会名簿

分野	氏名	所属等
中世史	大石 泰史	大石ブランニング主宰
考古学	北野 博司	東北芸術工科大学歴史遺産学科教授
社会学	笹原 恵	静岡大学情報社会学科教授
城郭考古学	千田 嘉博	奈良大学文化財学科教授
都市・地域計画学	宗田 好史	京都府立大学生命環境科学研究科教授
歴史地理学	山村 亜希	京都大学大学院人間・環境学研究科教授

※五十音順／所属などは令和4年4月現在



鳥羽山城跡石垣調査



光明山古墳樹木伐採状況

6 埋蔵文化財の保存と活用

(1) 調整・管理

埋蔵文化財包蔵地に関する照会対応 開発事業者及び市役所内部等からの照会に対して対応した。

照会地	中区	東区	西区	南区	北区	浜北区	天竜区	全市合計
件数	1,737件	1,072件	821件	871件	707件	757件	164件	6,129件
前年度比	96%	89%	86%	97%	103%	84%	85%	92%

土木工事等への対応 埋蔵文化財包蔵地内において土木工事等の計画を有する事業者等との間で遺跡への適切な措置が図られるよう協議を行った。また、民間事業者から提出される文化財保護法第93条に基づく届出を受理し指示を行う(248件、前年度比93%)とともに、市役所の各部署から公共事業に伴い静岡県へ提出される同法第94条に基づく通知については、進達・副申・伝達を行った(31件、前年度比97%)。

埋蔵文化財包蔵地の管理 発掘調査等の結果、範囲等の変更を要する埋蔵文化財包蔵地については、静岡県教育委員会に内容変更を求める協議書を提出した(8件)。

出土遺物の管理 発掘調査等により遺物を発見した際には、発見地の所管警察署へ文化財保護法第100条に基づく文化財の発見通知書を提出した(19件)。

(2) 調査

遺跡の状況を把握するための試掘・確認調査や現地踏査、記録保存のための本発掘調査や工事立会い等を実施し、出土品や記録類の整理作業・報告書編集を行った。(調査の詳細は第2部を参照)。

(3) 公開・活用

埋蔵文化財発掘調査における調査記録及び出土品は、北区引佐町井伊谷の浜松市地域遺産センターにおいて保管をしている。地域遺産センターでは、これらの発掘調査成果の公開と活用に努め

ており、刊行物の作成のほか、展示等を通じた公開、見学会や講座等の開催による成果説明を実施している。令和4年度は、引き続き新型コロナウイルス感染症拡大による影響下にあったが、企画展の開催等により来館者数は前年度と比較して増加に転じた。



整理作業の様子



編集作業の様子

調査成果の整理と報告書等の刊行・公開 恒武西宮遺跡など開発事業に先立ち実施した発掘調査や、浜松城跡の確認調査の成果をまとめた報告書を刊行した。報告書は市内及び全国の自治体、大学、研究機関、図書館等へ配布した。普及啓発用のパンフレット・リーフレット類について、過去に刊行したもののうち、残部が少なくなったものについては増刷を行い、講座や見学会等の際に参加者へ配布したほか、関係施設に配架した。

また、奈良文化財研究所がインターネット上で報告書データを公開している「全国遺跡報告総覧」において、既刊の報告書等のPDFデータを公開することに努めた。

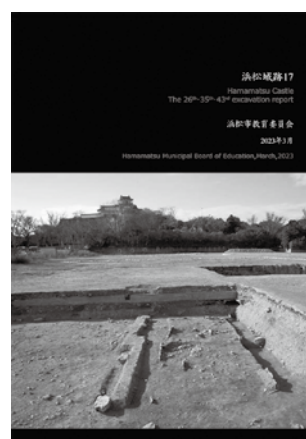
種別	名称	概要・趣旨
発掘調査報告書	恒武西宮遺跡 7	恒武西宮遺跡の 32 次発掘調査成果の報告
発掘調査報告書	増楽遺跡	増楽遺跡の 16 次発掘調査成果の報告
発掘調査報告書	浜松城跡 17	浜松城跡の 26・35・43 次発掘調査成果の報告



恒武西宮遺跡 7



増楽遺跡



浜松城跡 17

展示会 地域遺産センターを中心に、保管している考古資料を活用した展示会を開催したほか、静岡県埋蔵文化財センターの巡回展を誘致し、他機関と連携して静岡県内における発掘調査と考古学研究成果を公開した。

会期	名称	会場	来場者数
7月2日～8月28日	企画展「はままつ文化財速報展 2022」	地域遺産センター	1,107人
9月10日～12月18日	通常展「奥浜名湖の遺跡と文化財」	地域遺産センター	1,154人
11月1日～12月11日	令和4年度静岡県埋蔵文化財センター巡回展「弥生サイエンス」	地域遺産センター	637人
1月7日～6月18日	企画展「土に埋もれた浜松の原始・古代」	地域遺産センター	2,351人 ※令和4年度中



企画展「はままつ文化財速報展 2022」



通常展「奥浜名湖の遺跡と文化財」



巡回展「弥生サイエンス」



企画展「土に埋もれた浜松の原始・古代」

イベント・ワークショップ 埋蔵文化財への興味・関心を促進するため普及啓発事業を開催した。

開催日	講座名称	概要・趣旨	参加者数
4月29日～5月5日	GWキッズイベント	綿くり体験、井伊谷城の御城印を書こう	83人
7月30日～8月14日	夏のまいぶんクラフトWeek	土器文様ハンカチ作成、昔の道具で糸つむぎ、館内謎解き探検など	394人



GWキッズイベント



夏のまいぶんクラフトWeek

講座・シンポジウム 主催・共催事業のほか、依頼を受けて担当者を講師として派遣した。

開催日	講座名称	講師	会場	参加者数
7月2日	はままつ文化財速報展 2022 ギャラリートーク	市担当者	地域遺産センター	20人
7月31日	平安時代のスイーツ講座（引佐図書館と共催）	市担当者	引佐協働センター	20人
1月28日	企画展「土に埋もれた浜松の原始・古代」ギャラリートーク	市担当者	地域遺産センター	40人
2月21日	出前講座「浜松市の遺跡発掘」	市担当者を派遣	新原下善公民館	20人
2月25日	歴史講座「発掘調査から見る浜松の歴史」	市担当者を派遣	流通元町図書館	35人



速報展 2022 ギャラリートーク



平安時代のスイーツ講座

見学会 発掘調査の現地説明会や文化財の見学会を実施して、調査成果の公開に努めた。

開催日	名称	来場者数
4月5日	見学会「浜松城 昭和25年への旅」	50人



浜松城 昭和25年への旅

資料提供・熟覧等対応 保管する埋蔵文化財関係資料について、他館への貸出や調査研究に伴う熟覧等の対応を行った。

対応日	種別	申請者	内容
4月4日	画像提供	給食会社	販促物製作のため、二俣城跡・鳥羽山城跡の写真を提供
4月7日	画像提供・資料提供	個人	HP掲載のため、浜松城跡の発掘調査資料と浜松城推定復元図を提供
4月18日	画像提供	個人	HP掲載のため、浜松城跡の遺構の写真を提供
4月25日	動画提供	映像制作会社	番組制作のため、浜松城復元CG動画を提供
5月16日	画像提供	新聞社	刊行物掲載のため、北岡大塚古墳、光明山古墳の写真を提供
6月8日	画像提供	出版社	刊行物掲載のため、浜松城跡の発掘調査の写真を提供
6月14日	画像提供	出版社	刊行物掲載のため、辺田平1号墳の出土遺物の写真を提供
6月28日	画像提供	団体	刊行物掲載のため、北神宮寺遺跡の遺構などの写真を提供
7月8日	画像提供	NPO法人	刊行物掲載のため、万斛遺跡の発掘調査の写真を提供
7月13日	資料提供	出版社	刊行物掲載のため、浜松城推定復元図を提供
7月25日	画像提供	個人	刊行物掲載のため、鳥居松遺跡出土遺物の写真を提供
9月6日	画像提供	出版社	刊行物掲載のため、浜松城のCG復元図を提供
9月30日	資料提供	出版社	刊行物掲載のため、浜松城跡の周辺地形図を提供
11月15日	画像提供	新聞社	新聞掲載のため、浜松城のCG復元図を提供
11月25日	画像提供	出版社	刊行物掲載のため、浜松城推定復元図などの写真を提供
1月23日	データ提供	団体	展示パネル製作のため、常設展「徳川・武田の攻防」のデータを提供
3月8日	画像提供	出版社	刊行物掲載のため、岡の平遺跡の写真を提供

第2章 市内指定文化財等の動向

1 文化財の主な整備・保存修理事業

- (1) 宝林寺 木造二十四善神立像のうちこんごうみつやくぼさつ金剛密迹菩薩・まけいしゅらぼさつ摩醯首羅菩薩 美術工芸品保存修理等事業

区 分	静岡県指定有形文化財
種 別	彫刻
指定日	平成23年12月2日
補助事業者	宗教法人 宝林寺
所在地	浜松市北区細江町中川 65-2 (宝林寺)
施行期間	令和4年4月21日から令和5年3月20日まで
施 工	公益財団法人美術院
保存修理の経緯	約350年前に造像され経年劣化が著しい為
修理の概要	現状維持を原則とする保存修理

※以下は、県市補助事業の実績報告に基づく内容

修理前の像の状態

《金剛密迹菩薩像》

像高：108.1 cm / 形状：髻を結び、正面に髻飾りを表す。髪はまばら彫り。面部を左斜め下方に向ける。瞋目、開口し上下歯・舌を表す。上半身裸形。下半身に裳・袴・獣皮を著ける。天衣を纏う。上体を右方向に捻って前傾させ、左手は右斜め下に下垂し、掌を斜め下に向け五指を伸ばす。右手は右斜め上に伸ばし、剣を執る。左足を立脚に、右足を大きく右斜め前に踏み出し、裸足で立つ。台座は礼盤座。上框と下框の間に胴部を設ける。廻脚付き。/ 品質構造：桧材、一木造。漆箔および彩色。彫眼。頭軀幹部は頭頂から左足（立脚）まで一材より彫出する。右大腿部より足先まで一材を矧ぐ。左肩・左手首、右上膊半ば・右手首で各別材を矧ぐ。台座は木製および彩色。上框（四方組付、天板を張る）と下框（四方組付）の間の四隅に束を立て、側板を嵌め込む。正面側板に菊花唐草文様の透彫り部を貼り付ける。下框の下に廻脚(四方組付)を設ける。

《摩醯首羅菩薩像》

像高：109.8 cm / 形状：一面八臂。髻を結び、頭飾を付ける。髪はまばら彫り・毛筋彫り。三眼を表し、閉口。衣を著け、腰帯を締める。左右真手は屈臂し、胸前で合掌する。軀側に左右各三手の脇手を表す。沓を履き、両足先を開いて立つ。台座は礼盤座。上框と下框の間に胴部を設ける。廻脚付き。/ 品質構造：桧材、寄木造。漆箔および彩色。三眼すべて彫眼。頭軀別材製。頭部は前後二材矧ぎ、襟内で軀部に差首とする。軀幹部は前後二材矧ぎ。両肩外側部に各別材を矧ぐ。左右真手は各前膊部（袖を含む）に一材を矧ぎ、手首先（左右共木か）を各袖口で矧ぐ。左右各脇手は軀側後部に矧ぐ（脱落分は上膊半ばで矧ぎ、手首先まで一材製）。台座は金剛密迹菩薩と同様。

修理前の損傷状況

《二軀共通》

- (1) 経年の埃の付着
- (2) 各所で漆箔・彩色の浮き上がりや剥落の進行
- (3) 矧ぎ目の釘・鍔の腐食、各所で矧ぎ目の緩み
- (4) 台座（札盤座）の構造が脆弱
- (5) 台座表面の漆箔・彩色の浮き、剥落の進行
- (6) 経年の間の部材脱落（一部別保存）

《金剛密迹菩薩像》右肩および両腕の臂釧・腕釧、両足の足釧が付いていたかと思われる箇所表面層が帯状に剥落して下地が露出し、尊容を害している。髻飾り正面の元結び紐の両端が欠失している。天衣の取り付け位置が乱れ、背後に翻る天衣が脱落している。また、右垂下天衣が亡失し、左垂下天衣先端の小矧ぎ材が亡失する。

《摩醯首羅菩薩像》面相部の表面層の剥落が著しく、尊容を害している。特に額部が著しい。頭飾が亡失し、頭飾を打ち付けていた台が地髪部正面に露出している。軀部の前後矧ぎの矧ぎ目が緩み、襟部で隙間を生じている。左右真手(合掌手)の両手首の矧ぎ目が緩み、接合が不安定な状態にある。脇手左右各三手すべてが脱落あるいは亡失し、脱落する脇手三本が台座の上に置かれている。台座正面側板に貼り付ける透彫り部の左側の接合が外れている。

修理の内容

《二軀共通》

- (1) 埃を刷毛・筆等で清掃した。虫卵殻はヘラで除去した。
- (2) 漆箔・彩色の浮きは膠・樹脂等で剥落止を行った。



金剛密迹菩薩像 修理前



金剛密迹菩薩像 修理後

(3) 矧ぎ目の弛む箇所（金剛密迹菩薩の右腕、摩醯首羅菩薩の髻および裾右端）は取り離し後、木部のヤセ等がある場合（摩醯首羅菩薩の裾右端）は薄板で調整し膠あるいは漆で接合した。この際、釘や鋸の腐食箇所は鉄錆を除去し樹脂等で防錆処置、再用不可能な場合は新たな真鍮釘に打ち替えた。なお、再用不可能な鋸は無かった。軀幹部（本軀）の矧ぎ目は点検を行ったところ、取り離しは不要であったため再組立て等の実施はなかった。矧ぎ目が弛むものの布貼りや漆箔が矧ぎ目を渡る箇所（金剛密迹菩薩の右手首・右足柄・背面腰上端）は、それらの保護のため、解体をせずに矧ぎ目の隙間に膠あるいは漆を注入して接合を強化し安定させた。また、矧ぎ目が弛む箇所であるものの取り外しの必要がない箇所（摩醯首羅菩薩の左袖下部材）は、矧ぎ目に麦漆を注入し、腐食する鉄釘を新しい真鍮釘に打ち替えた。

(4) 台座の矧ぎ目が緩む箇所は一旦解体し膠・漆で再接合する計画であったが、修理中の精査により解体せず、腐食する鉄釘を除去し真鍮釘に打ち替え、アクリル樹脂含浸による木質強化を行った。また、内部の構造を強化した。漆箔・彩色の浮きは膠・樹脂等で剥落止めを行った。

(5) 別保存部材は精査し、該当部材（摩醯首羅菩薩の左右脇手第二・三・四）は復位した。

(6) 各修理箇所は古色仕上げを行った。また、金剛密迹菩薩台座裏面に、修理記銘の銅札を取り付けた。

※ 面部の繕いや補彩は行わず、現状維持とした。

《金剛密迹菩薩》

(1) 右肩、臂釧、腕釧、足釧と思われる箇所の表面層の帯状剥落箇所は、検討会での協議の結果、補彩を行わないこととした。

(2) 髻飾り正面の元結い紐両端の欠失箇所は、別保存材を精査したものの適合材が見当たらないため、検討会での協議の結果、補足しないこととした。

(3) 天衣の取付位置の乱れについては、残存天衣を一旦取り離し別保存材を精査したが適合材が



摩醯首羅菩薩像 修理前



摩醯首羅菩薩像 修理後

見当たらなかったため、検討会での協議の結果、残存部が本軀に負荷をかける箇所のみ亡失箇所を補足し、他の亡失箇所は補足を行わなかった。

(4) 上端が欠失する左腰紐下垂部は一旦取り離し、欠失部を桧材で補足し、接着せずに新たな銅線で取り付けた。

(5) 台座廻脚地付部の虫蝕は樹脂・砥の粉・顔料の混合物を充填補修した。また、大きな虫蝕孔は桧材を麦漆で充填補修した。

※ 髻飾り正面の元結い紐両端の欠失箇所は、別保存材に該当部材がなく、補足の根拠となるような修理中の知見も無いため補足を行わないこととした。

※ 修理計画時に亡失と考えられていた右垂下天衣については、本像は軀を大きく捻る形状であり修理中の知見により造像当初から背面に取り付けられていたと考えられることが判明したため、別保存材の復位等の必要がなくなった。

※ 左右天衣先の小矧ぎ材の亡失は検討会での協議の結果、補足は行わないこととした。

《摩醯首羅菩薩》

(1) 面相部表面層の剥落箇所は、検討会での協議の結果、今回は補彩を行わないこととした。

(2) 亡失する頭飾正面の矧ぎ材は、検討会での協議の結果、補足せず矧ぎ面に露出する鉄釘に防錆処置を施した。また、動揺する左端の葉先は、錆びた鉄釘を除去し釘穴を充填し、葉先矧ぎ面の割れを麦漆で接着した上、右葉先と同じ高さの位置に膠で接着し竹釘で固定した。

(3) 軀部の矧ぎ目の緩みは共通仕様のとおりに補修した。

(4) 左右真手(合掌手)の両手首の矧ぎ目は一旦取り離して木部ヤセを薄板で調整の上、漆で再接合した。

(5) 脱落・亡失する脇手は台座上に置かれる三本および別保存部材を精査し適合部材があったため、復位した。検討会での協議の結果、亡失部位(左第二手・四手の一部、右第二手の一部)については補足した。

(6) 頭部の落ち込みは頭部首柄背面を新たに桧材で補足(膠接着)し調整した。また、軀部首柄内部に柄受け、及び納入品の落下防止の受け棚を設けた。

(7) 台座正面側板に貼り付ける透彫り部は一旦取り離し、元の位置に取り付けた。

納入品について

木造二十四善神立像のうち、既に修理を完了した複数像で頭部内から納入品が確認されているため、両像についても納入品の状況を確認した。

《金剛密迹菩薩》頭部固定が安定していたため、保存修理工程上、首柄部を取り離す必然性がなく頭部内の納入品の有無については確認しなかった。

《摩醯首羅菩薩》搬入時に首柄が離れており、頭部内に納入品があることが修理着手前に確認されていた。修理に伴いファイバースコープを用いて内部の様子を確認したところ、後世に取り出し・開封をされた痕跡が無く、造像当初の納入品固定状況がそのまま保存されていることが判明した。修理検討会での決定により、納入品の取り出しや開封を行わずに現状を保存した。また、頭部内納入品の固定状況を確認できるよう、本像の首柄は接着せず、取り外し可能なままとした。



頭部内の確認

(2) 秋葉神社神門 建造物保存修理事業

区 分	浜松市指定有形文化財
種 別	建造物
指定日	昭和 41年 12月 26日
構 造	桁行三間(34.1尺)、梁間二間(19.8尺)、入母屋造平入 金属板(アルミニウム)葺、柱間面積 61.99㎡
補助事業者	宗教法人 秋葉山本宮秋葉神社
所在地	浜松市天竜区春野町領家 841(秋葉山本宮秋葉神社 上社)
事業期間	令和 4年 4月 1日から令和 5年 3月 31日まで 12ヵ月
工事期間	令和 4年 4月 1日から令和 5年 3月 31日まで 12ヵ月
全工事期間	令和 2年 6月から令和 5年 3月まで 34ヵ月
設計監理	特定非営利活動法人 静岡県伝統建築技術協会
施 工	株式会社 天峰建設/屋根葺工事 株式会社 村上社寺工芸社 /柿材製作 有限会社 栗山木工/彫刻修理 澤元彫刻

保存修理の経緯 建造から 200年が経過し、建物のねじれや経年劣化、倒木による損傷がみられたため、適切な保存と見学の安全確保を目的として工事を実施した。3年度間工事の3年度目として実施。

概 要 全解体保存修理

令和 4年度は主に屋根工事及びこれに伴う木工事、装飾彫刻の修復、外構工事、防災電気工事を実施
公開事業等

① 文化財修理工事見学会

実施日 令和 4年 5月 15日(日)

場 所 秋葉山本宮秋葉神社 上社

内 容 こけら葺き屋根の平葺きがほぼ完了した状況や建物取付け前の彫刻の見学、修理関係者による説明。新型コロナウイルスに対応し 20人程度 3グループで実施。

主 催 浜松市/秋葉山本宮秋葉神社

参加者 34人



修理工事見学会

② 修理経過報告展

日 時 令和4年9月13日(火)から
同年9月19日(月・祝)まで(7日間)
場 所 浜松市博物館(中区蛸塚四丁目)
内 容 修理経過のパネル展示、及び、彫刻の展示
主 催 浜松市
入館者 1,500人



修理経過報告展

<ギャラリートーク>

日 時 令和4年9月17日(土)1回目午前10時、2回目午後1時
講 師 彫刻師 澤元 清延さん
参加者 38人

③ 秋葉神社神門 文化財保存修理工事 彫刻展示会

実施日 令和4年11月12日(土)から11月27日(日)まで(16日間)
場 所 秋葉山本宮秋葉神社 上社 社務所内
内 容 保存修理を終えた彫刻(獅子、力人、迦陵頻伽、欄間装飾)の展示
獅子は建物内に組み立て済みのため、展示はなし。
来場者 2,286人

撮影記録 今後の文化財保存活用のため、工事経過写真とは別に、修理後の彫刻を建物取付け前に写真撮影した。

報告書 令和5年度に所有者自主事業で作成

現状変更 ①アルミ板金属葺きの屋根から柿葺き屋根への現状変更
②アルミ板金属仕様の棟と鬼板から木仕様への現状変更

写 真



竣工 後面(西面)



竣工 正面(東面)



修理前 後面(西面)



修理前 正面(東面)



平葺完了



登り軒付



葺甲（みのこう）下地



箱棟下地



四半敷石張り

2 文化財の継承事業

横尾歌舞伎の道具修繕 県指定無形民俗文化財「横尾歌舞伎」継承のため、劣化・変質した衣裳、深編笠、鬘の更新を行った。横尾歌舞伎の芸能に合わせるため、専門業者から購入し、加工・調整を横尾歌舞伎保存会の会員が実施した。

衣裳及び深編笠は、近年上演の多い演目「菅原伝授手習鑑 車引の場」で使用するものを更新した。

三ツ子の童子格子衣裳は、色落ち、綿抜け、縫製のほつれ等の劣化が進行し、公演時の使用に支障が生じていたが、更新により本来の意匠が確保された。

また、梅王丸と桜丸が使用する深編笠は、長年の使用による劣化で藁が抜け、穴が開いてしまっていたが、更新により定期公演での使用が可能となった。

鬘は、「絵本太功記 十段目」において佐藤正清が使用するものを更新した。長年の使用により毛量が減少し下地が露出、毎年変わる演者に合わせた型の調整によるへたりなど、全体的に劣化が進行していたが、本来の鬘に近い形状を業者より購入し、保存会の手によって実際の演目で使用する型に整えた。



深編笠 更新前



深編笠 更新後

令和3年度国補正予算事業 文化芸術振興費補助金(地域文化財総合活用推進事業)

(1) 地域の伝統行事等のための伝承事業

国指定の重要無形民俗文化財等にかかる用具を更新した。

①西浦の田楽

神楽鈴(大) 3振、(小) 3振を新調し、舞手3人が舞う所作の統一性、継承を本来の姿にした。

平釣り太鼓の打面を張替え、胴部の補修を行った。修繕により、劣化による音の変化及び破れの懸念が解消された。

②寺野のひよんどり

長胴太鼓及び平置台を新調した。劣化による表皮部分の傷や剥がれ、ひび割れなどが見られ、一部に打面が薄くなり音の変化、破れ懸念があったが、新調により適切な芸能披露が可能となった。

③川名のひよんどり

神楽鈴(大) 3振、篠笛 10本、揚げ幕提灯 5個、揃い半纏 30着、順の舞装束(狩衣、狩袴、袴下、桂、襷、帯、共足袋、草履) 2人分を新調した。劣化した道具を新調し、不足している装束を揃えたことで、演目の順番に沿った円滑な進行が可能となった。

(2) 地域活性化のための伝統行事等振興事業

国指定以外の無形民俗文化財にかかる用具を更新した。

①滝沢放歌踊保存会

ゆかた 25着を新調、自己負担で5着を追加購入し、必要数 30着を新調した。ゆかた全般的に衣装の劣化、変色が見られ、色が反転していたが、新調により、本来の衣裳に戻し、正しく継承することが出来るようになった。

②横尾歌舞伎保存会

和傘「志ら浪番傘」を新調した。5本とも劣化、変色が著しく一部には破れが見られたが、全て新調し、本来の形状・色に戻すことができ、正しく継承していくことができるようになった。

「菅原伝授手習鑑車引」童子格子綿入着付に劣化が見られたため、新調した。

③龍勢社（犬居自治会）

藍染袴纏を新調した。近年に古くから継承されていた法被が発見されたことから、同じ意匠で作成し、新調した。

④神澤おくない継承同好会

鬼面を新調した。既存の木製面の重量が重く、演者に過度な負担がかかっていたため、レプリカに長期使用に耐える上塗り塗装を施したものを購入した。演者の負担が軽減され、本来の所作を通して出来るようになった。

⑤息神社田遊祭保存会

レンタル品で代用していた神楽鈴（巻立型）を新調した。正規の用具として継続使用が可能となり、正しく継承していくことが出来るようになった。



和傘 更新後



藍染袴纏 更新後



鬼面 更新後



神楽鈴 更新後

3 しずおか遺産の認定

しずおか遺産制度の概要 ストーリーで文化財を紹介することで、静岡県内の歴史文化に対する県民の理解を深めるとともに魅力ある歴史文化資源として磨き上げ、観光利用につなげることを目的に、「日本遺産」の県内版として、令和4年度に県が創設した制度である。

しずおか遺産「秋葉信仰と街道」の認定 浜松市は代表市となり、関連7市町(湖西市、磐田市、袋井市、森町、掛川市、菊川市、牧之原市)とともに、「秋葉信仰と街道」を申請し、しずおか遺産認定審査会の審議を経て、令和5年1月24日付けで認定された。

申請概要

タイトル	秋葉信仰と街道（あきはしんこうとかいどう）
ストーリーの概要	秋葉街道は、人々の祈りが息づく歴史文化の十字路であり、塩の道と呼ばれる信州との南北交易の道でもあった。街道を辿る旅は、多彩な歴史の積み重なりが体感できる。古来、静岡県の奥地の山々は、神々が宿る霊場であった。天竜川を遡った標高866m「秋葉山」もその一つである。「秋葉山」は戦国の世には、武運長久の御利益を求めた武将たちの信仰を集め、平和が訪れた江戸時代には、火防の効力を期待する民衆の信仰を集めた。江戸をはじめとする各地からの参詣者が辿った道は「秋葉街道」と呼ばれ、道沿いや集落の中には、秋葉灯籠が建てられた。現在も火を灯す灯籠は、祈りの姿を今に伝える。南北を結ぶ道は、塩をはじめとした交易を通じ海岸地域と山間地域の人々を結び付けた。遠江北部と奥三河、南信州を繋ぐ道筋に伝わる伝統芸能が持つ共通性は、古来からの人々の交流を物語る。



坂下宿のまちなみと参道



秋葉神社の火祭り

構成文化財 「秋葉信仰と街道」を構成する文化財は以下のとおり。

No.	文化財の名称：所在地	No.	文化財の名称：所在地	No.	文化財の名称：所在地
1	秋葉神社：浜松市天竜区	17	秋葉灯籠(市野町の燈籠)：浜松市東区	33	西渡のまちなみ：浜松市天竜区
2	秋葉神社神門：浜松市天竜区	18	秋葉灯籠(見付の燈籠)：磐田市	34	三倉のまちなみ：森町
3	銘安繩、銘弘次、銘来国光：浜松市天竜区	19	秋葉灯籠(大江の燈籠)：牧之原市	35	和田ノ谷のまちなみ：浜松市天竜区
4	秋葉寺：浜松市天竜区	20	秋葉灯籠(長溝の燈籠)：袋井市	36	若身のまちなみ：浜松市天竜区
5	可睡齋：袋井市	21	秋葉灯籠(河東の燈籠)：菊川市	37	坂下宿のまちなみと参道：浜松市天竜区
6	秋葉神社火防祭：浜松市天竜区	22	秋葉灯籠(細谷の燈籠)：掛川市	38	犬居城跡：浜松市天竜区
7	秋葉寺火祭り：浜松市天竜区	23	城下の鞆堂：森町	39	山住神社：浜松市天竜区
8	秋葉街道(掛川宿-森-秋葉山ルート)：掛川市・森町・浜松市天竜区	24	船町の鞆堂：湖西市	40	水窪じゃがた：浜松市天竜区
9	秋葉街道(御油宿-熊-秋葉山ルート)：浜松市天竜区	25	上島新田の鞆堂：浜松市浜北区	41	つぶ食：浜松市天竜区
10	秋葉街道(浜松宿-秋葉山ルート)：浜松市中区・浜北区・天竜区	26	高木の鞆堂：磐田市	42	西浦の田楽：浜松市天竜区
11	小松秋葉神社二の鳥居：浜松市浜北区	27	遠江地域の秋葉灯籠・鞆堂：関連全市	43	川合花の舞：浜松市天竜区
12	秋葉街道(南信-水窪-秋葉山ルート)：浜松市天竜区	28	秋葉さんの火祭り：浜松市浜北区・湖西市	44	光明寺：浜松市天竜区
13	青崩峠：浜松市天竜区	29	塩の道起点：牧之原市	45	奥山半僧坊(方広寺)：浜松市北区
14	旧東海道袋井宿：袋井市	30	塩町：掛川市	46	見付天神：磐田市
15	旧東海道見付宿：磐田市	31	塩買坂：菊川市	47	尊永寺(法多山)：袋井市
16	旧東海道新居宿：湖西市	32	水窪の集落：浜松市天竜区	48	油山寺：袋井市

4 浜松地域遺産の認定

浜松地域遺産認定制度の概要 浜松市は従来の国・静岡県・浜松市の指定文化財、また国の登録文化財という文化財保護制度とは別に、平成28年度から、地域とともにゆるやかな保護・活用をはかる制度として「浜松地域遺産」の認定を開始した。毎年度、地域の団体から推薦いただき、その年度中に浜松市教育委員会が認定する。市域全体で見れば指定文化財ほど知られていないとしても、それぞれの地域で長く親しまれ愛護されてきた貴重な歴史文化資源を「地域の宝（地域遺産）」として認定する制度である。指定文化財におけるすべての種別を対象とするが、市独自に近代化遺産や伝承地・伝統的生活文化なども取り上げて、幅広く認定するゆるやかな制度としている。

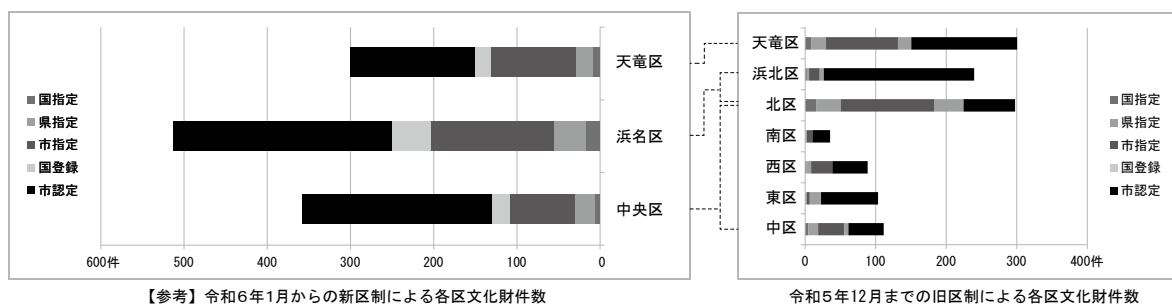
令和元年度からは、改正文化財保護法を受けて、浜松市も文化財保存活用地域計画を作成し、令和3年7月に国の認定を受けた。また歴史的風致維持向上計画も令和4年度3月に認定された。地域遺産の認定は、両計画のための市内の未指定文化財の悉皆調査としても反映されている。これまでに認定した文化財のうちから、将来の新たな指定文化財候補が見出されることは十分にありうる。

浜松地域遺産認定制度の経過 平成28年度の7月から10月まで募集した第1期に、91件を認定した。ついで29年度は101件、30年度に50件、令和元年度に66件、2年度に147件を認定した。

令和3年度には90件を認定し、令和4年度も6月1日から9月30日を募集期間とし、自治会や郷土史研究会を中心に地域の団体からの推薦を受けて、114件を新たに認定した。合わせて過年度の認定文化財への構成要素の追加が3件あった。制度開始以来7年間の総数は、659件となった。令和5年度以降も募集と認定を継続する予定である。地域遺産への認定を契機に、地域による活用の気運が高まったり、他地域との交流が広がったりする事例が増加している。

平成17年に12市町村が合併した浜松市は、政令市施行とともに7つの区が成立した。この区別に見れば従来の指定文化財は、市北半にあたる北区と天竜区に集中し、浜北区以南の市南半には比較的少なかった。この傾向は国の登録文化財を含めても顕著であったが、市南部は戦災の影響が大きかったとはいえ、未指定の文化財は数多く埋もれているものと推定された。この7年間に認定された文化財の所在先を見ると、浜北区や東区、南区など従来の指定文化財が少なかった地域を含めて積極的な推薦が得られ、各区の文化財が再認識されている（下図、右）。

なお、令和6年1月1日から、旧来の7区が3区に再編された。天竜区はそのままひきつがれたが、旧浜北区と北区（三方原地区を除く）は浜名区、中区・東区・西区・南区と北区のうち三方原地区は、中央区として合区となった。これにより、とりわけ市南部の旧各区の文化財件数が相対的に少なかったものが、天竜区を上回る件数にまとめられた。地域遺産の認定数で見れば、天竜区よりも多い区が成立した。（下図、左）

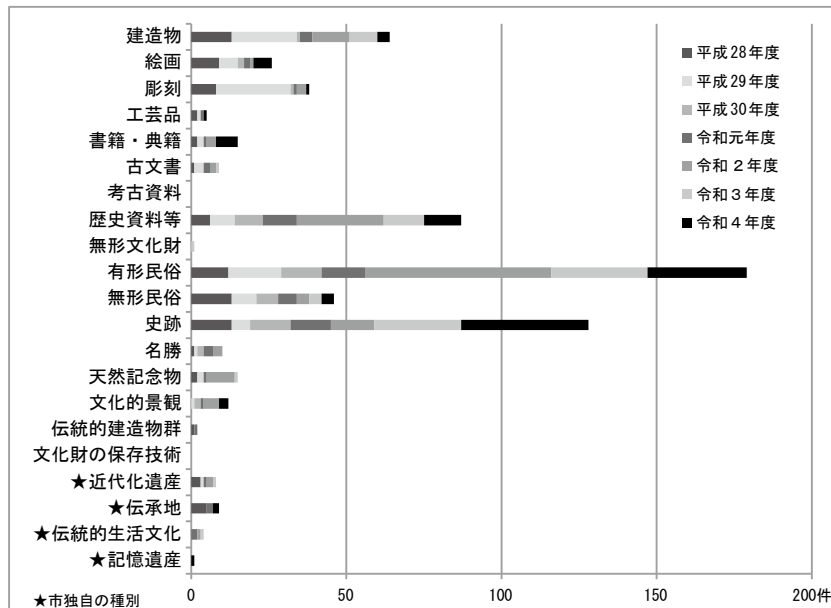


【参考】令和6年1月からの新区制による各区文化財件数

令和5年12月までの旧区制による各区文化財件数

浜松市各区分 指定文化財等件数（令和5年3月30日現在）

令和4年度の認定文化財の特徴 種別ごとに見れば、前年度と同様に、歴史資料、有形民俗文化財、史跡などで認定件数が増加しているのは、令和4年度でも顕著な傾向である（下図）。



種別ごとの認定文化財件数

また4年度には、「神久呂地区の民話」が認定文化財独自の種別としている記憶遺産に推薦されて初めて認定を得た。考古資料と文化財の保存技術は、7年間でまだ推薦も認定もない。



令和4年度認定の例
西山町水神社境内(史跡)

今後の課題 認定された地域遺産は、翌年度に浜松市地域遺産センターにて開催される文化財速報展にて概要を紹介してきた。本誌でも年次報告している。推薦者や地域団体等により改めて認定文化財の紹介や活用がはかられているものも増加しているが、市として659件という個々の特色を十分に紹介できるところには至っていない。

浜松市は、令和4年度末現在で、国・県・市の指定438件、国の登録88件と指定・登録文化財を漸増してきている。認定文化財は制度導入以後の7年間でそれらの合計件数をようやく上回るころまできた。浜松市文化財保存活用地域計画や歴史的風致維持向上計画には、認定文化財も関連文化財群、保存活用区域として抽出している。指定文化財等も含めた重点的な精査も期待されている。また、それらに関連する未指定文化財についても、さらなる掘り起こしを続けていきたい。

令和4年度 浜松地域遺産（浜松市認定文化財）一覧

番	区	町	名称	種別	備考	認定番号
1	中区	松城町	日本博覧図静岡県初篇	歴史資料	(中央図書館)	546
2	中区	松城町	旧浜松市歌森鴎外原歌詞書簡	歴史資料	(中央図書館)	547
3	中区	松城町	衛生のうた(ちらし)	歴史資料	(中央図書館)	548
4	中区	高林四丁目	鞍智逸平夫妻の肖像写真	歴史資料		549
5	中区	高林四丁目	渡辺素夫の肖像写真	歴史資料		550
6	東区	西塚町	長久寺阿弥陀来迎図	絵画		551
7	東区	西塚町	長久寺前卓	工芸品		554
8	東区	西塚町	長久寺釈迦如来坐像	彫刻		555
9	東区	西塚町	長久寺涅槃図	絵画		556
10	東区	西塚町	長久寺十六善神図	絵画		558
11	東区	西塚町	尾竹竹坡「日の出の図」	絵画		553
12	東区	西塚町	間宮英宗(まみやえいじゅう)墨跡	書跡		552
13	東区	西塚町	間宮英宗画賛鐘馗図	書跡		557
14	東区	西塚町	足利紫山扁額「以德報徳」	書跡		559
15	東区	西塚町	河野宗寛画賛梅花図	書跡		560

番	区	町	名称	種別	備考	認定番号
16	西区	神原町	一等三角点（三方原基線南端）	建造物	☆	567
17	西区	舞阪町	旧舞坂本陣扁額（阿部正弘筆）	書跡		574
18	西区	舞阪町	旧舞坂本陣扁額（井上馨筆）	書跡		575
19	西区	志都呂町	旧志都呂陣屋関係資料 旧志都呂陣屋の高札と欄間	歴史資料	2点	569
20	西区	佐浜町	内山又十及び竹蔵頌徳碑	歴史資料	☆石碑3点	561
21	西区	雄踏町山崎	西光寺聖観音菩薩立像	有形民俗文化財		572
22	西区	雄踏町	西光寺三十三観音像	有形民俗文化財		573
23	西区	雄踏町	妙楽寺聖観音菩薩坐像	有形民俗文化財		570
24	西区	雄踏町	妙楽寺三十三観音像	有形民俗文化財		571
25	西区	神ヶ谷町	西ノ谷の役行者像	有形民俗文化財		565
26	西区	西鴨江町	西見寺の初午	無形民俗文化財		568
27	西区	神ヶ谷町	賀久留神社御旅所	史跡	☆	563
28	西区	西山町	水神社境内	史跡	☆	562
29	西区	大久保町	大久保陣屋跡	史跡	☆	566
30	西区	神久呂地区	神久呂の民話	記憶遺産		564
31	南区	堤町	龍吐水（りゅうどすい）	歴史資料		576
32	北区	細江町小野	旧軽便鉄道奥山線井伊谷川橋脚	建造物	☆	580
33	北区	細江町気賀	法源禪師扁額「水岩山」	書跡	☆（姫街道銅鐸資料館）	584
34	北区	細江町気賀	細江八景の扁額	書跡		595
35	北区	細江町中川	田米寺橋南の道標	歴史資料	☆	597
36	北区	細江町中川	三方ヶ原の戦い史跡碑	歴史資料	☆	601
37	北区	細江町気賀	細江八景の句碑	有形民俗文化財	☆	594
38	北区	細江町伊奈	伊奈の弘法大師像	有形民俗文化財		582
39	北区	細江町伊目	伊目の秋葉山常夜灯	有形民俗文化財	☆	583
40	北区	細江町小野	水岩山疣観音と石仏群	有形民俗文化財	☆	579
41	北区	細江町気賀	千日堂阿弥陀如来坐像	有形民俗文化財		588
42	北区	細江町気賀	千日堂聖観音立像	有形民俗文化財		589
43	北区	細江町気賀	老ヶ谷の六地藏	有形民俗文化財	☆	590
44	北区	細江町中川	田米寺橋南の秋葉山常夜灯	有形民俗文化財	☆	598
45	北区	細江町伊目	伊目の精霊流し	無形民俗文化財		581
46	北区	細江町気賀	千日堂の念仏	無形民俗文化財		587
47	北区	細江町気賀	獄門囀	史跡	☆	591
48	北区	細江町気賀	気賀宿の櫛形遺構	史跡	☆	592
49	北区	細江町気賀	蘭草神社	史跡	☆	593
50	北区	細江町中川	宿名の六地藏（雲泉寺跡）	史跡	☆	599
51	北区	細江町中川	井伊直親の墓	史跡	☆	600
52	北区	三幸町	三方原開拓の区画	文化的景観	☆	578
53	北区	細江町中川	中川の条里制遺称	文化的景観	☆	596
54	北区	細江町	引佐細江とみをつくし	文化的景観	☆	586
55	北区	初生町	信玄街道	伝承地	☆	577
56	北区	細江町気賀	犬くぐり道	伝承地	☆	585
57	浜北区	宮口	恩光寺七面堂天井の花鳥画	絵画		627
58	浜北区	尾野	行幸記念碑	歴史資料	☆	624
59	浜北区	於呂	於呂の馬頭観音像	有形民俗文化財		606
60	浜北区	根堅相野	根堅相野の地藏菩薩像	有形民俗文化財		615
61	浜北区	新原	新原の馬頭観音像群 秋葉辻の馬頭観音像ほか	有形民俗文化財	4点	629
62	浜北区	大平	大平の石造仏 坂下の道祖神ほか	有形民俗文化財	8点	634
63	浜北区	大平大沢	カラネコ様（唐猫様）石碑	有形民俗文化財		635
64	浜北区		大平伏見稲荷	有形民俗文化財		636
65	浜北区	大平	大平の秋葉山常夜灯 六所神社、大澤組の秋葉山常夜灯	有形民俗文化財	2点 ☆	637
66	浜北区	灰木	灰木の秋葉山常夜灯	有形民俗文化財		642
67	浜北区	根堅	根堅山住神社御旅所	有形民俗文化財	☆	617
68	浜北区	灰木	灰木のアンデラ	有形民俗文化財		641

番	区	町	名称	種別	備考	認定番号
69	浜北区	根堅	根堅祭典	無形民俗文化財		616
70	浜北区	大平	大平六所神社境内 姥神様	史跡	境内社含む ☆	632
71	浜北区	於呂	西光院境内	史跡	☆	603
72	浜北区	於呂	於呂神社境内	史跡	☆	604
73	浜北区	於呂	於呂神社内古墳	史跡		605
74	浜北区	根堅	安泰寺境内	史跡	☆	607
75	浜北区	根堅	龍泉寺境内	史跡	☆	608
76	浜北区	根堅相野	松杉神社境内	史跡		609
77	浜北区	根堅大門	雲岩寺六所神社境内	史跡	☆	610
78	浜北区	根堅大門	根堅山住神社境内	史跡	☆	611
79	浜北区	根堅	田村将軍神社境内	史跡	☆	612
80	浜北区	根堅	金城稻荷神社境内	史跡	☆	613
81	浜北区	根堅	毘沙門宮跡	史跡		614
82	浜北区	根堅	根堅遺跡	史跡		618
83	浜北区	根堅	岩水寺石灰採掘工場跡	史跡		619
84	浜北区	根堅	岩水寺遊園地跡	史跡		620
85	浜北区	根堅	北谷遺跡	史跡		621
86	浜北区	尾野	大宝寺境内	史跡	☆	622
87	浜北区	尾野	八面神社境内	史跡	☆	623
88	浜北区	尾野	温故塾跡地	史跡		625
89	浜北区	中瀬	中瀬招魂社境内	史跡		602
90	浜北区	新原東原	津島神社境内 彦助神社	史跡	境内社含む ☆	628
91	浜北区	新原本村	瑞應寺境内	史跡	☆	630
92	浜北区	大平	宝幢寺境内 東山観音堂	史跡	境内社含む ☆	631
93	浜北区	大平坂下	須部玉稻荷神社境内	史跡		633
94	浜北区	灰木	灰木六所神社境内	史跡		640
95	浜北区	堀谷	徳泉寺境内	史跡	☆	638
96	浜北区	堀谷東谷	堀谷洞窟遺跡	史跡		639
97	浜北区	高菌	學園寺境内	史跡	☆	645
98	浜北区	上善地	龍守院境内	史跡		647
99	浜北区	横須賀	玉脇稻荷神社境内	史跡		643
100	浜北区	横須賀	横須賀若宮神社境内	史跡	☆	644
101	浜北区	高菌	高菌八幡神社境内	史跡	☆	646
102	浜北区	宮口	恩光寺境内	史跡	☆	626
103	天竜区	春野町	瑞雲院の宝篋印塔	建造物	☆	656
104	天竜区	佐久間町浦川	錦橋（きんばし）	建造物	☆	659
105	天竜区	春野町	大居の石像水難慰霊地藏	歴史資料	☆	648
106	天竜区	春野町	瑞雲院の石造地藏群 六地藏、勝軍地藏ほか	有形民俗文化財	4点 ☆	653
107	天竜区	春野町	小胡桃の石像延命地藏	有形民俗文化財		649
108	天竜区	春野町	野尻薬師堂の石造地藏	有形民俗文化財	☆	650
109	天竜区	春野町	意昌庵の石造地藏群 延命地藏立像、延命地藏坐像	有形民俗文化財	2点 ☆	651
110	天竜区	春野町	意昌庵の青面金剛像	有形民俗文化財	☆	652
111	天竜区	春野町	瑞雲院の石像聖観音	有形民俗文化財	☆	654
112	天竜区	春野町	瑞雲院の石像青面金剛像	有形民俗文化財	☆	655
113	天竜区	春野町	瑞雲院の石造不動明王像	有形民俗文化財	☆	657
114	天竜区	春野町	勝坂清水神社の石造薬師如来立像	有形民俗文化財	☆	658

過年度認定分に追加

令和元	東区	有玉北町	近世近代浜松関係資料	歴史資料	旅行案内ほか追加	248
令和2	浜北区	北浜地区	北浜の道標群	歴史資料	西美園を追加	370
令和2	浜北区	下堀谷	堀谷の秋葉山常夜灯	有形民俗文化財	下堀谷を追加 ☆	413
令和3	北区	都田町	河西訓導殉職関係資料	歴史資料	殉職之碑を追加 ☆	470

☆外観など見学可

【第2部 埋藏文化財調査報告】

第1章 埋蔵文化財調査の概要

浜松市では、令和4年度に本発掘調査をはじめとした、埋蔵文化財発掘調査に係る事業を実施した。各事業における実施件数は、以下のとおりである。

(1) 埋蔵文化財本発掘調査事業

開発に伴う事前の発掘調査 6件（内訳は次のとおり）

- ・市の直営による本発掘調査 6件 浜松城跡 44次（中区元城町）ほか

(2) 埋蔵文化財試掘・確認調査、工事立会い等調査事業

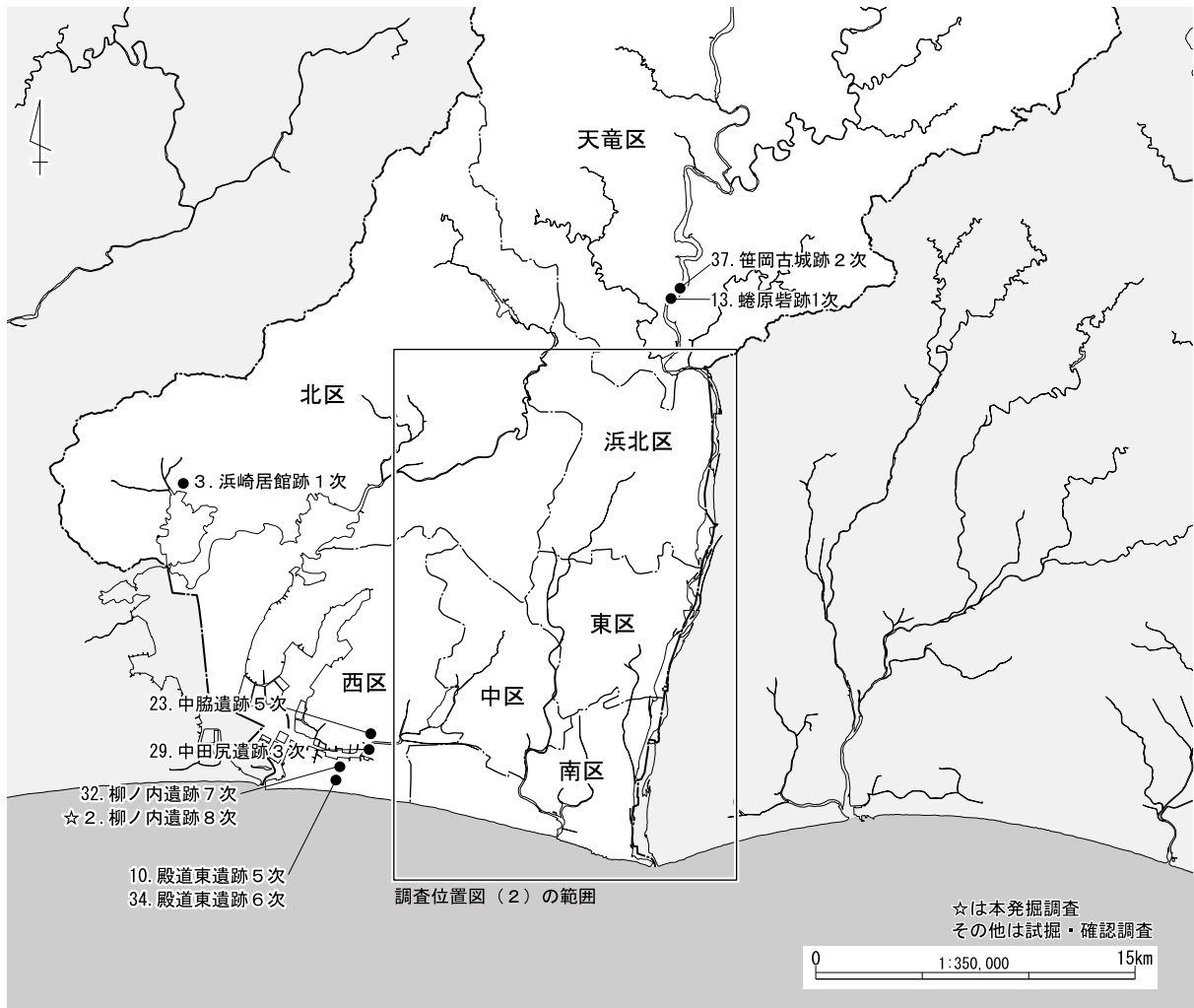
①調査 39件（内訳は次のとおり）

- ・開発に伴う試掘確認調査 36件 南屋敷遺跡 4次・石岡遺跡 6次（北区細江町三和）ほか

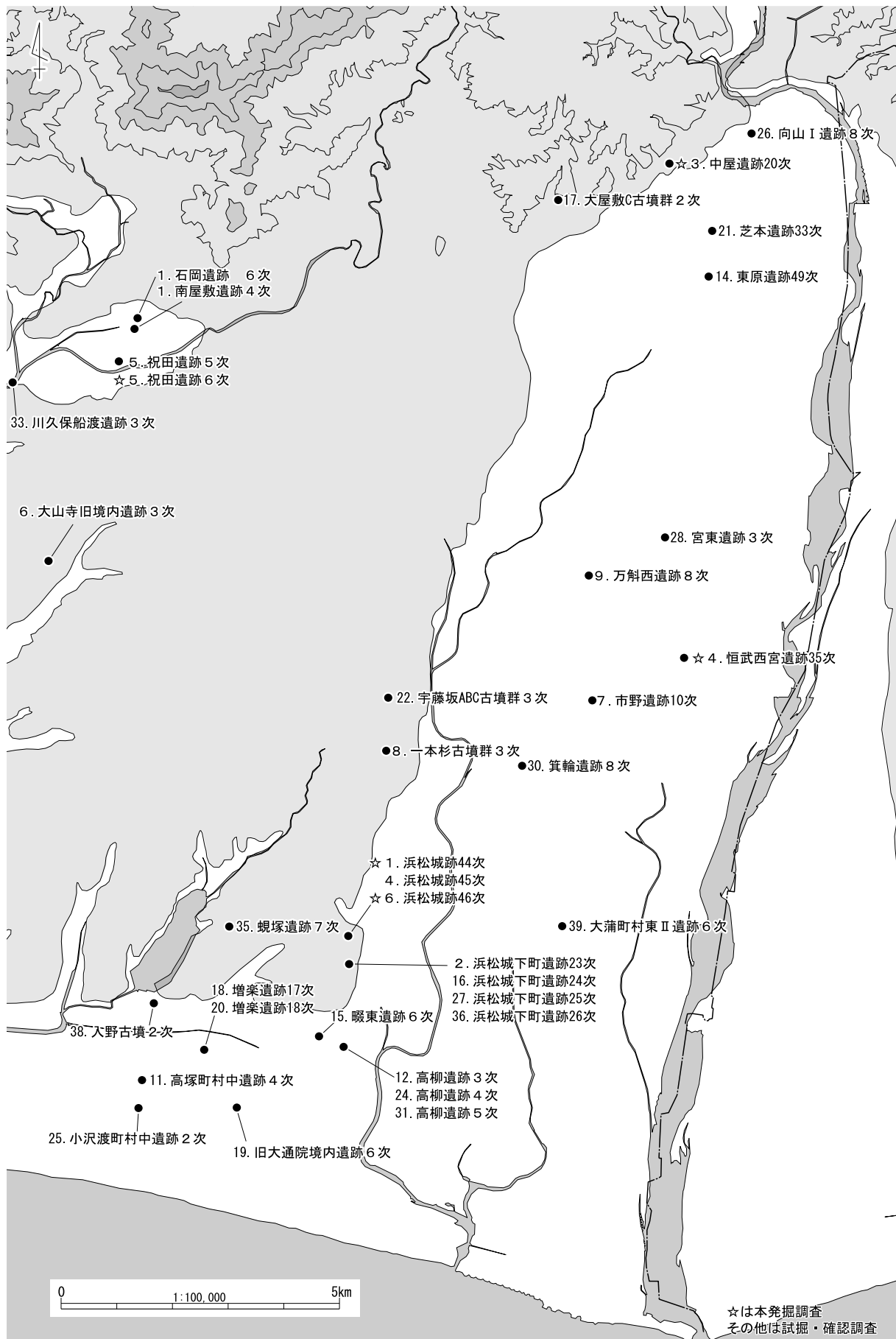
- ・保存目的の確認調査 3件 浜松城跡 45次（中区元城町）ほか

②開発に伴う工事立会い 49件 東原遺跡（浜北区新原）ほか

③踏査 3件 浜名湖湖底（西区古人見町）ほか



調査位置図 (1)



調査位置図 (2)

令和4年度本発掘調査一覧

No.	遺跡名	所在地	調査月日	調査原因	区分	調査面積 (約㎡)	掲載頁
1	浜松城跡 44次	中区元城町	2022年4月25日、27日、5月11日	下水道管理設	現地作業	35	41
2	柳ノ内遺跡 8次	西区馬郡町	2022年10月3日	下水道管理設	現地作業	6.3	41
3	中屋遺跡 20次	浜北区根堅	2022年12月19日	道路改良	現地作業	2	42
4	恒武西宮遺跡 35次	東区恒武町	2023年1月10日～1月24日	駐車場整備	現地作業	285	42
5	祝田遺跡 6次	北区細江町中川	2023年1月26日～4月21日	下水道管理設	現地作業	75	43
6	浜松城跡 46次	中区元城町	2023年3月22日～6月8日	下水道管理設	現地作業	34	43



浜松城跡 44次 調査区1 完掘状況



浜松城跡 44次 調査区2 土層堆積状況



中屋遺跡 20次 出土遺物



恒武西宮遺跡 35次 作業状況



祝田遺跡 6次 調査区2 作業状況



浜松城跡 46次 調査区3 北半土層堆積状況

令和4年度試掘・確認調査一覧

No.	遺跡名	所在地		調査原因	区分	調査面積 (約m ²)	掲載頁
1	南屋敷遺跡4次・石岡遺跡6次	北区細江町三和	2022年4月25日、26日	下水道管理設	現地作業	12	44
2	浜松城下町遺跡23次	中区鹿谷町	2022年4月26日	個人住宅建設	現地作業	6.3	44
3	浜崎居館跡1次	北区三ヶ日町三ヶ日	2022年5月9日	介護施設建設	現地作業	36	45
4	浜松城跡45次	中区元城町	2022年5月16日～19日	公園改修	現地作業	24	46
5	祝田遺跡5次	北区細江町中川	2022年5月16日～31日	下水道管理設	現地作業	36	48
6	大山寺旧境内遺跡3次	西区大山町	2022年5月26日	工場建設	現地作業	16	48
7	市野遺跡10次	東区市野町	2022年6月8日	店舗兼個人住宅建設	現地作業	11.5	49
8	一本杉古墳群3次	中区幸四丁目	2022年6月8日、9日	宅地造成	現地作業	49	50
9	万斛西遺跡8次	東区中郡町	2022年6月14日	集合住宅建設	現地作業	4.25	51
10	殿道東遺跡5次	西区馬郡町	2022年6月27日	集合住宅建設	現地作業	10	51
11	高塚町村中遺跡4次	南区高塚町	2022年6月30日	個人住宅建設	現地作業	8	52
12	高柳遺跡3次	中区西浅田一丁目	2022年7月4日	集合住宅建設	現地作業	32	52
13	蛭原砦跡1次	天竜区二俣町二俣	2022年7月11日、13日	市営住宅解体	現地作業	130	53
14	東原遺跡49次	浜北区於呂	2022年7月20日	個人住宅建設	現地作業	18	54
15	暇東遺跡6次	中区森田町	2022年7月20日、21日	店舗建設	現地作業	88	54
16	浜松城下町遺跡24次	中区常盤町	2022年7月25日	集合住宅建設	現地作業	12	56
17	大屋敷C古墳群2次	浜北区宮口	2022年7月25日～27日	道路拡幅	現地作業	20	57
18	増楽遺跡17次	南区若林町	2022年8月9日	宅地造成	現地作業	12	59
19	旧大通院境内遺跡6次	南区新橋町	2022年8月19日	災害用トイレ設置	現地作業	4.05	59
20	増楽遺跡18次	南区増楽町	2022年8月23日	事務所建設	現地作業	7.5	60
21	芝本遺跡33次	浜北区於呂	2022年8月25日	道路建設	現地作業	33	60
22	宇藤坂ABC古墳群3次	東区有玉西町	2022年8月26日、30日	水道管補強	現地作業	12	61
23	中脇遺跡5次	西区志都呂町	2022年9月12日	個人住宅建設	現地作業	5	61
24	高柳遺跡4次	中区西浅田二丁目	2022年9月16日	集合住宅建設	現地作業	24	62
25	小沢渡町村中遺跡2次	南区小沢渡町	2022年10月6日	個人住宅建設	現地作業	3	63
26	向山I遺跡8次	浜北区於呂	2022年10月13日	個人住宅建設	現地作業	6	63
27	浜松城下町遺跡25次	中区元魚町	2022年10月18日、11月28日	集合住宅建設	現地作業	8	64
28	宮東遺跡3次	浜北区寺島	2022年11月17日	事務所建設	現地作業	10	65
29	中田尻遺跡3次	西区篠原町	2022年12月12日	送電線建設	現地作業	4	65
30	箕輪遺跡8次	東区小池町	2022年12月14日、15日	集合住宅建設	現地作業	16	66
31	高柳遺跡5次	中区西浅田二丁目	2022年12月19日	集合住宅建設	現地作業	12	67
32	柳ノ内遺跡7次	西区馬郡町	2022年12月20日	宅地分譲	現地作業	44	68
33	川久保船渡遺跡3次	北区細江町中川	2023年1月12日	個人住宅建設	現地作業	7	69
34	殿道東遺跡6次	西区馬郡町	2023年1月17日	宅地造成	現地作業	16	69
35	蜷塚遺跡7次	中区蜷塚四丁目	2023年2月6日～24日	史跡整備計画策定	現地作業	1	70
36	浜松城下町遺跡26次	中区田町	2023年2月27日、28日	集合住宅建設	現地作業	36	71
37	笹岡古城跡2次	天竜区大谷	2023年3月14日	送電線建設	現地作業	6	72
38	入野古墳2次	西区入野町	2023年3月22日～24日	範囲確認	現地作業	9	73
39	大蒲町村東II遺跡6次	東区大蒲町	2023年3月30日	集合住宅建設	現地作業	10	74

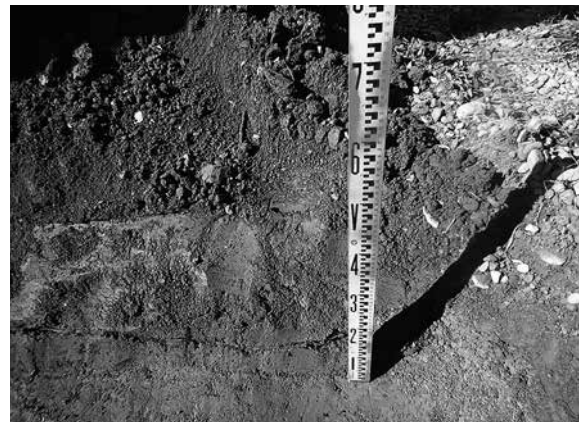
令和4年度工事立会い一覧

No.	遺跡名	所在地	調査月日	検出遺構／出土遺物	掲載頁
1	東原遺跡	浜北区新原	2022年4月19日	なし	—
2	浜松城下町遺跡	中区塩町	2022年4月25日	なし	—
3	堤花遺跡	北区細江町中川	2022年4月25日	なし	—
4	浜松城跡	中区元城町	2022年5月9日～8月1日	なし	—
5	伊左地町前原遺跡	西区伊左地町	2022年5月12日	なし	—
6	天王町村東遺跡	東区天王町	2022年5月12日	なし	—
7	恒武西宮遺跡	東区恒武町	2022年5月12日	なし	—
8	東原遺跡	浜北区於呂	2022年5月12日	弥生土器	—
9	正楽寺岡遺跡	北区引佐町井伊谷	2022年5月13日	なし	—
10	浜松城下町遺跡	中区鹿谷町	2022年5月16日	なし	—
11	番剛寺遺跡	北区三ヶ日町三ヶ日	2022年5月30日	なし	—
12	角江遺跡	西区入野町	2022年6月13日	なし	—
13	浜松城跡、浜松城内古墳	中区元城町	2022年7月16日	なし	—
14	山ノ花遺跡	東区笠井新田町	2022年7月28日	なし	—
15	笠井中組遺跡	東区笠井町	2022年8月2日	なし	—
16	大蒲町村東Ⅱ遺跡	東区大蒲町	2022年8月9日	なし	—
17	井伊氏館跡	北区引佐町井伊谷	2022年8月18日	土師器、土師質土器	75
18	都田町本村遺跡	北区都田町	2022年8月24日	なし	—
19	中屋遺跡	浜北区根堅	2022年9月26日	なし	—
20	二俣城跡	天竜区二俣町二俣	2022年9月29日	なし	—
21	柳ノ内遺跡	西区馬郡町	2022年9月30日	なし	—
22	三和町村前遺跡	南区三和町	2022年10月18日	なし	—
23	大明神遺跡	北区引佐町井伊谷	2022年10月27日	なし	—
24	久保田遺跡	天竜区春野町宮川	2022年11月10日	なし	—
25	大屋敷B古墳群	浜北区宮口	2022年11月14日	なし	—
26	高塚町村中遺跡	南区高塚町	2022年11月16日	なし	—
27	御堂平Ⅰ遺跡	天竜区春野町領家	2022年11月16日	なし	—
28	笹岡古城跡	天竜区二俣町二俣	2022年11月29日	なし	—
29	笠井下組遺跡	東区笠井町	2022年12月2日	須恵器、土師器、陶器	75
30	大橋前遺跡	南区芳川町	2022年12月2日	なし	—
31	浜松城下町遺跡	中区平田町	2022年12月15日	なし	—
32	若林町村西遺跡	南区若林町	2022年12月16日	なし	—
33	芝本遺跡	浜北区於呂	2022年12月19日	弥生土器	76
34	笠井若林遺跡	東区笠井町	2022年12月20日、2023年1月6日	土師質土器	76
35	芝本遺跡	浜北区於呂	2023年1月6日	なし	—
36	西脇前遺跡	東区市野町	2023年1月11日	なし	—
37	浜松城下町遺跡	中区高町	2023年1月16日	なし	—
38	国方遺跡	西区篠原町	2023年1月31日	なし	—
39	大蒲町村東Ⅱ遺跡	東区大蒲町	2023年2月7日	なし	—

No.	遺跡名	所在地	調査月日	検出遺構／出土遺物	掲載頁
40	万斛西遺跡	東区中郡町	2023年2月9日	須恵器	—
41	大門西遺跡	浜北区根堅	2023年2月28日	なし	—
42	若林町村西遺跡	南区若林町	2023年3月6日	なし	—
43	芝本遺跡	浜北区於呂	2023年3月10日	弥生土器	77
44	山寺野遺跡	南区飯田町	2023年3月14日	なし	—
45	浜松城跡	中区元城町	2023年3月15日	なし	—
46	下滝遺跡、下滝古墳群	東区半田山六丁目	2023年3月16日	なし	—
47	篠原町西前遺跡	西区篠原町	2023年3月28日	なし	—
48	浜松城下町遺跡	中区尾張町	2023年3月28日	なし	—
49	篠原町西前遺跡	西区篠原町	2023年3月30日	なし	—



井伊氏館跡 SP02 検出状況



笠井下組遺跡 土層堆積状況



芝本遺跡 土層堆積状況



笠井若林遺跡 立会箇所2 土層堆積状況

令和4年度踏査一覧

No.	遺跡名	所在地	調査月日	検出遺構／出土遺物	掲載頁
1	浜名湖湖底	西区古人見町	2022年6月15日	縄文土器	—
2	東ノ谷瓦窯跡隣接地	浜北区尾野	2022年8月4日	平瓦、軒平瓦	78
3	勝栗山墳墓	浜北区根堅	2022年10月24日	なし	—

第2章 本発掘調査概要

はままつじょうあと 1 浜松城跡 44次

所在地 中区元城町 114-1 地先
調査期間 2022年4月25日、27日、5月11日
調査原因 下水道管埋設
調査面積 35 m²
調査概要 調査区1で近代以降の陶磁器が出土した。また、調査区3において検出した堀の埋土内から15世紀後半～16世紀前半と考えられる土師質土器（内耳鍋）の破片が出土した。調査区3の堀は、27次調査で検出したSD02の一部と考えられる。

詳細は第4章1（79頁）に掲載。



位置図 (2,500分の1)



調査区1 土層堆積状況



主な出土遺物

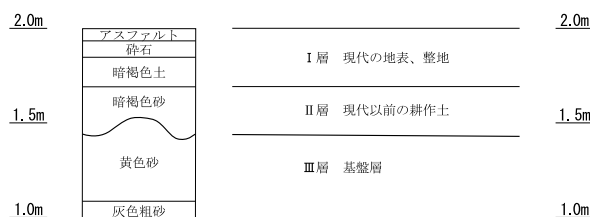
やなぎのうちいせき 2 柳ノ内遺跡 8次

所在地 西区馬郡町 1271-2 地先
調査期間 2022年10月3日
調査原因 下水道管埋設
調査面積 6.3 m²
調査概要 調査対象地で確認した土層の堆積状況は、地表から順に、Ⅰ層：現代の道路と整地土、Ⅱ層：現代～近代の耕作土（褐色砂質土）、Ⅲ層：基盤層（黄色砂・灰色粗砂）である。基盤層の直上まで近現代の耕作土が及んでおり調査対象地内において遺構は認識できなかった。また、遺物も出土しなかった。

調査対象地では、遺構や遺物は認識できなかったが、調査対象地の東側や北東側の畑地には土師器や須恵器、灰釉陶器、山茶碗等、古代から中世を中心とした時期の遺物が濃密に散布しており、遺跡の範囲内と捉えられる。



位置図 (2,500分の1)

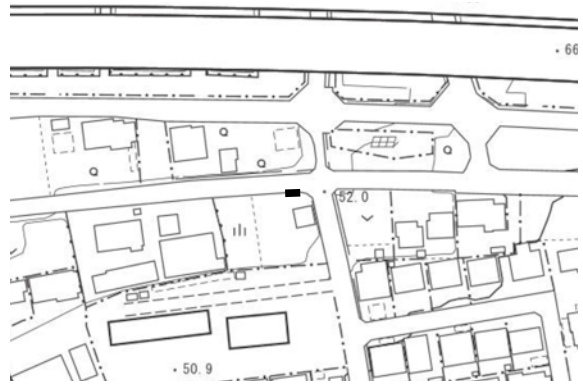
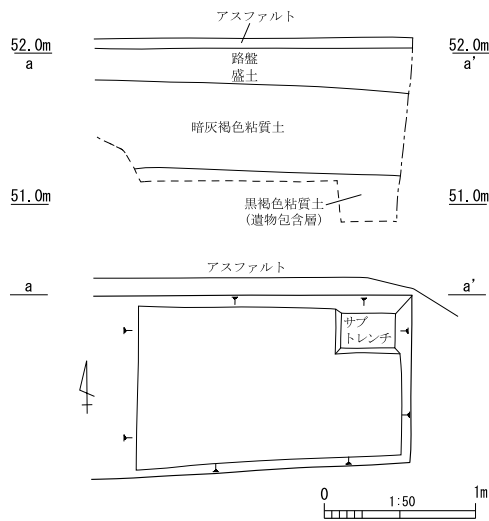


土層柱状図 (S=1/40)

3 ^{なかやいせき} 中屋遺跡 20次

所在地 浜北区根堅地内
調査期間 2022年12月19日
調査原因 道路改良 **調査面積** 2㎡
調査概要 調査区が小規模であるため、明確な遺構は検出できなかったが、古墳時代後期から奈良時代の土師器が出土した。

調査区北壁



位置図 (2,500分の1)

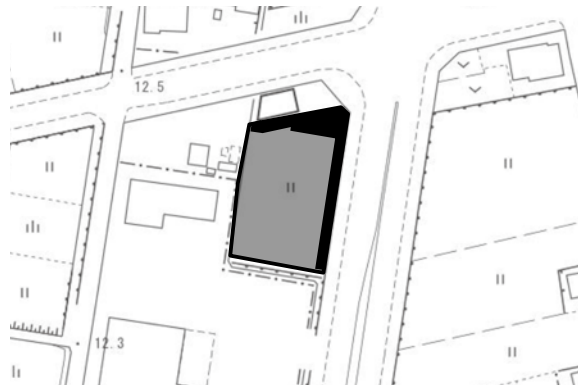


調査区全景 (南西から)

4 ^{つねたけにしみやいせき} 恒武西宮遺跡 35次

所在地 東区恒武町159-1
調査期間 2023年1月10日～24日
調査原因 駐車場整備 **調査面積** 285㎡
調査概要 包含層及び遺構内から古墳時代と鎌倉時代の遺物を確認した。出土遺物は破片が中心であるが、調査区の北西で検出した井戸(SE01)から完形の山茶碗が1点出土した。

詳細は『恒武西宮遺跡8』(2024年3月刊行)に掲載。



位置図 (2,500分の1)



調査区北東部完掘状況 (北東から)



SE01 遺物出土状況 (北東から)

ほうだいせき
5 祝田遺跡 6次

所在地 北区細江町中川地内
 調査期間 2023年1月26日～4月21日
 調査原因 下水道管理設
 調査面積 75 m²
 調査概要 攪乱の影響を大きく受けていたため、詳細は明らかにできなかったが、調査区2において弥生時代後期の土器が集中して出土し、調査区5では中世の自然流路を確認した。
 詳細は第4章3（89頁）に掲載。



位置図 (2,500分の1)



調査区5土層堆積状況



主な出土遺物

はままつじょうあと
6 浜松城跡 46次

所在地 中区元城町114-7、114-8外
 調査期間 2023年3月22日～6月8日
 調査原因 下水道管理設
 調査面積 34 m²
 調査概要 7つの調査区のうち、6つの調査区では、遺構や遺物は確認できなかったが、調査区2で近世の井戸跡を検出した。
 詳細は第4章1（79頁）に掲載。



位置図 (2,500分の1)



調査区2井戸検出状況



出土遺物

第3章 試掘・確認・立会等調査報告

試掘・確認調査報告

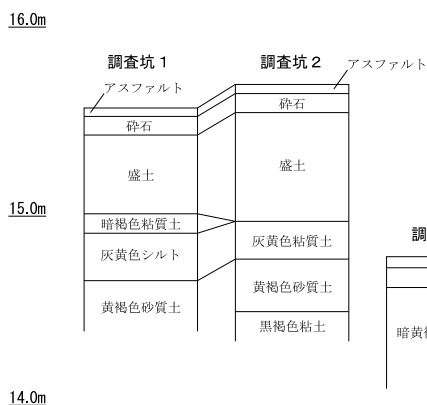
1 みなみやしきいせき いしおかいせき 南屋敷遺跡4次・石岡遺跡6次

所在地 北区細江町三和 234-1 地先外
 調査期間 2022年4月25日、26日
 調査原因 下水道管理設
 調査面積 12 m²
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 調査結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。
 道路の構築により、遺跡は消失して
 いると考えられる。
 調査担当 井口智博、川西啓喜

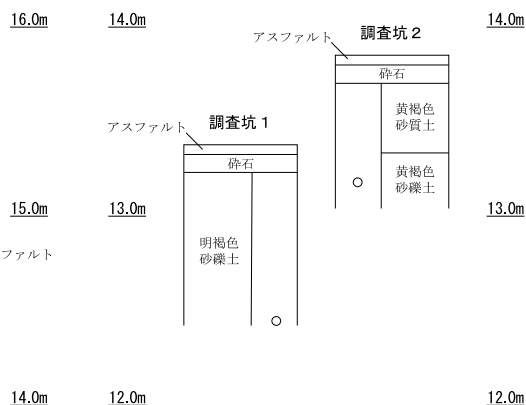


位置図 (5,000分の1)

石岡遺跡6次



南屋敷遺跡4次



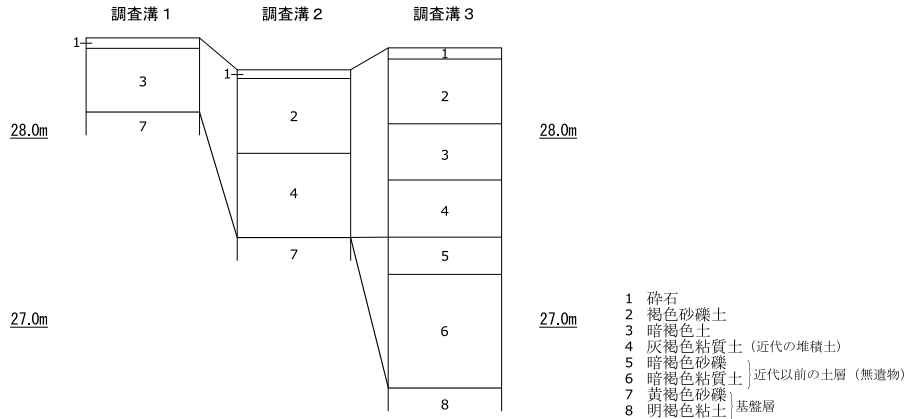
土層柱状図 (S=1/40)

2 はままつじょうかまちいせき 浜松城下町遺跡23次

所在地 中区鹿谷町 21
 調査期間 2022年4月26日
 調査原因 個人住宅建設
 調査面積 6.3 m²
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 調査結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。
 遺跡の希薄地点と考えられる。
 調査担当 和田達也



位置図 (2,500分の1)



土層柱状図 (S=1/40)

3 はまぎきよかんあと 浜崎居館跡 1次

所在地 北区三ヶ日町三ヶ日 593-1

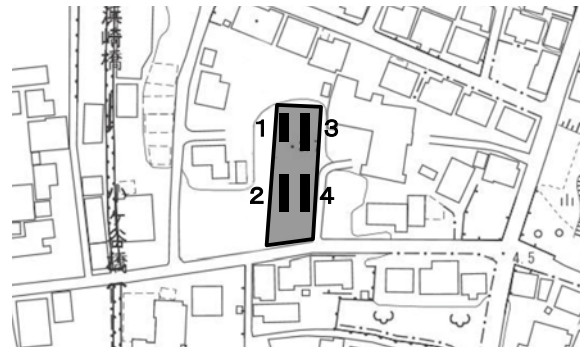
調査期間 2022年5月9日

調査原因 介護施設建設 調査面積 36 m²

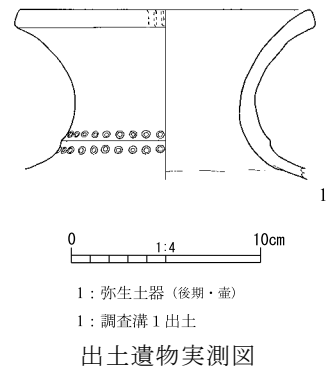
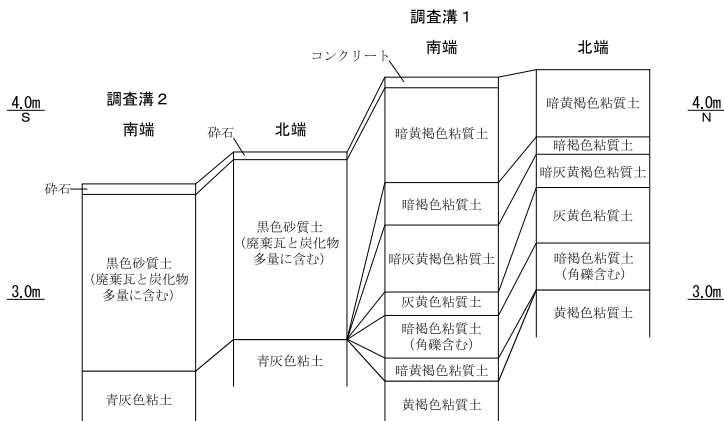
検出遺構 なし 出土遺物 弥生土器

調査結果 弥生時代の土器が1点出土したが、中世から近世の居館跡に伴う遺構や遺物は確認できなかった。

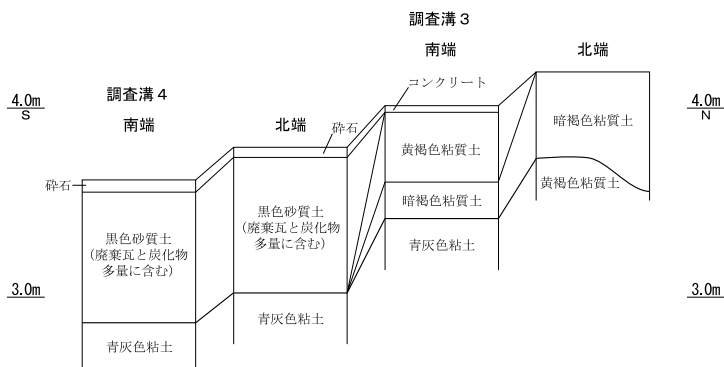
調査担当 井口智博



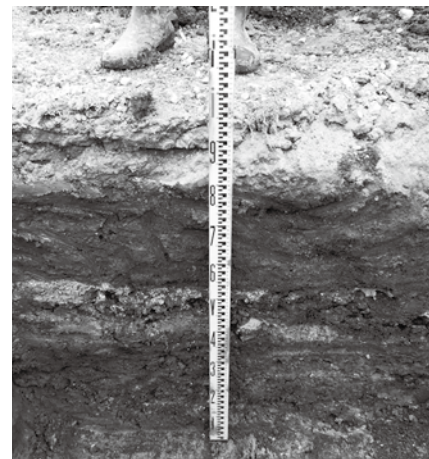
位置図 (2, 500分の1)



出土遺物実測図



土層柱状図 (S=1/40)



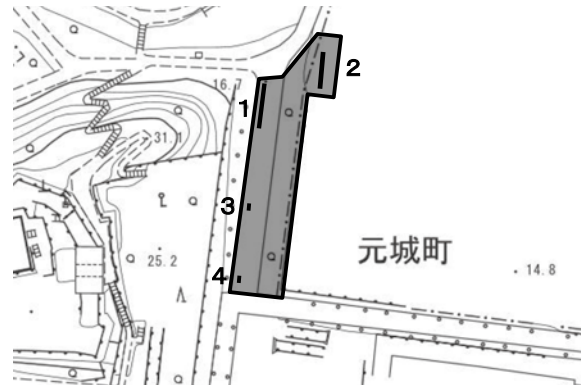
調査溝 2 土層堆積状況

はままつじょうあと
4 浜松城跡 45次

所在地 中区元城町 100-2
調査期間 2022年5月16日～19日
調査原因 公園改修
調査面積 24㎡ 検出遺構 本丸北側斜面
出土遺物 近世瓦、陶器、磁器
調査結果 現存する本丸北石塁下部の斜面地形が東北東へと本丸北東隅角部に向かって続いていることが明らかになった。本丸の範囲を示すとみられる基盤層の落ち込み（本丸北側斜面）と捉えられる。

詳細は4章2（84頁）に掲載。

調査担当 和田達也



位置図（2,500分の1）



調査溝 1 本丸北側斜面検出状況



調査溝1 基盤層立ち上がり部分



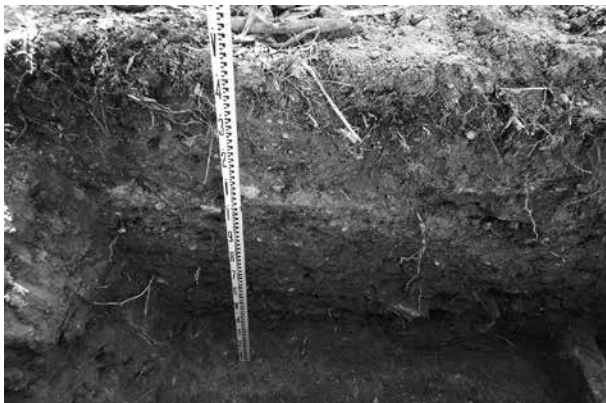
調査溝1 北端土層堆積状況



調査溝2 南半完掘状況



調査溝2 南端土層堆積状況



調査溝2 北端土層堆積状況



調査溝3 完掘状況



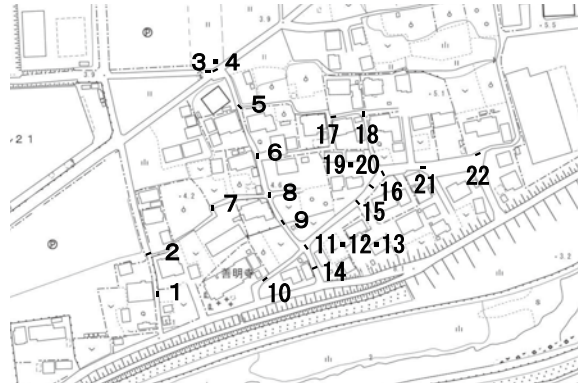
調査溝4 完掘状況



主な出土遺物

5 祝田遺跡 5次

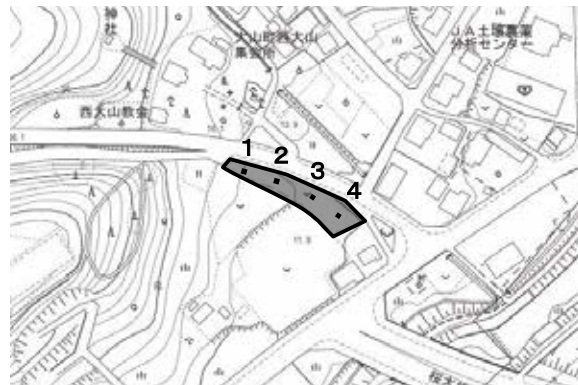
所在地 北区細江町中川 1726-3 地先外
 調査期間 2022年5月16日～31日
 調査原因 下水道管理設 調査面積 36㎡
 検出遺構 土坑、溝か？
 出土遺物 弥生土器、土師器、須恵器、中世陶器、貿易陶磁器、土師質土器
 調査結果 おおむねすべての調査坑で弥生時代～中世の土器が出土した。
 詳細は第4章3(89頁)に掲載。
 調査担当 井口智博、川西啓喜



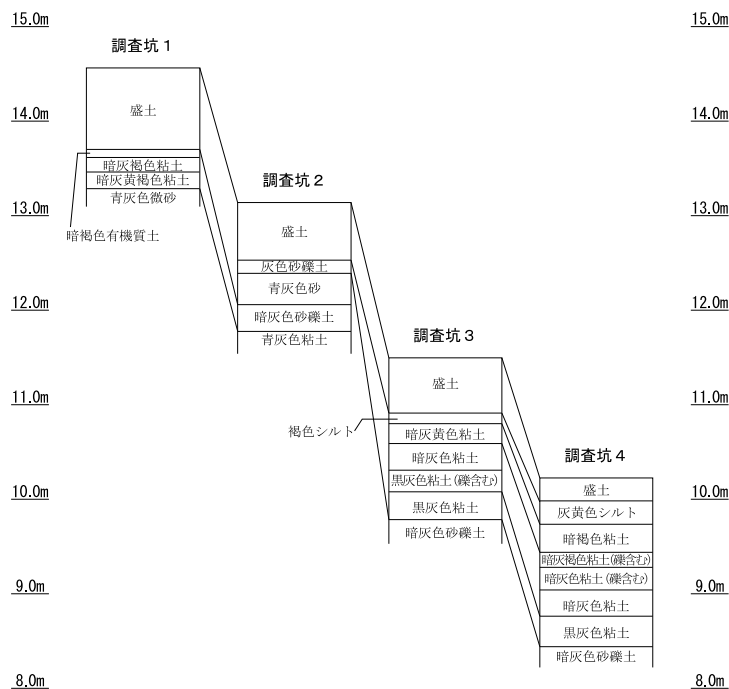
位置図 (5,000分の1)

6 大山寺旧境内遺跡 3次

所在地 西区大山町 68-1
 調査期間 2022年5月26日
 調査原因 工場建設 調査面積 16㎡
 検出遺構 なし 出土遺物 土師器
 調査結果 古墳時代の土師器片が少量出土したが、いずれの調査坑も遺構は確認できなかった。
 調査担当 井口智博



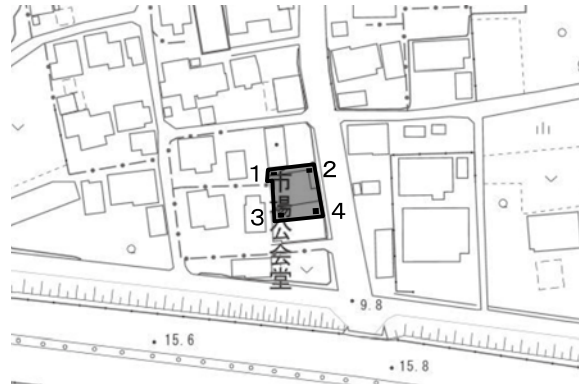
位置図 (2,500分の1)



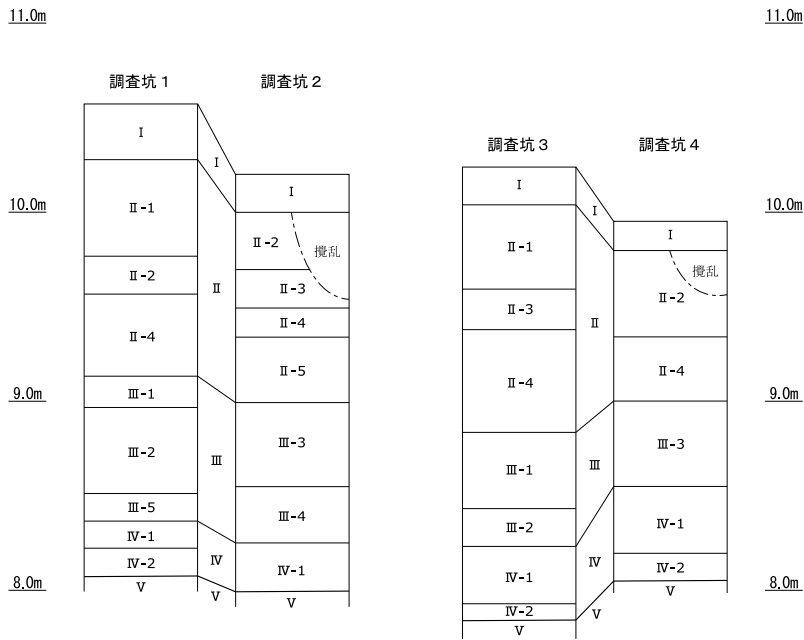
土層柱状図 (S=1/80)

7 ^{いちのいせき} 市野遺跡 10次

所在地 東区市野町 977
 調査期間 2022年6月8日
 調査原因 店舗兼個人住宅建設
 調査面積 11.5 m²
 検出遺構 なし 出土遺物 なし
 調査結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。
 遺跡の範囲内ではあるが、遺跡の分布が希薄な地点と考えられる。
 調査担当 和田達也

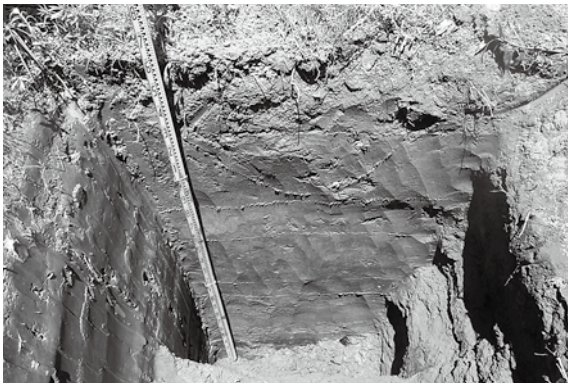


位置図 (2,500分の1)



- | | | |
|---------------------|-----------------------------|--------------|
| I層 暗褐色粘質土 (表土) | III層 近現代盛土前の堆積土 | V層 灰色砂 (基盤層) |
| II層 近現代の土層 | III-1 褐灰色砂質土 | |
| II-1 灰黄褐色砂質土 | III-2 灰色砂質土 | |
| II-2 明褐色砂質土 | III-3 灰色粘質土 | |
| II-3 暗褐色砂質土 | III-4 灰色粘土 | |
| II-4 褐色砂質土と灰色粘質土の混層 | IV層 古代以前とみられる堆積土 | |
| II-5 灰黄粘質土 | IV-1 黒灰色粘土 (有機質・土師器の微細破片含む) | |
| | IV-2 灰色粘土 | |

土層柱状図 (S=1/40)



調査坑 1 土層堆積状況



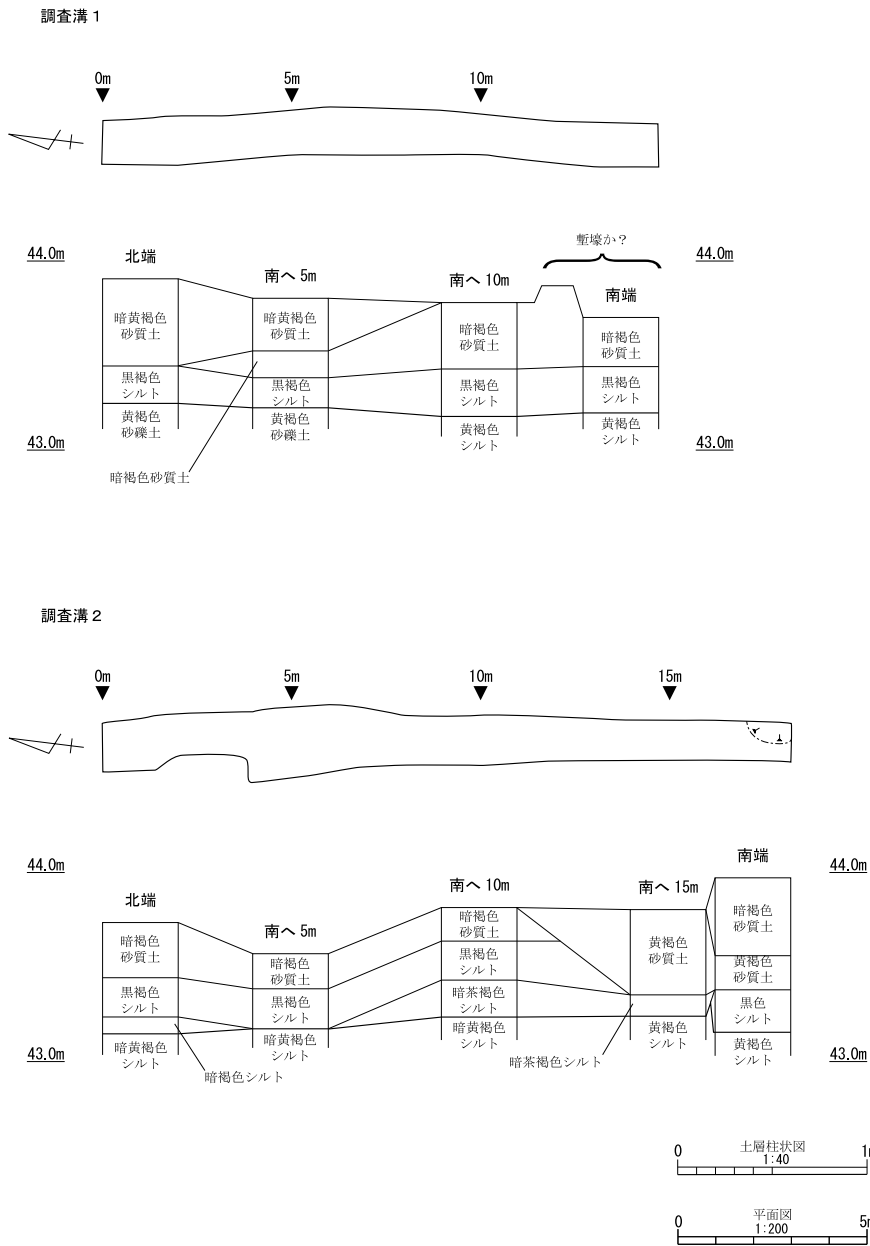
調査坑 4 土層堆積状況

8 ^{いっぽんすぎこふんぐん} 一本杉古墳群 3次

所在地 中区幸四丁目 527-22
 調査期間 2022年6月8日、9日
 調査原因 宅地造成 調査面積 49 m²
 検出遺構 なし 出土遺物 縄文土器
 調査結果 遺構は検出されず、遺物は縄文土器の破片が1点出土したのみであった。
 調査担当 井口智博



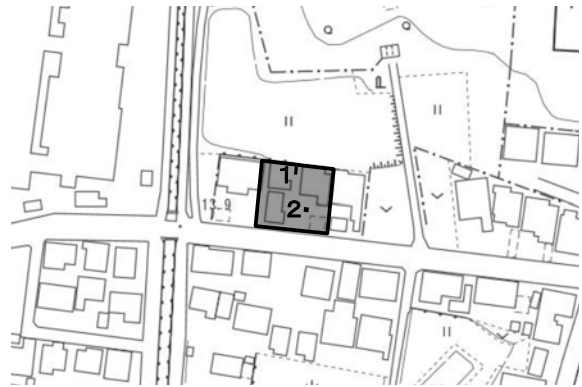
位置図 (2,500分の1)



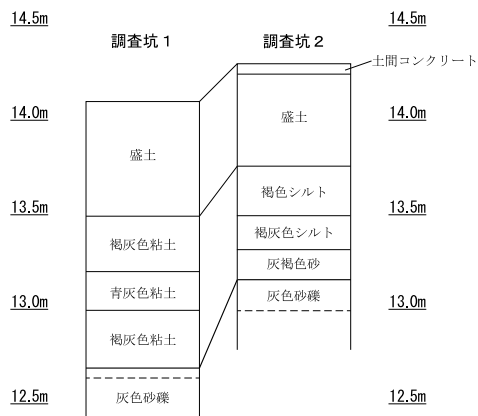
土層柱状図 (S=1/40) 及び平面図 (S=1/200)

9 ^{まんどくにしいせき} 万斛西遺跡 8次

所在地 東区中郡町 977-1、977-2
 調査期間 2022年6月14日
 調査原因 集合住宅建設 調査面積 4.25㎡
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 調査結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。
 遺跡の希薄地点と考えられる。
 調査担当 川西啓喜



位置図 (2,500分の1)



土層柱状図 (S=1/40)



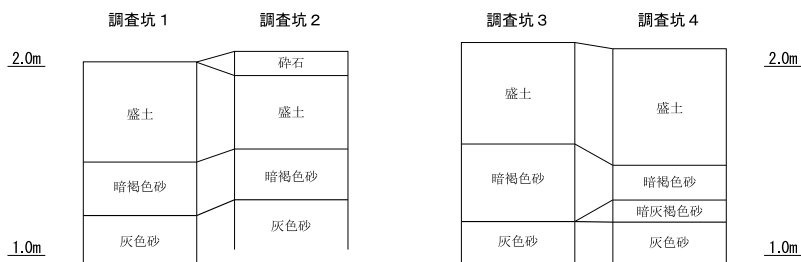
調査坑2土層堆積状況

10 ^{とのみちひがしいせき} 殿道東遺跡 5次

所在地 西区馬郡町 4016の一部、4084の一部
 調査期間 2022年6月27日
 調査原因 集合住宅建設
 調査面積 10㎡
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 調査結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。
 遺跡の希薄地点と考えられる。
 調査担当 井口智博



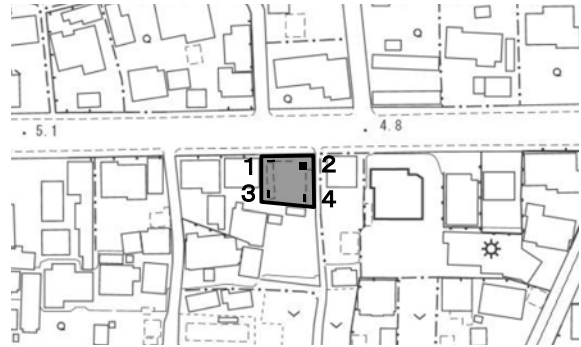
位置図 (2,500分の1)



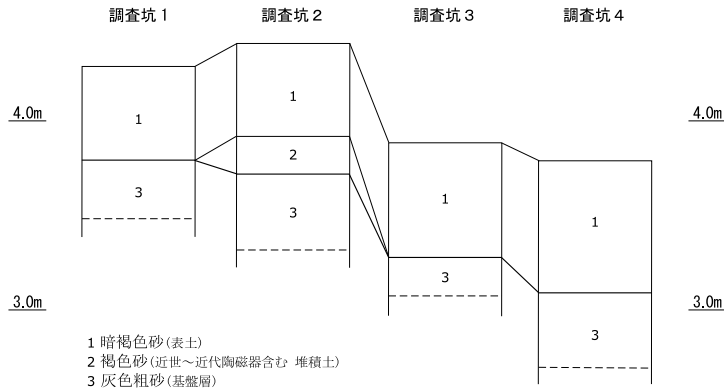
土層柱状図 (S=1/40)

11 ^{たかつかちょうむらなかいせき} 高塚町村中遺跡 4次

所在地 南区高塚町 4471
 調査期間 2022年6月30日
 調査原因 個人住宅建設 調査面積 8㎡
 検出遺構 なし 出土遺物 なし
 調査結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。
 遺跡の希薄地点と考えられる。
 調査担当 和田達也



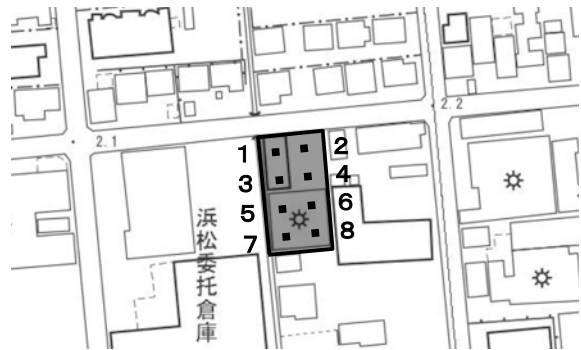
位置図 (2,500分の1)



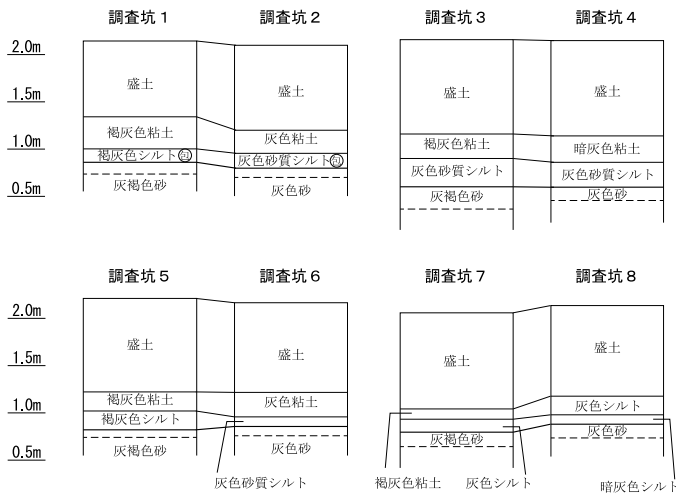
土層柱状図 (S=1/40)

12 ^{たかやなぎいせき} 高柳遺跡 3次

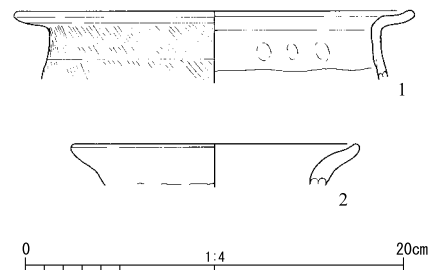
所在地 中区西浅田一丁目 939-1,939-2
 調査期間 2022年7月4日
 調査原因 集合住宅建設 調査面積 32㎡
 検出遺構 なし 出土遺物 土師器
 調査結果 調査坑 1、2で古代の遺物包含層を確認したが、その他の調査坑では遺構・遺物は確認されなかった。
 調査担当 川西啓喜



位置図 (2,500分の1)



土層柱状図 (S=1/80)

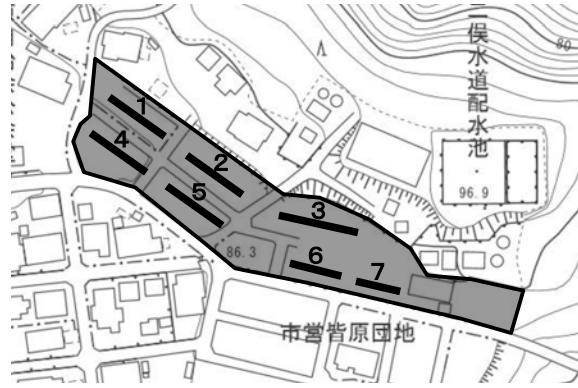


1: 土師器(甕) 2: 土師器(壺?)
 1: 調査坑 2 出土 2: 調査坑 1 出土

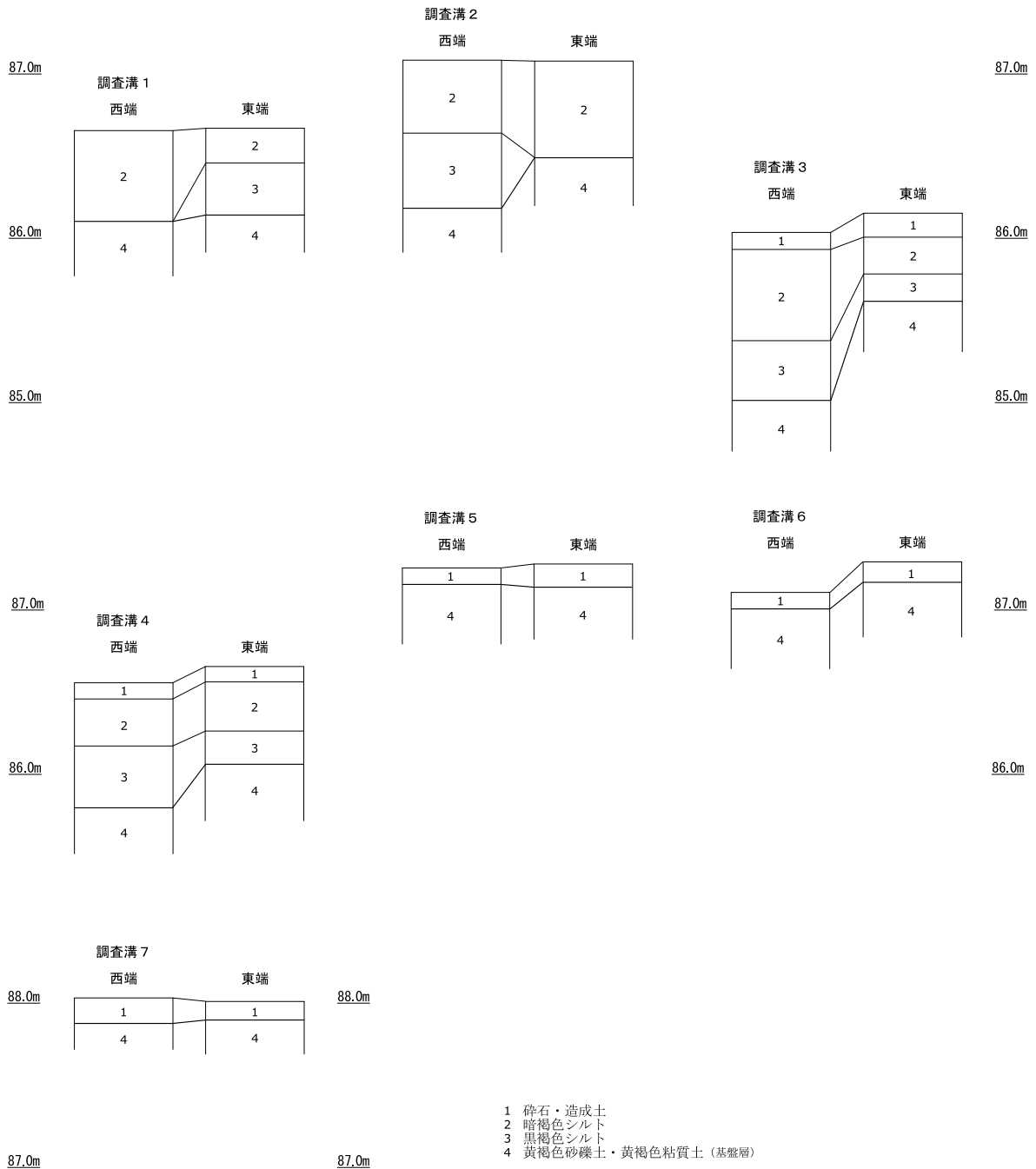
出土遺物実測図

13 になはらとりであと
蜷原岩跡 1次

所在地 天竜区二俣町二俣 695-3 地先
 調査期間 2022年7月11日、13日
 調査原因 市営住宅解体 調査面積 130㎡
 検出遺構 なし 出土遺物 縄文土器
 調査結果 縄文土器の小片が僅かに確認されたが、岩跡に関する遺構は確認できなかった。
 調査担当 井口智博



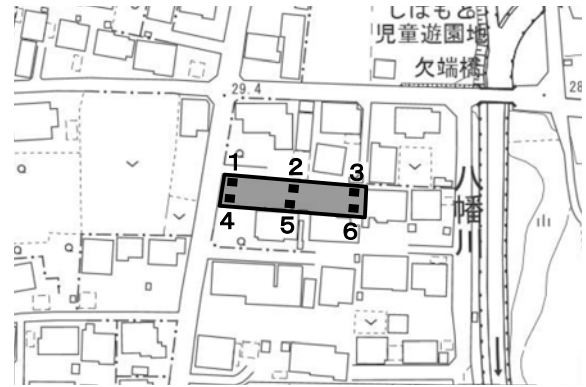
位置図 (2,500分の1)



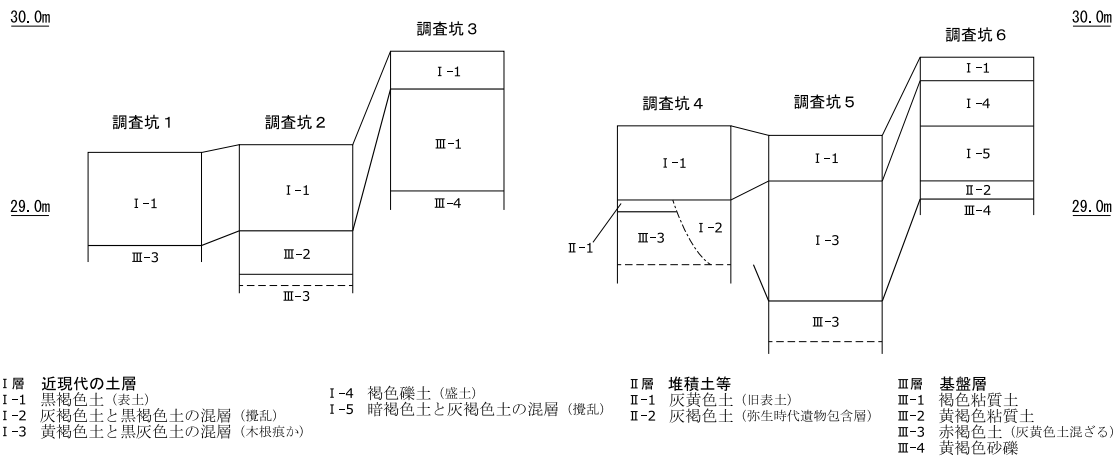
土層柱状図 (S=1/40)

14 ひがしばらいせき
東原遺跡 49 次

所在地 浜北区於呂 3072-7
 調査期間 2022年7月20日
 調査原因 個人住宅建設 調査面積 18㎡
 検出遺構 なし 出土遺物 弥生土器
 調査結果 弥生土器の台付甕や壺の破片が出土した。遺構は確認できなかったが、弥生時代の遺物包含層を確認した。
 調査担当 和田達也



位置図 (2,500分の1)



土層柱状図 (S=1/40)

15 なわてひがしいせき
暖東遺跡 6 次

所在地 中区森田町字暖東 101 外
 調査期間 2022年7月20日、21日
 調査原因 店舗建設 調査面積 88㎡
 検出遺構 なし
 出土遺物 弥生土器、山茶碗
 調査結果 対象地の東側と西側は遺跡の範囲内、中央部は遺跡内の遺構・遺物の希薄地点と考えられる。
 調査担当 川西啓喜



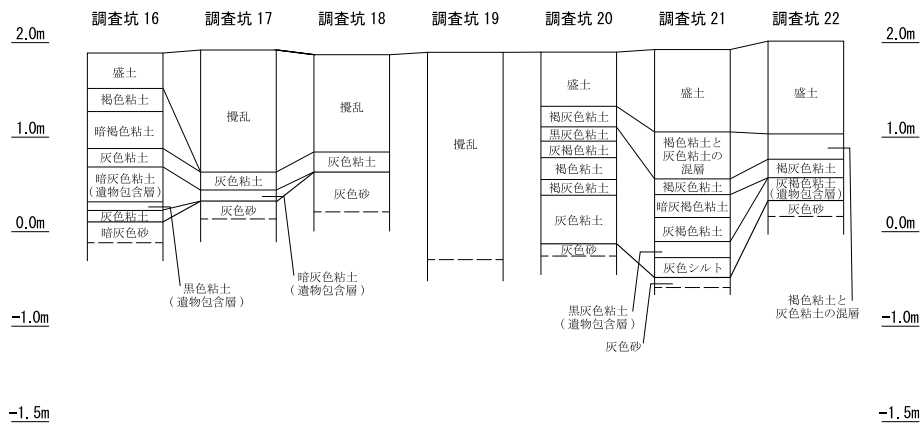
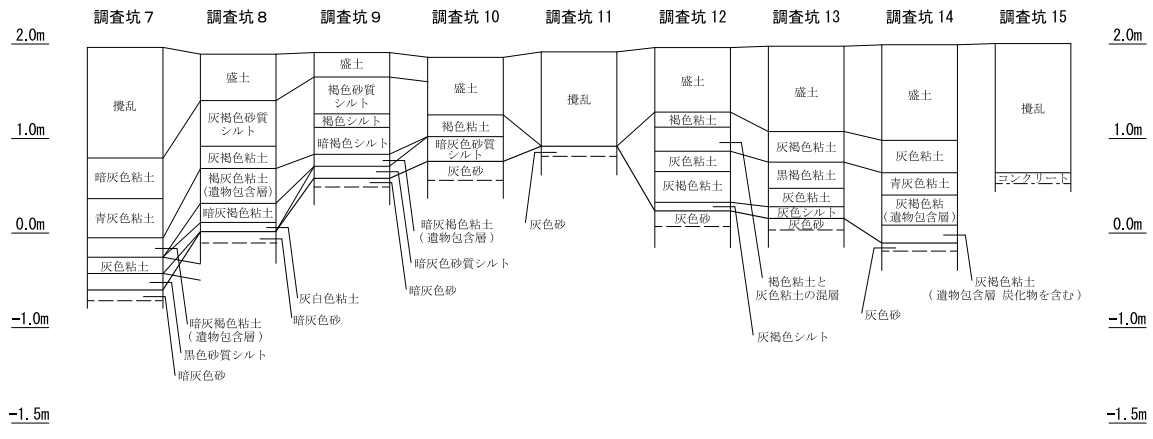
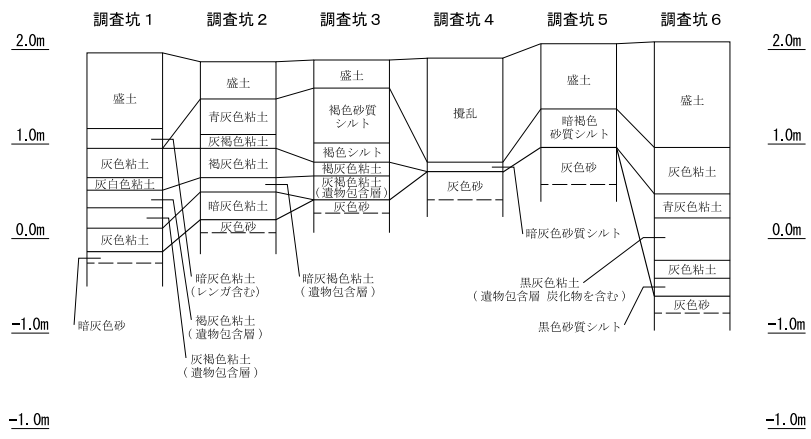
位置図 (2,500分の1)



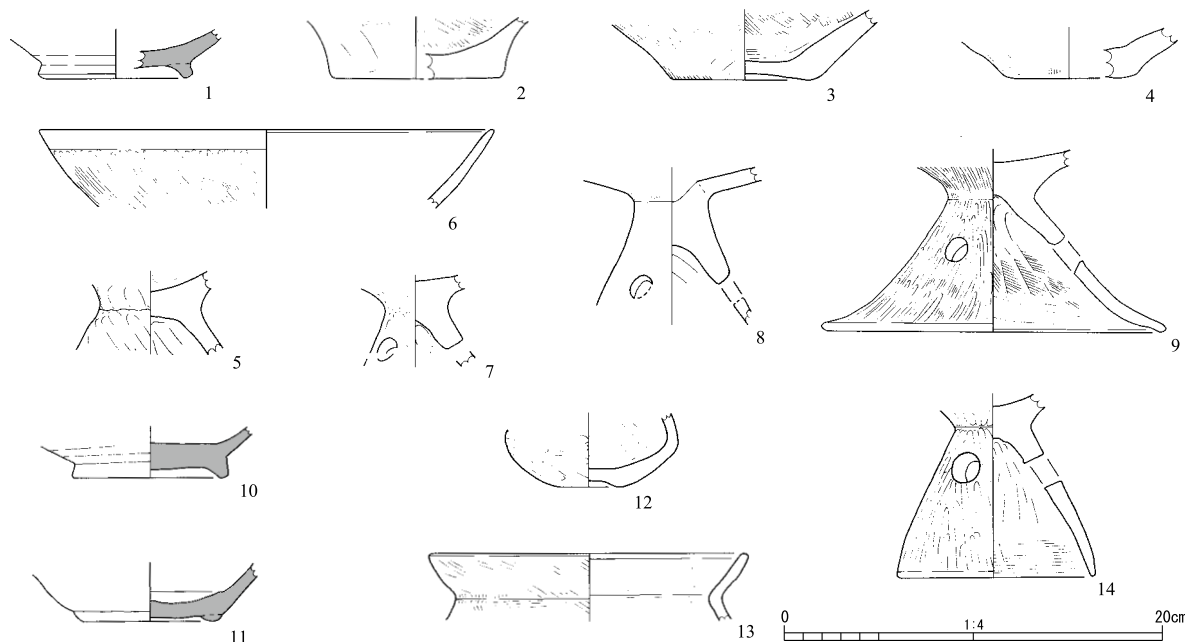
調査坑 21 完掘状況



出土遺物



土層柱状図 (S=1/80)



1・10・11：中世陶器（山茶碗） 2～4・12：弥生土器（壺） 5・13：弥生土器（台付甕） 6～9・14：弥生土器（高坏）
 1：調査坑2出土 2～9：調査坑6出土 10・11：調査坑12出土 12～14：調査坑14出土

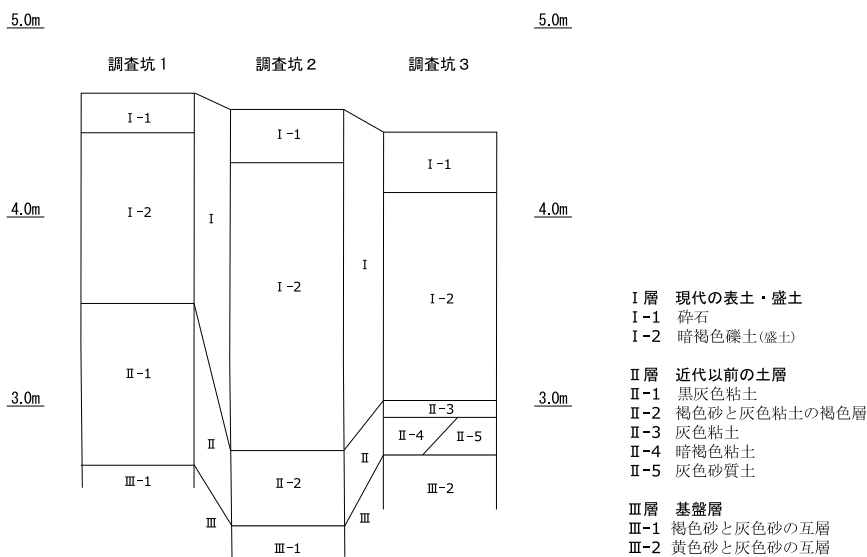
出土遺物実測図

16 はままつじょうかまちいせき 浜松城下町遺跡 24次

所在地 中区常盤町 132-17
 調査期間 2022年7月25日
 調査原因 集合住宅建設 調査面積 12㎡
 検出遺構 なし 出土遺物 なし
 調査結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。
 遺跡の範囲内ではあるが、遺跡の分布が希薄な地点と考えられる。
 調査担当 和田達也



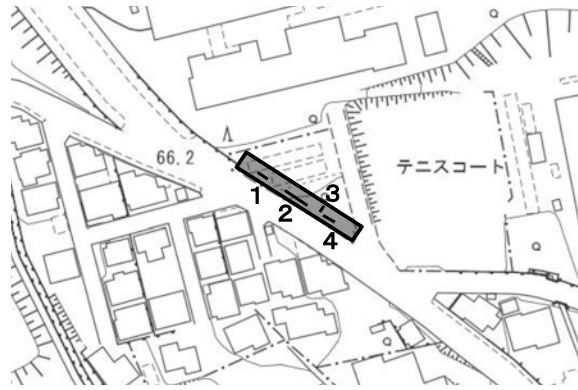
位置図 (2, 500分の1)



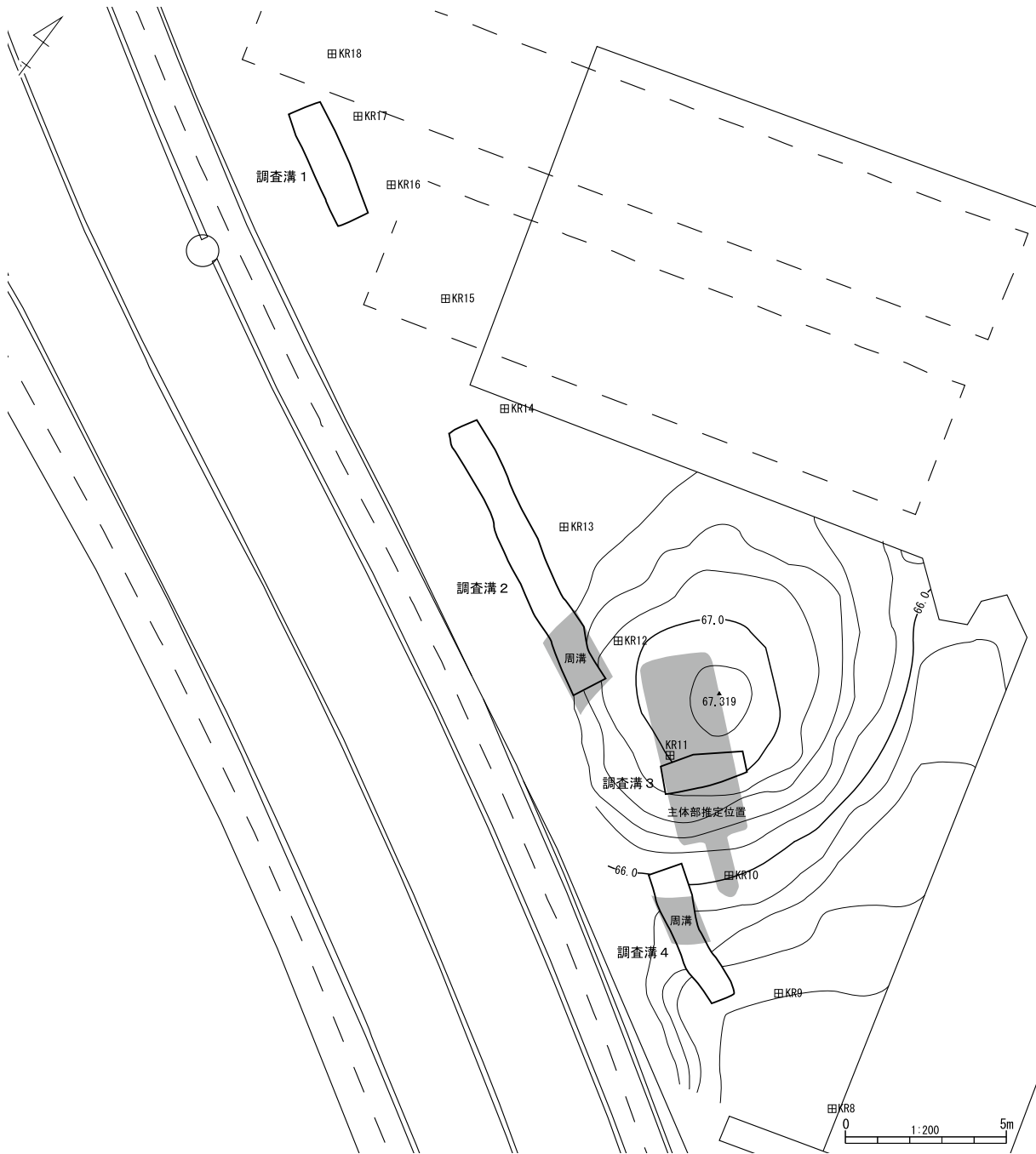
土層柱状図 (S=1/40)

17 おおやしきしーこふんぐん
大屋敷C古墳群2次

所在地 浜北区宮口 4831-139
 調査期間 2022年7月25日～27日
 調査原因 道路拡幅
 調査面積 20㎡
 検出遺構 古墳
 出土遺物 須恵器
 調査結果 古墳時代後期に築造された群集墳の
 1基を確認。須恵器の破片を確認した。
 調査担当 井口智博

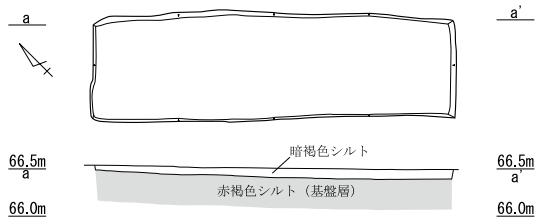


位置図 (2,500分の1)

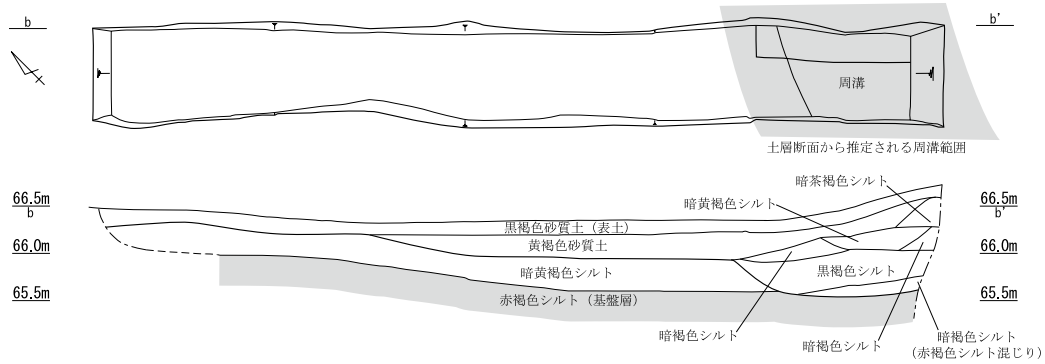


墳丘測量図 (S=1/200)

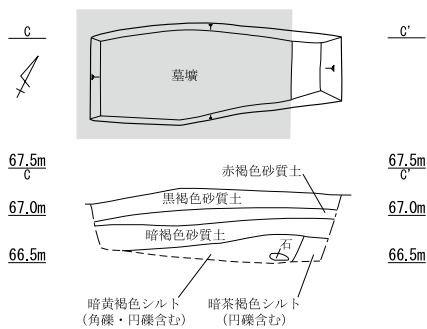
調査溝 1



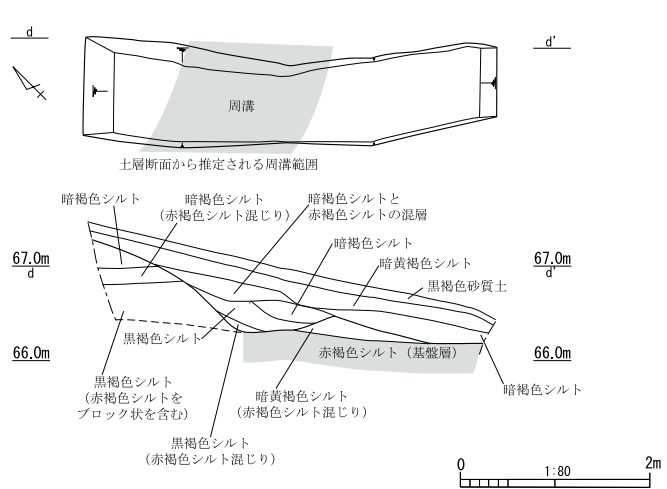
調査溝 2



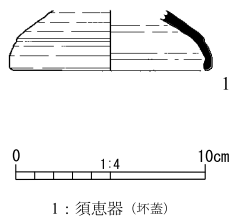
調査溝 3



調査溝 4



土層断面図及び平面図 (S=1/80)



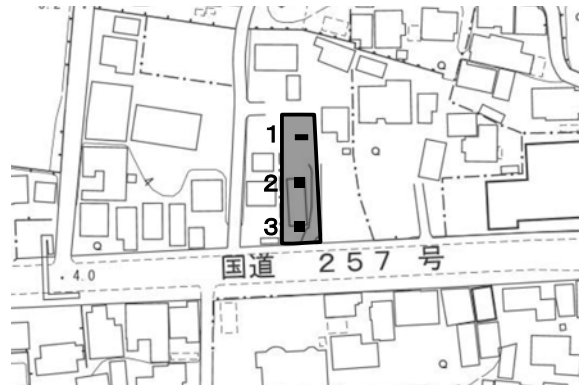
出土遺物実測図



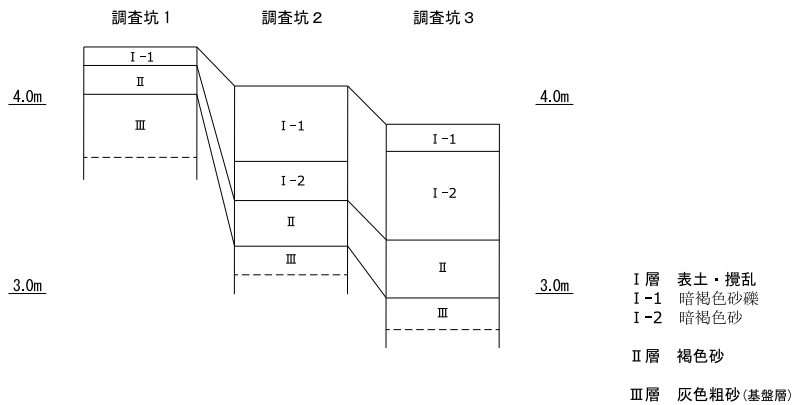
調査溝 2 周溝検出状況

18 ^{ぞうらいせき} 増楽遺跡 17次

所在地 南区若林町 1336-11
 調査期間 2022年8月9日
 調査原因 宅地造成
 調査面積 12 m²
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 調査結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。
 遺跡の範囲外と考えられる。
 調査担当 和田達也



位置図 (2,500分の1)



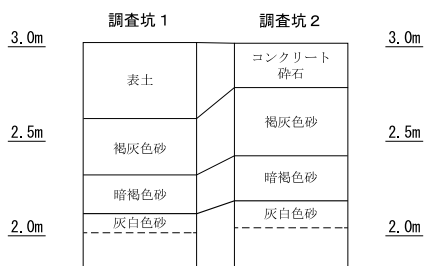
土層柱状図 (S=1/40)

19 ^{きゅうだいとういんけいだいせき} 旧大通院境内遺跡 6次

所在地 南区新橋町 777 番地内
 調査期間 2022年8月19日
 調査原因 災害用トイレ設置
 調査面積 4.05 m²
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 調査結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。
 遺跡の希薄地点と考えられる。
 調査担当 川西啓喜



位置図 (2,500分の1)



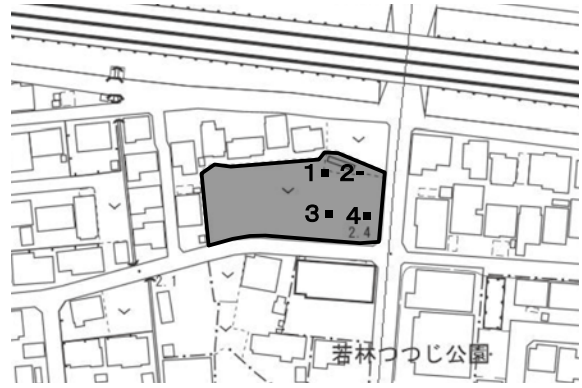
土層柱状図 (S=1/40)



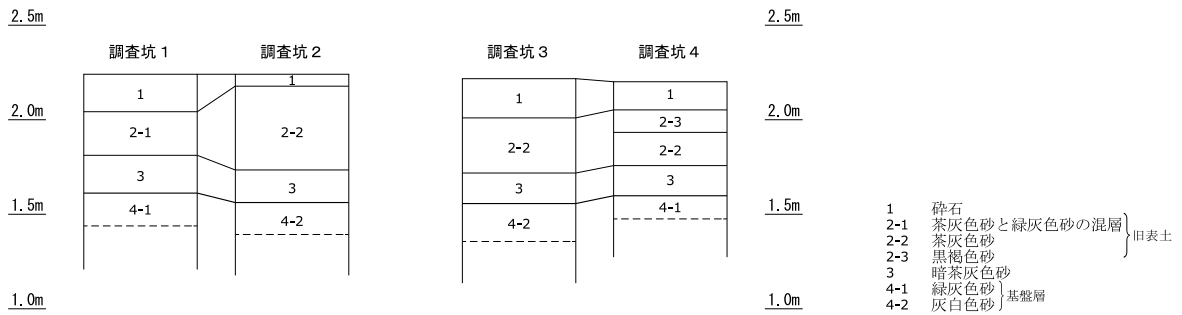
調査坑2 完掘状況

20 増楽遺跡 18次

所在地 南区増楽町 1421-1、2530
 調査期間 2022年8月23日
 調査原因 事務所建設
 調査面積 7.5㎡
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 調査結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。
 遺跡の範囲外と考えられる。
 調査担当 川西啓喜



位置図 (2,500分の1)



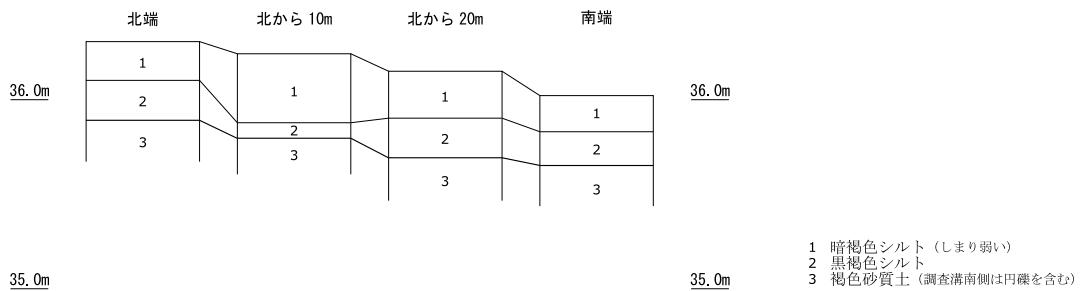
土層柱状図 (S=1/40)

21 芝本遺跡 33次

所在地 浜北区於呂地内
 調査期間 2022年8月25日
 調査原因 道路建設
 調査面積 33㎡
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 調査結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。
 遺跡の範囲外と考えられる。
 調査担当 井口智博



位置図 (2,500分の1)



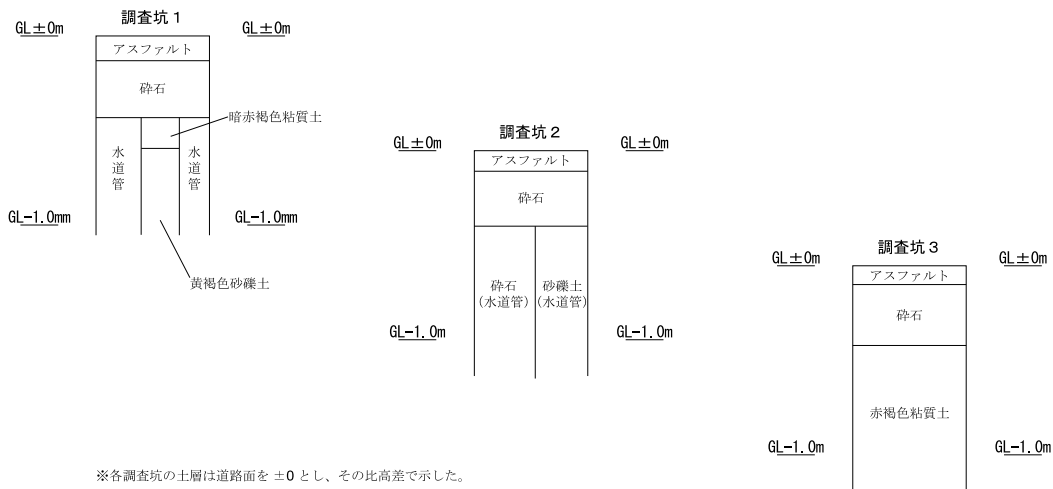
土層柱状図 (S=1/40)

22 ^{うとうぎかえーびーしーこふんぐん} 宇藤坂 ABC 古墳群 3次

所在地 東区有玉西町 817-7 地先
 調査期間 2022年8月26日、30日
 調査原因 水道管補強
 調査面積 12㎡
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 調査結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。
 遺跡は消失していると考えられる。
 調査担当 井口智博



位置図 (2,500分の1)

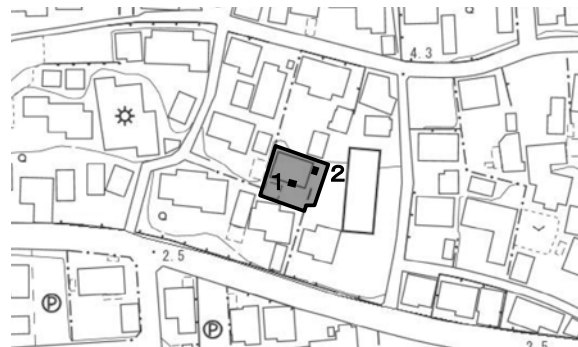


※各調査坑の土層は道路面を±0とし、その比高差で示した。

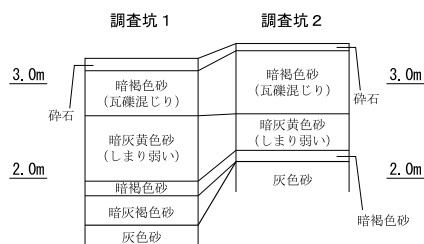
土層柱状図 (S=1/40)

23 ^{なかわきいせき} 中脇遺跡 5次

所在地 西区志都呂町 1487-1、1487-3 外
 調査期間 2022年9月12日
 調査原因 個人住宅建設 調査面積 5㎡
 検出遺構 なし 出土遺物 なし
 調査結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。
 遺跡の範囲内ではあるが、遺跡の分布が希薄な地点と考えられる。
 調査担当 井口智博



位置図 (2,500分の1)



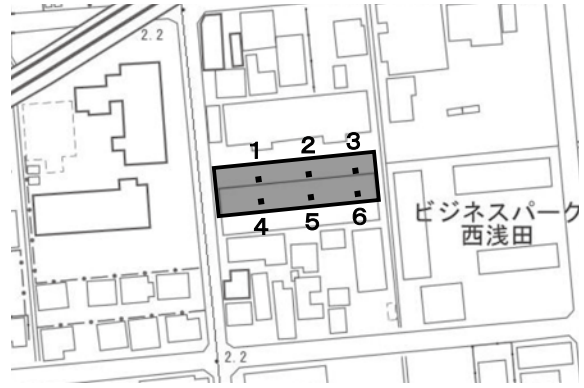
土層柱状図 (S=1/80)



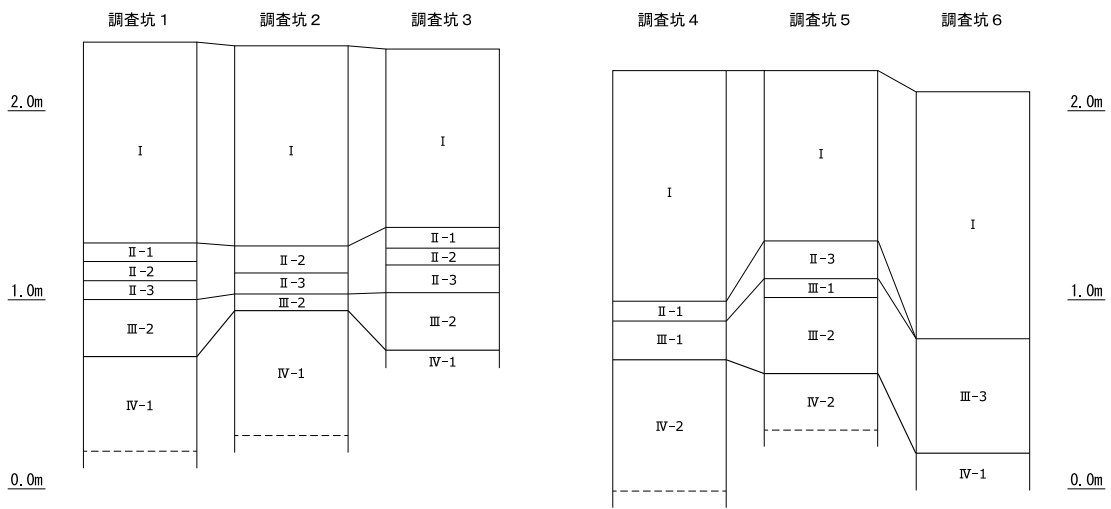
調査坑 1 土層堆積状況

24 たかやなぎいせき 高柳遺跡 4次

所在地 中区西浅田二丁目 894、895
 調査期間 2022年9月16日
 調査原因 集合住宅建設
 調査面積 24㎡
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 調査結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。
 遺跡の範囲外と考えられる。
 調査担当 和田達也



位置図 (2,500分の1)



I層 現代の表土・造成土(客土)	II層 水田に関わる土層	III層 水田以前の堆積土	IV層 基盤層
	II-1 黒灰色粘土(旧表土)	III-1 灰色粘土	IV-1 灰色粗砂
	II-2 暗緑灰色粘土(水田耕作土)	III-2 灰色シルト	IV-2 灰黄色粗砂
	II-3 緑灰色粘土(水田床土)	III-3 灰色砂と灰黄色砂の互層	IV-1, IV-2 } 湧水顕著

土層柱状図 (S=1/40)



調査坑3土層堆積状況



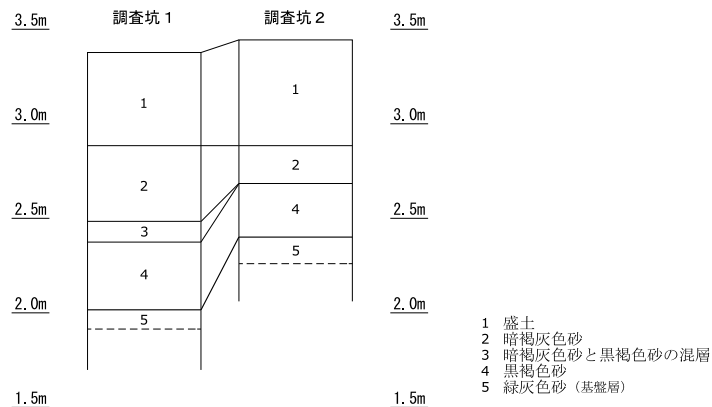
調査坑6土層堆積状況

25 ^{こざわたりちょうむらなかいせき} 小沢渡町村中遺跡 2次

所在地 南区小沢渡町 335
 調査期間 2022年10月6日
 調査原因 個人住宅建設
 調査面積 3 m²
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 調査結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。
 遺跡の希薄地点と考えられる。
 調査担当 川西啓喜



位置図 (2,500分の1)



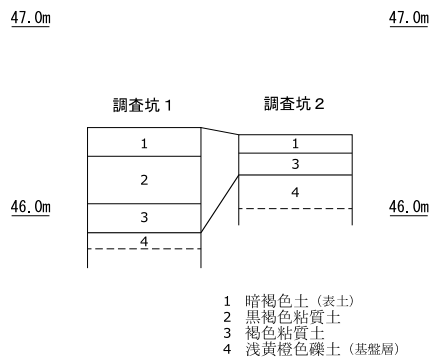
土層柱状図 (S=1/40)

26 ^{むかいやまいちいせき} 向山 I 遺跡 8次

所在地 浜北区於呂 3783-2
 調査期間 2022年10月13日
 調査原因 個人住宅建設
 調査面積 6 m²
 検出遺構 なし 出土遺物 なし
 調査結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。
 遺跡の範囲内ではあるが、遺跡の分布が希薄な地点と考えられる。
 調査担当 和田達也



位置図 (2,500分の1)



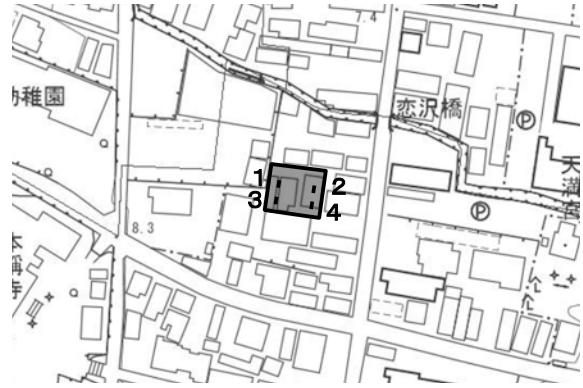
土層柱状図 (S=1/40)



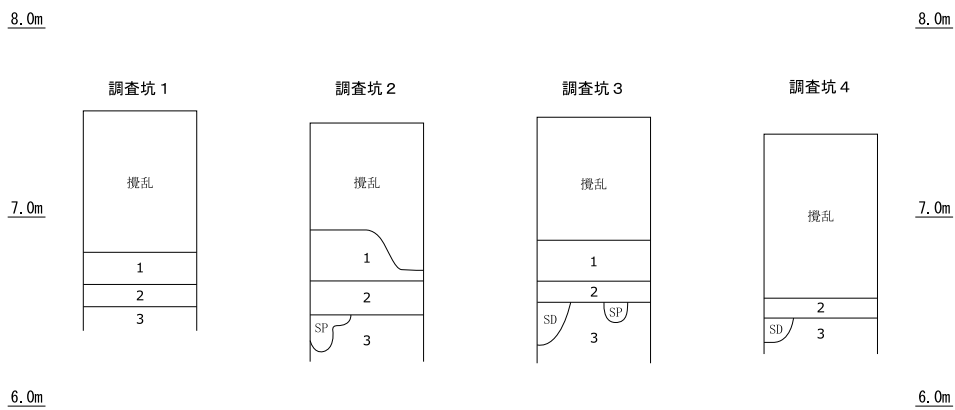
調査坑 2 土層堆積状況

はままつじょうかまちいせき
27 浜松城下町遺跡 25 次

所在地 中区元魚町 142、142-1
 調査期間 2022 年 10 月 18 日、11 月 28 日
 調査原因 集合住宅建設 調査面積 8 m²
 検出遺構 溝、小穴
 出土遺物 土師質土器・山茶碗・施釉陶器
 調査結果 中世から近世に至る時期の遺構と遺物を確認した。遺跡が残存していることが明らかになった。
 調査担当 井口智博

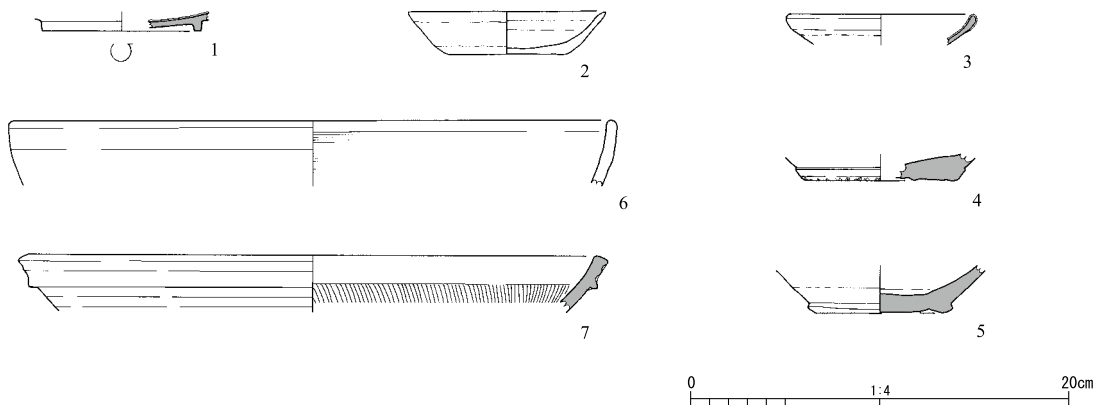


位置図 (2, 500分の1)



- 1 暗褐色粘質土
- 2 暗茶褐色粘質土 (包含層)
- 3 黄褐色砂質土 (角礫混じり)

土層柱状図 (S=1/40)

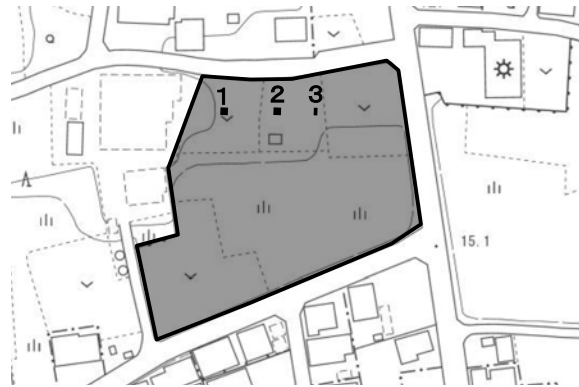


- 1: 肥前、京焼風陶器 (皿) 2: 土師質土器 (ロクロかわらけ) 3: 初山 (丸皿) 4・5: 中世陶器 (山茶碗) 6: 土師質土器 (内耳鍋) 7: 瀬戸 (備前風播鉢)
- 1: 調査坑 1 出土 2・3: 調査坑 2 出土 4・5: 調査坑 3 出土 6・7: 調査坑 4 出土

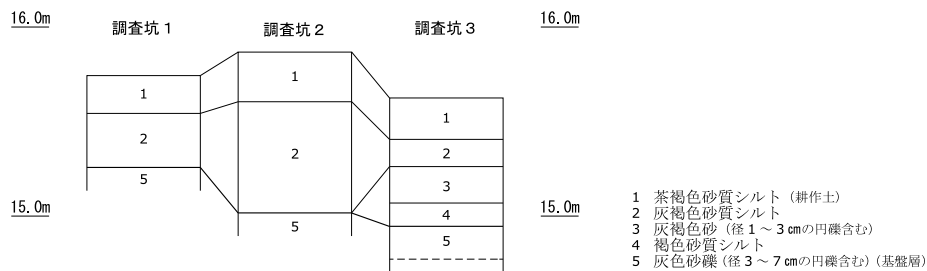
出土遺物実測図

28 ^{みやひがしいせき} 宮東遺跡 3次

所在地 浜北区寺島 621-1、622 外
 調査期間 2022年11月17日
 調査原因 事務所建設
 調査面積 10 m²
 検出遺構 なし 出土遺物 なし
 調査結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。
 遺跡の範囲外と考えられる。
 調査担当 川西啓喜



位置図 (2, 500分の1)



土層柱状図 (S=1/40)



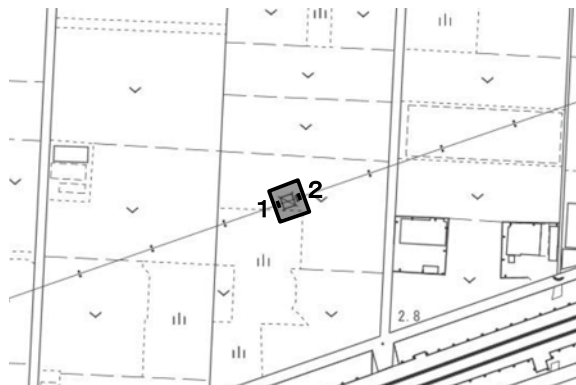
調査坑3完掘状況



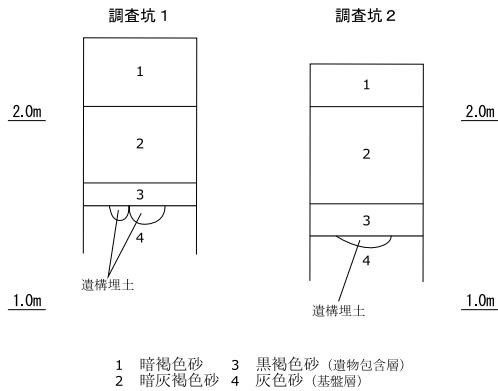
調査坑3土層堆積状況

29 ^{なかたのしりいせき} 中田尻遺跡 3次

所在地 西区篠原町 2210-3
 調査期間 2022年12月12日
 調査原因 送電線建設 調査面積 4 m²
 検出遺構 溝、小穴
 出土遺物 須恵器、土師器、灰釉陶器
 調査結果 溝と小穴を検出し、遺物は包含層を中心
 に古墳時代から平安時代の須恵器や土師器が
 出土した。
 調査担当 井口智博



位置図 (2, 500分の1)



土層柱状図 (S=1/40)



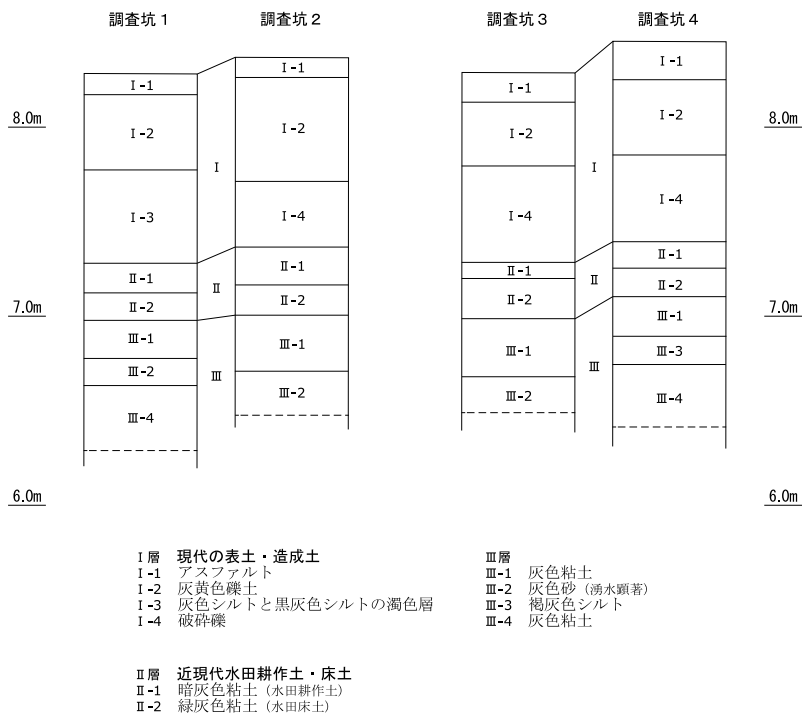
主な出土遺物

30 みのわいせき 箕輪遺跡 8次

所在地 東区小池町 2458、2459 外
 調査期間 2022年12月14日、15日
 調査原因 集合住宅建設
 調査面積 16 m²
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 調査結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。
 遺跡の範囲外と考えられる。
 調査担当 和田達也



位置図 (2, 500分の1)



土層柱状図 (S=1/40)



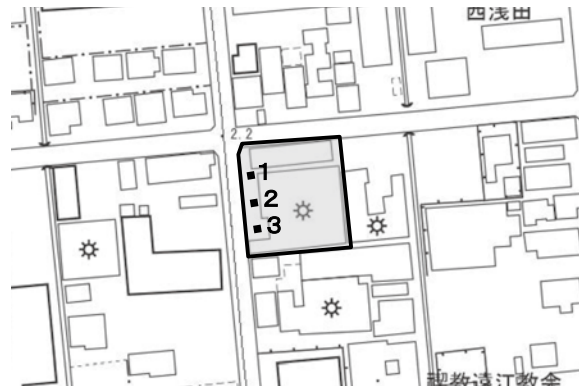
調査坑4完掘状況



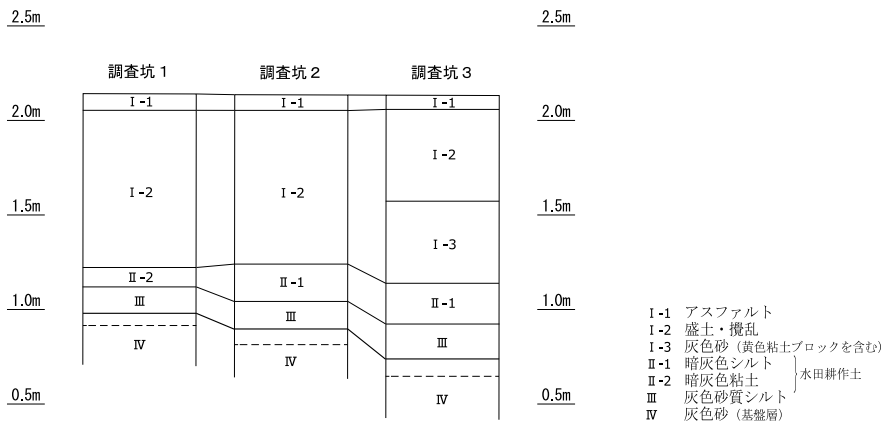
調査坑4土層堆積状況

31 たかなぎいせき
高柳遺跡 5次

所在地 中区西浅田二丁目 5-43
 調査期間 2022年12月19日
 調査原因 集合住宅建設
 調査面積 12 m²
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 調査結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。
 遺跡の希薄地点と考えられる。
 調査担当 川西啓喜



位置図 (2,500分の1)



土層柱状図 (S=1/40)



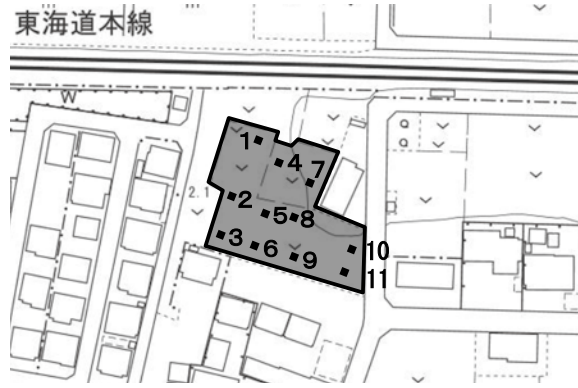
調査坑3完掘状況



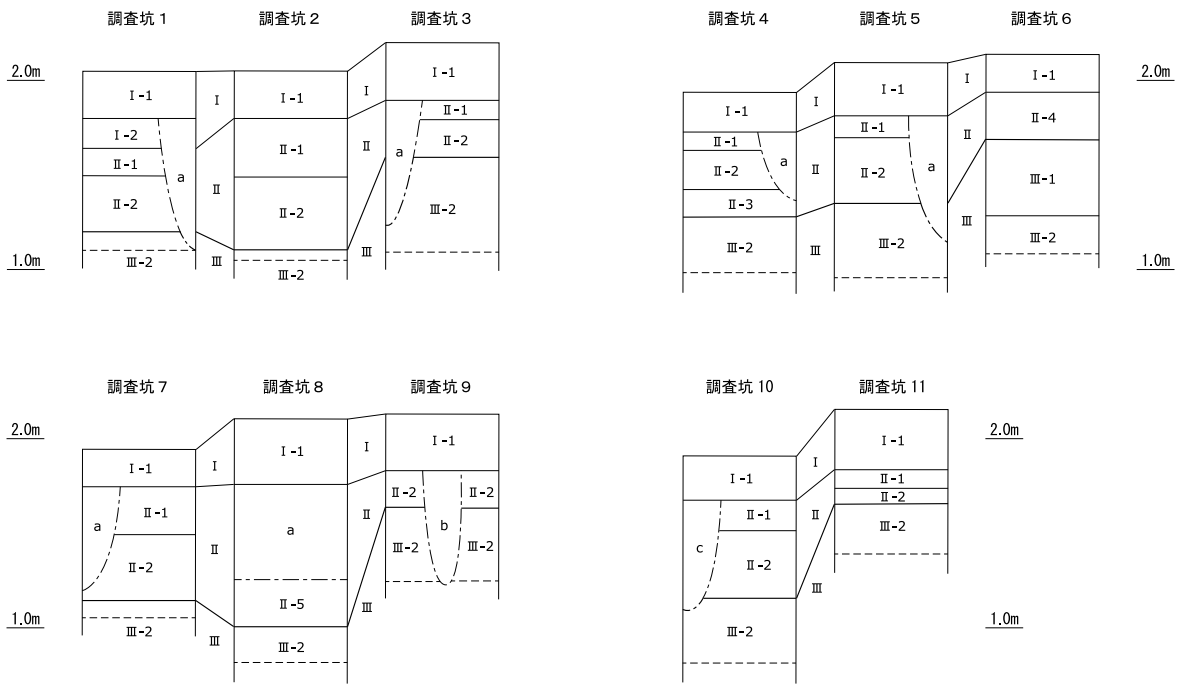
調査坑3土層堆積状況

32 やなぎのうちのせき
柳ノ内遺跡 7次

所在地 西区馬郡町 1233 外
 調査期間 2022年12月20日
 調査原因 宅地分譲
 調査面積 44 m²
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 調査結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。
 遺跡の希薄地点と考えられる。
 調査担当 和田達也

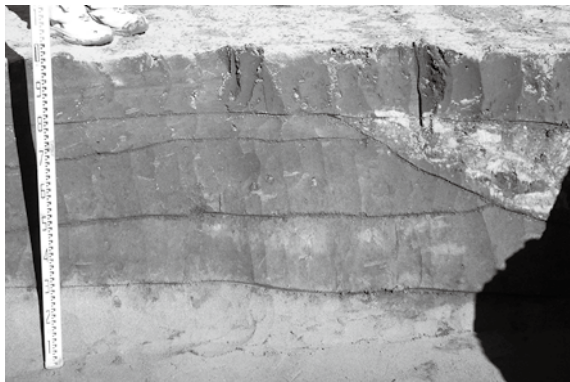


位置図 (2, 500分の1)



- | | | | |
|---------------------|------------------|------------|-------------------|
| I層 耕作土・造成土 | II層 自然堆積土 | III層 基盤層 | 現代の攪乱 |
| I-1 暗褐色砂(耕作土) | II-1 褐色砂 | III-1 灰黄色砂 | a 褐色砂・黒褐色砂・黄色土の混層 |
| I-2 褐色砂と黄色土の混層(造成土) | II-2 黒褐色砂(粘質) | III-2 灰色粗砂 | b 黒褐色砂 |
| | II-3 暗褐色砂 | | c 被熱した花崗岩と焼土 |
| | II-4 暗灰色砂 | | |
| | II-5 黒褐色砂と灰色砂の互層 | | |

土層柱状図 (S=1/40)



調査坑 4 土層堆積状況



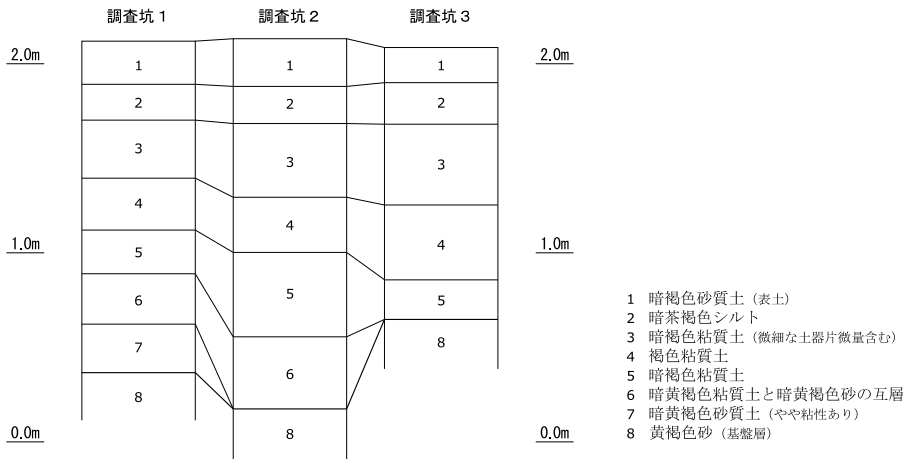
調査坑 11 土層堆積状況

33 ^{かわくぼふなといせき} 川久保船渡遺跡 3次

所在地 北区細江町中川 4812-1
 調査期間 2023年1月12日
 調査原因 個人住宅建設
 調査面積 7 m²
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 調査結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。
 遺跡の希薄地点と考えられる。
 調査担当 井口智博



位置図 (2,500分の1)



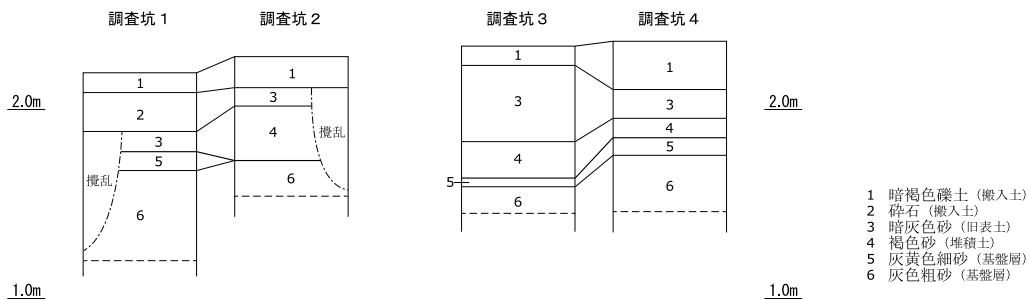
土層柱状図 (S=1/40)

34 ^{とのみちひがしいせき} 殿道東遺跡 6次

所在地 西区馬郡町 4483-1、4484 外
 調査期間 2023年1月17日
 調査原因 宅地造成
 調査面積 16 m²
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 調査結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。
 遺跡の希薄地点と考えられる。
 調査担当 和田達也



位置図 (2,500分の1)



土層柱状図 (S=1/40)

35 しじみづかいせき
蜆塚遺跡 7次

所在地 中区蜆塚四丁目 19260-2 外

調査期間 2023年2月6日～24日

調査原因 史跡整備計画策定 調査面積 1 m²

検出遺構 なし 出土遺物 縄文土器、獣骨

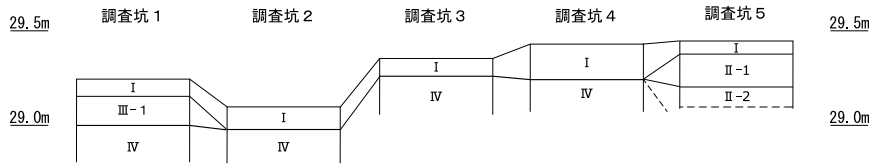
調査結果 遺跡検出面までの盛土厚が非常に浅いことが判明した。また、過去の調査範囲と捉えていた箇所でも、未調査部分が存在することを確認した。

調査担当 鈴木京太郎

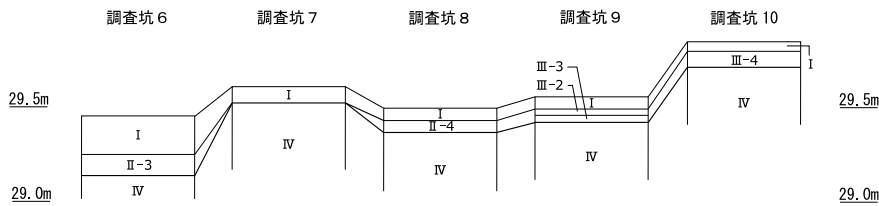


位置図 (2,500分の1)

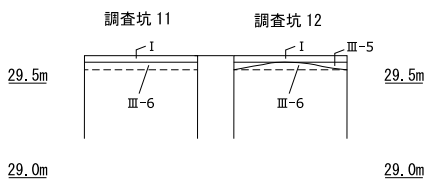
[第1貝塚]



[第2貝塚]

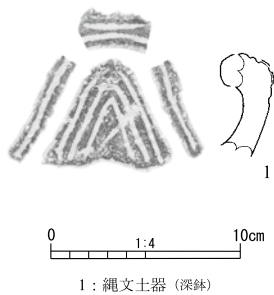


[住居跡露出展示施設]



- | | | | |
|------|-----------------|-------|---------------|
| I層 | 表土、耕作土 | III層 | 黒色系粘質土(貝を含む) |
| II層 | 黒色系粘質土(貝を含まず) | III-1 | 黒色粘質土と貝の混層 |
| II-1 | 黒色粘質土 | III-2 | 黒色粘質土と貝の混層 |
| II-2 | 黒褐色粘質土 | III-3 | 黒褐色粘質土(貝は少なめ) |
| II-3 | 暗褐色粘質土 | III-4 | 黒色粘質土と貝の混層 |
| II-4 | 黒褐色粘質土(焼土、炭化物含) | III-5 | 黒褐色粘質土と貝の混層 |
| | | III-6 | 褐色粘質土(貝は少なめ) |
| | | IV層 | 黄褐色粘質土(基盤層) |

土層柱状図 (S=1/40)



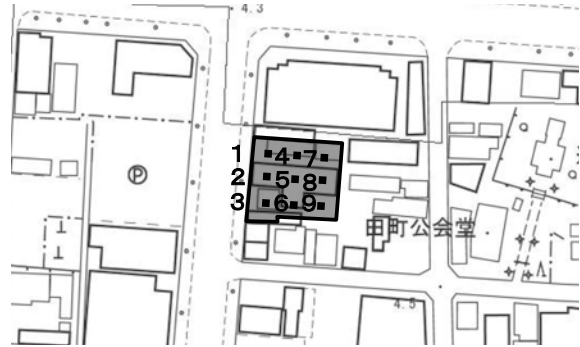
出土遺物実測図



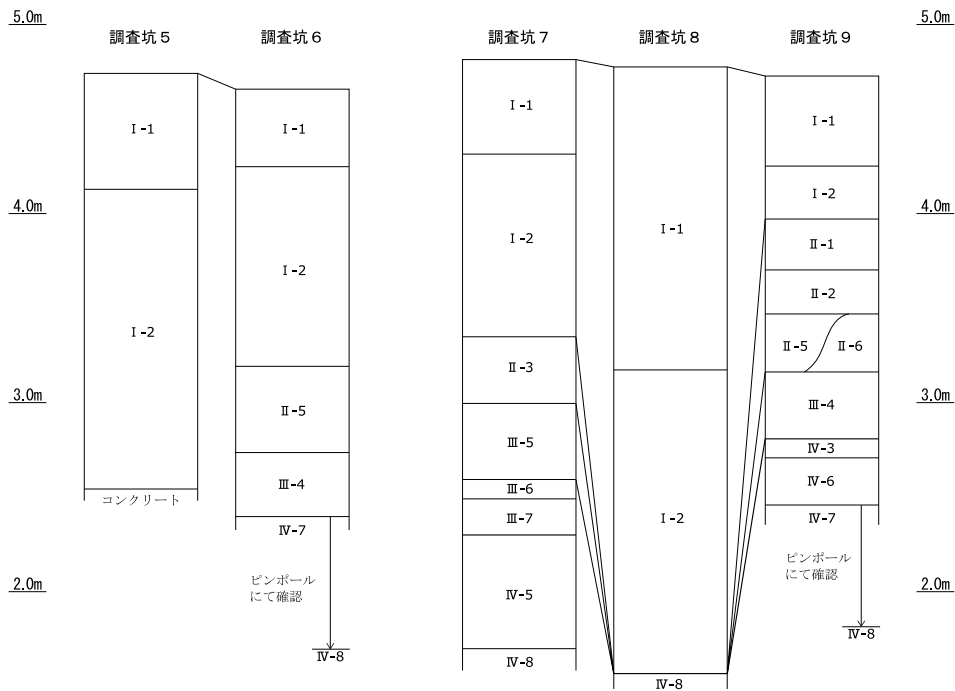
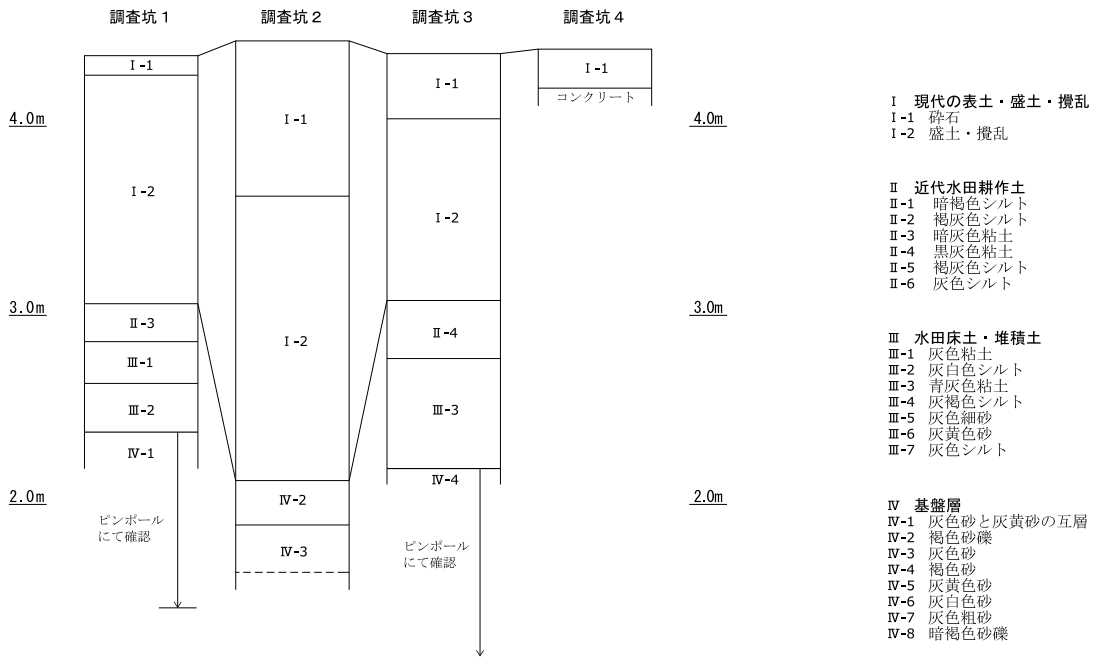
調査坑5土層堆積状況

36 はままつじょうかまちいせき 浜松城下町遺跡 26次

所在地 中区田町 227-10 外
 調査期間 2023年2月27日、28日
 調査原因 集合住宅建設 調査面積 36㎡
 検出遺構 なし 出土遺物 なし
 調査結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。
 遺跡の希薄地点と考えられる。
 調査担当 和田達也



位置図 (2,500分の1)

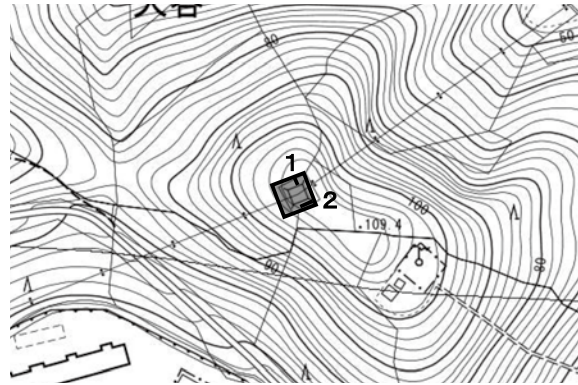


土層柱状図 (S=1/40)

37 ^{ささおかこじょうあと} 笹岡古城跡 2次

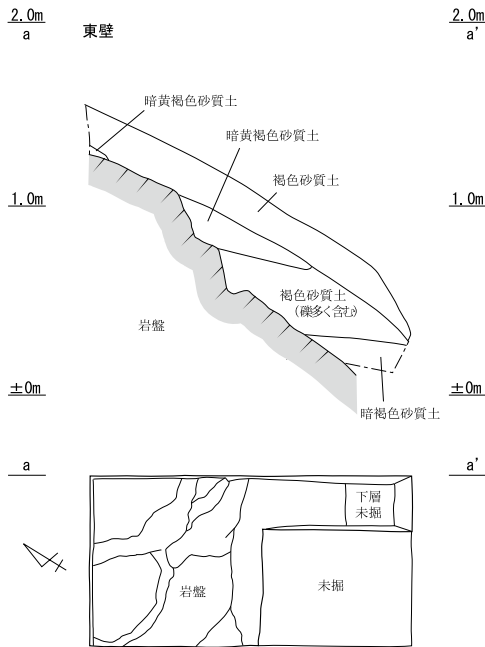
所在地 天竜区大谷 501-1
 調査期間 2023年3月14日
 調査原因 送電線建設 調査面積 6 m²
 検出遺構 なし
 出土遺物 土師質土器、施釉陶器
 調査結果 中世の遺物包含層を確認し、遺物が出土した。遺物は内湾内耳鍋が含まれ、16世紀後葉以降に盛行する形態であることから、笹岡城の存続期間を考えるうえで着目すべき遺物と言える。

調査担当 井口智博

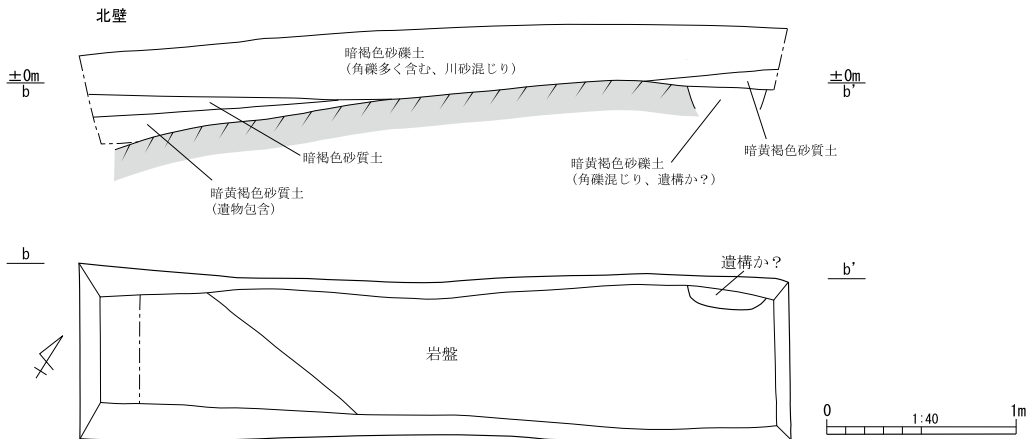


位置図 (2,500分の1)

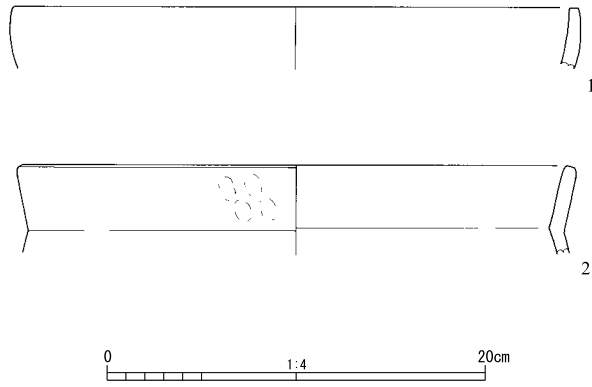
調査溝 1



調査溝 2



土層断面図及び平面図 (S=1/40)



1・2：土師質土器（内湾内耳鍋）
1・2：調査溝2出土

出土遺物実測図



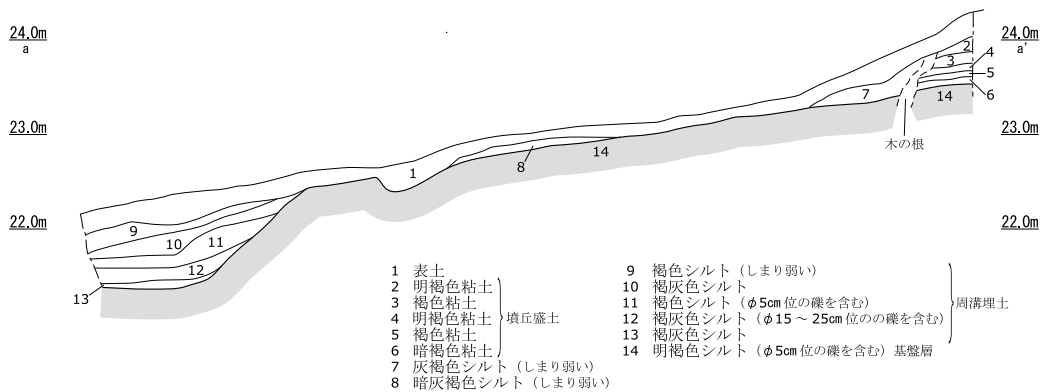
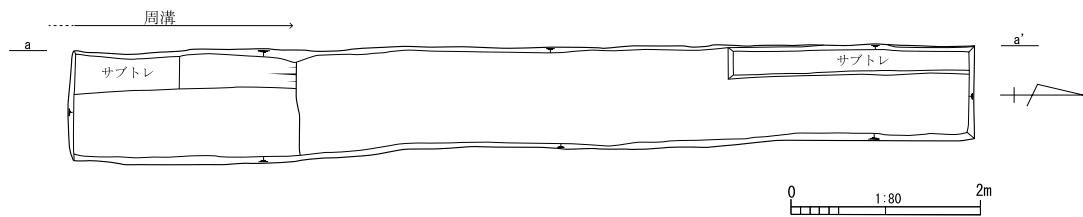
出土遺物

38 いりのこふん 入野古墳 2次

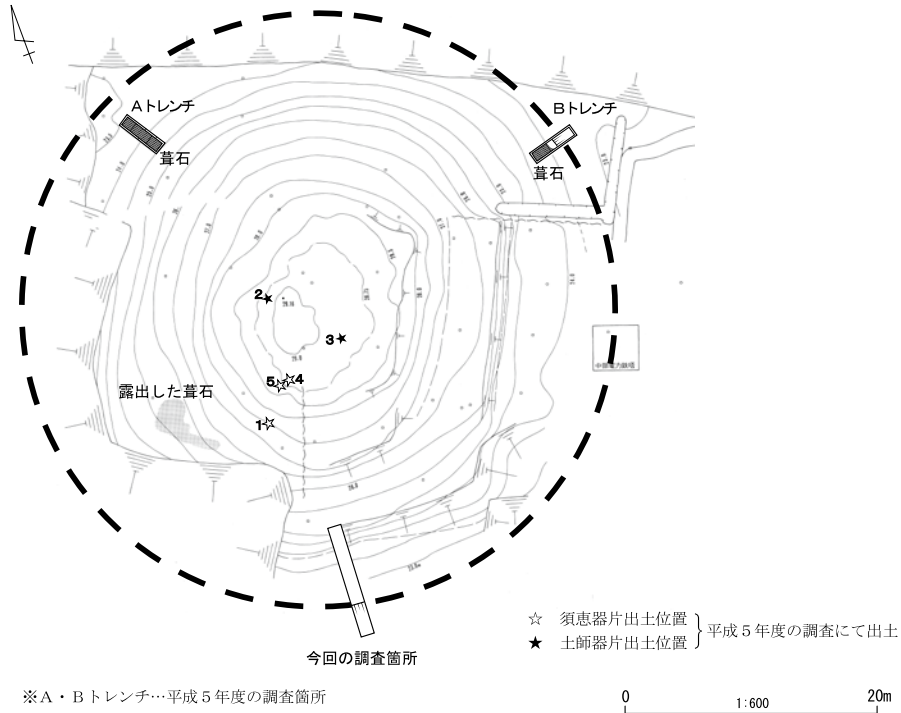
所在地 西区入野町 4924-7、4924-12 外
調査期間 2023年3月22日～24日
調査原因 範囲確認
調査面積 9 m²
検出遺構 古墳（墳丘、周溝）
出土遺物 なし
調査結果 調査溝の北側では墳丘盛土、南側では周溝を確認した。
調査担当 川西啓喜



位置図 (2,500分の1)



土層断面図及び平面図 (S=1/80)



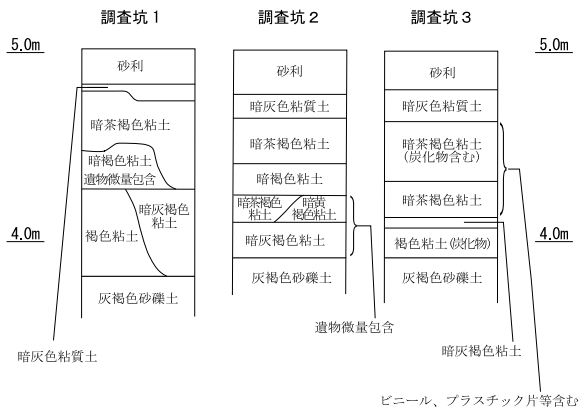
墳丘想定図 (S=1/600)

39 おおかばちょうむらひがしにいせき
大蒲町村東Ⅱ遺跡6次

所在地 東区大蒲町 111-5
 調査期間 2023年3月30日
 調査原因 集合住宅建設 調査面積 10㎡
 検出遺構 なし 出土遺物 土師質土器
 調査結果 中世の土器の小破片が出土したが、いずれも細片化しており、明確に遺構と判断できる構造物も確認できなかった。
 調査担当 井口智博



位置図 (2,500分の1)



土層柱状図 (S=1/40)



1: 土師質土器 (く字内耳罐)

出土遺物実測図

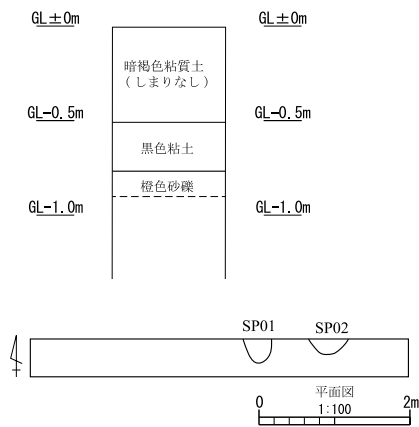
工事立会い報告

17 いいしやかたあと 井伊氏館跡

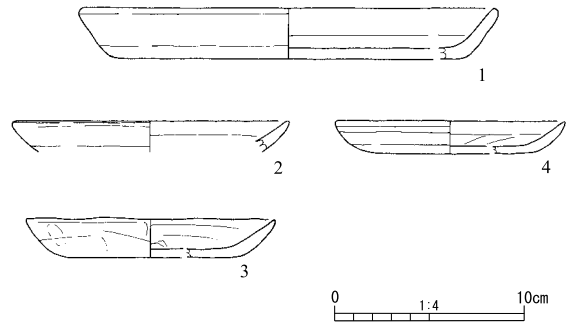
所在地 北区引佐町井伊谷 605-1
調査期間 2022年8月18日
調査原因 水道管埋設
検出遺構 小穴2基
出土遺物 土師器、土師質土器（かわらけ）
調査結果 掘削幅が狭小のため、遺構の性格は不明であるが、当遺跡において初めて明確な遺構が検出された。



位置図 (2,500分の1)



土層柱状図 (S= 1/40) 及び平面模式図 (S=1/100)



1～4：土師質土器（非ロクロかわらけ）
 1：SP01出土 2～4：SP02出土

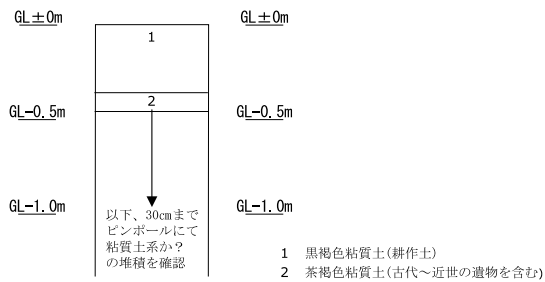
出土遺物実測図

29 かいしもしもぐみいせき 笠井下組遺跡

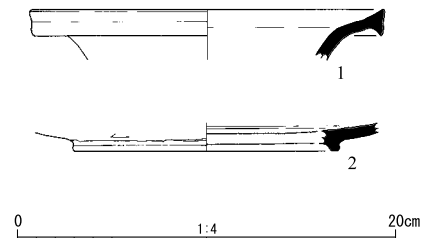
所在地 東区笠井町 342-3、346-7
調査期間 2022年12月2日
調査原因 コンクリートブロック設置
検出遺構 なし **出土遺物** 須恵器、土師器、陶器
調査結果 基盤層の確認には至らなかった。茶褐色粘質土内からは、古代と近世の遺物が出土した。また、遺構は検出されなかった。



位置図 (2,500分の1)



土層柱状図 (S=1/40)

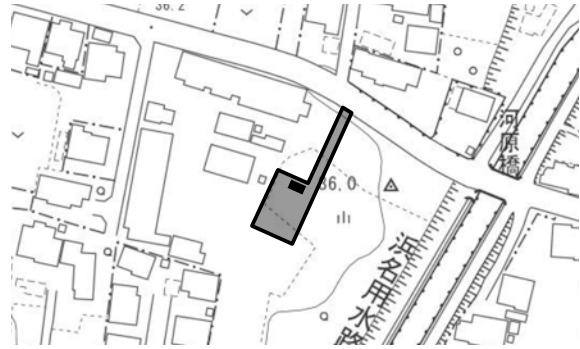


1：須恵器（甕） 2：須恵器（有台坏身）

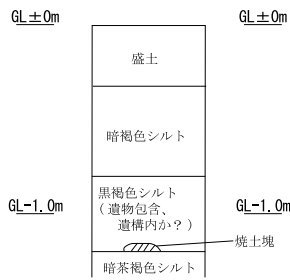
出土遺物実測図

33 ^{しばもとせいせき} 芝本遺跡

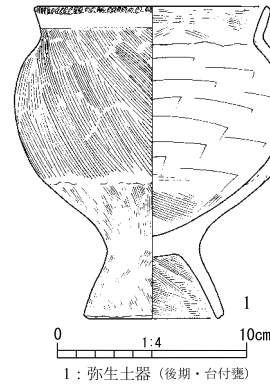
所在地 浜北区於呂 2864-1 の一部
 調査期間 2022年12月19日
 調査原因 浄化槽設置
 検出遺構 竪穴建物
 出土遺物 弥生土器
 調査結果 焼土塊を検出。竪穴建物内と考えられる。



位置図 (2,500分の1)



土層柱状図 (S=1/40)

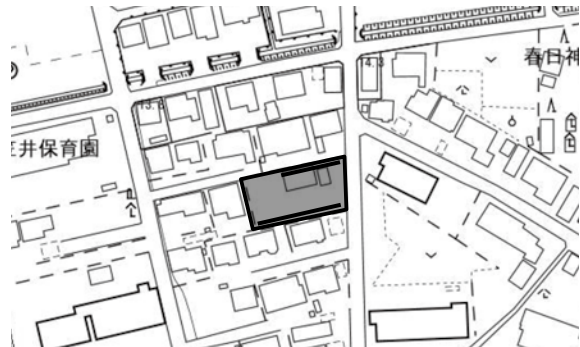


1: 弥生土器 (後期・台付甕)

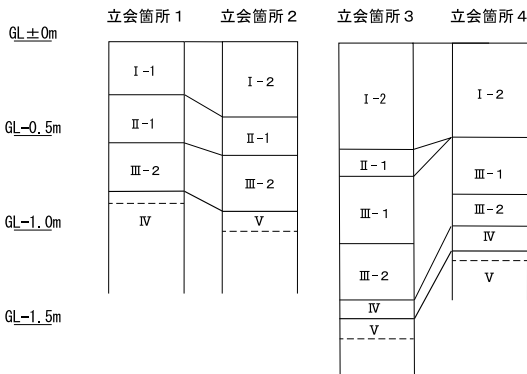
出土遺物実測図

34 ^{かさいわかばやしせいせき} 笠井若林遺跡

所在地 東区笠井町 1316-2 外
 調査期間 2022年12月20日、2023年1月6日
 調査原因 コンクリートブロック設置
 検出遺構 なし
 出土遺物 土師質土器
 調査結果 近世の土師質土器 (焙烙) を確認した。また、遺構は検出されなかった。

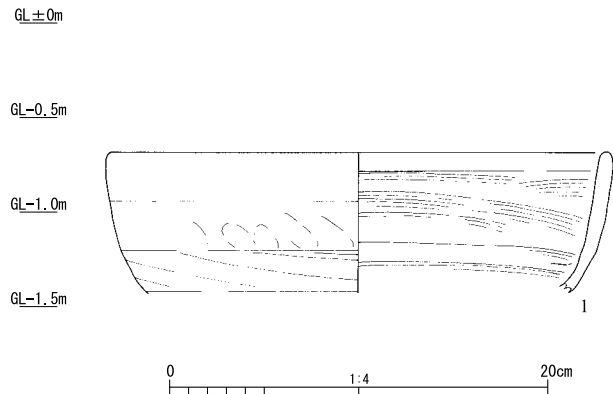


位置図 (2,500分の1)



- I-1 表土
 - I-2 盛土
 - II-1 褐色砂質シルト
 - II-2 灰色砂質シルト (褐色シルト混じる)
 - III-1 褐色シルト
 - III-2 褐色シルト
 - IV 褐灰色砂 (Φ 1~3mm 砂含む) 漸移層
 - V 灰色粗砂 (Φ 5mm 位の砂含む) 基盤層
- } 近世の遺物包含層か?

土層柱状図 (S=1/40)



1: 土師質土器、近世 (ホウロク)

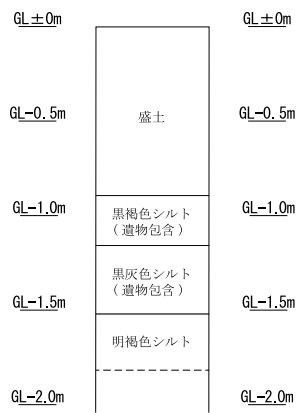
出土遺物実測図

43 ^{しばもといせき} 芝本遺跡

所在地 浜北区於呂 2864-90
 調査期間 2023年3月10日
 調査原因 浄化槽設置
 検出遺構 なし
 出土遺物 弥生土器
 調査結果 明確な遺構は確認できなかったが、黒灰色シルト層からは多くの遺物が出土しており、大型の遺構の可能性はある。



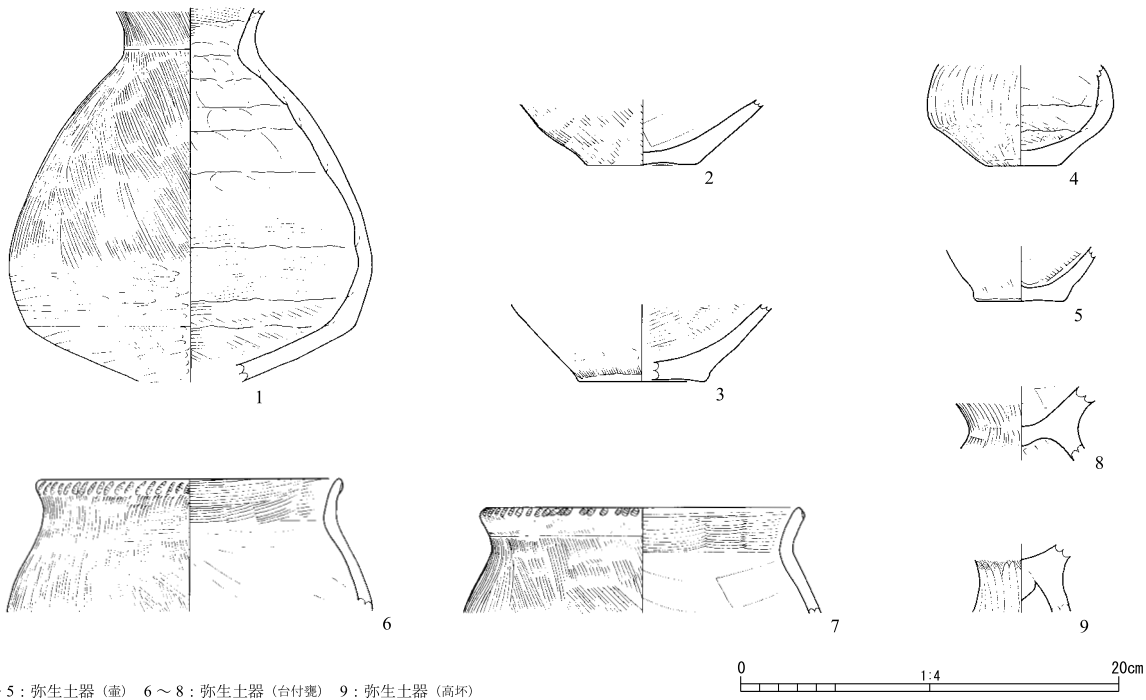
位置図 (2,500分の1)



土層柱状図 (S=1/40)



立会箇所土層堆積状況



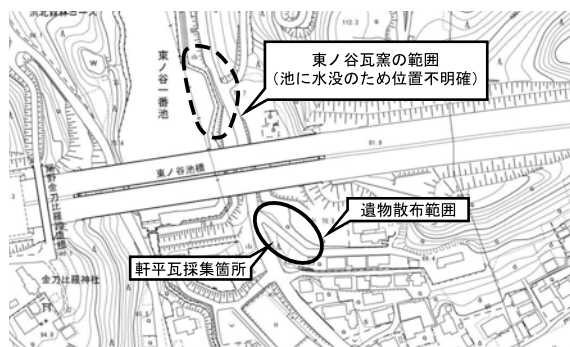
1～5: 弥生土器 (壺) 6～8: 弥生土器 (台付甕) 9: 弥生土器 (高坏)
 1～9: 黒褐色シルト～黒灰色シルト出土

出土遺物実測図

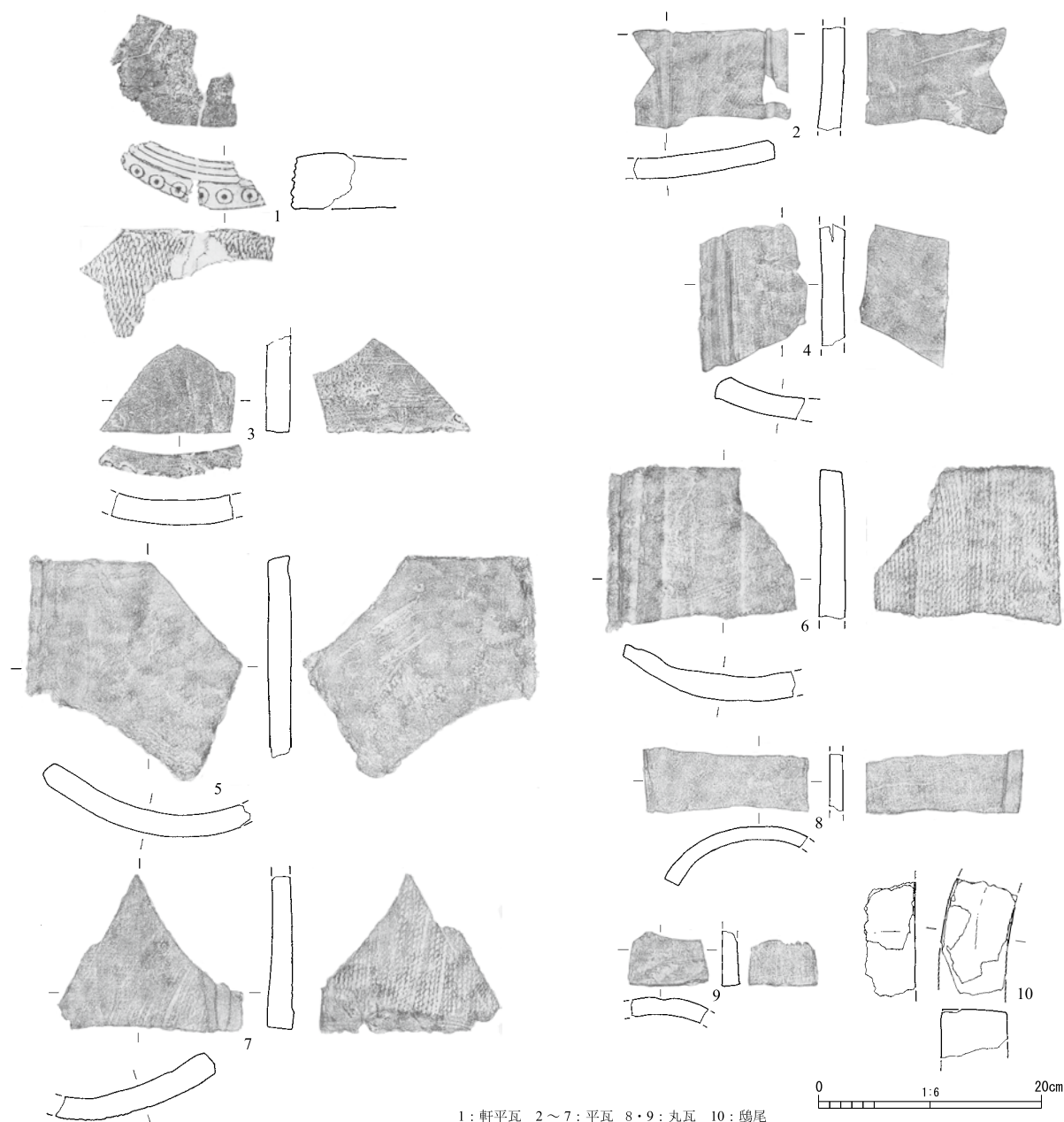
踏査報告

ひがしのやがようあとりんせつち 2 東ノ谷瓦窯跡隣接地

所在地 浜北区尾野地内
 調査期間 2022年8月4日
 調査原因 現地確認
 検出遺構 なし
 出土遺物 平瓦、軒平瓦
 調査結果 周知の埋蔵文化財包蔵地内に含まれておらず、今後包蔵地範囲の見直しも含めて検討が必要である。



位置図 (2,500分の1)



1: 軒平瓦 2~7: 平瓦 8・9: 丸瓦 10: 鴟尾

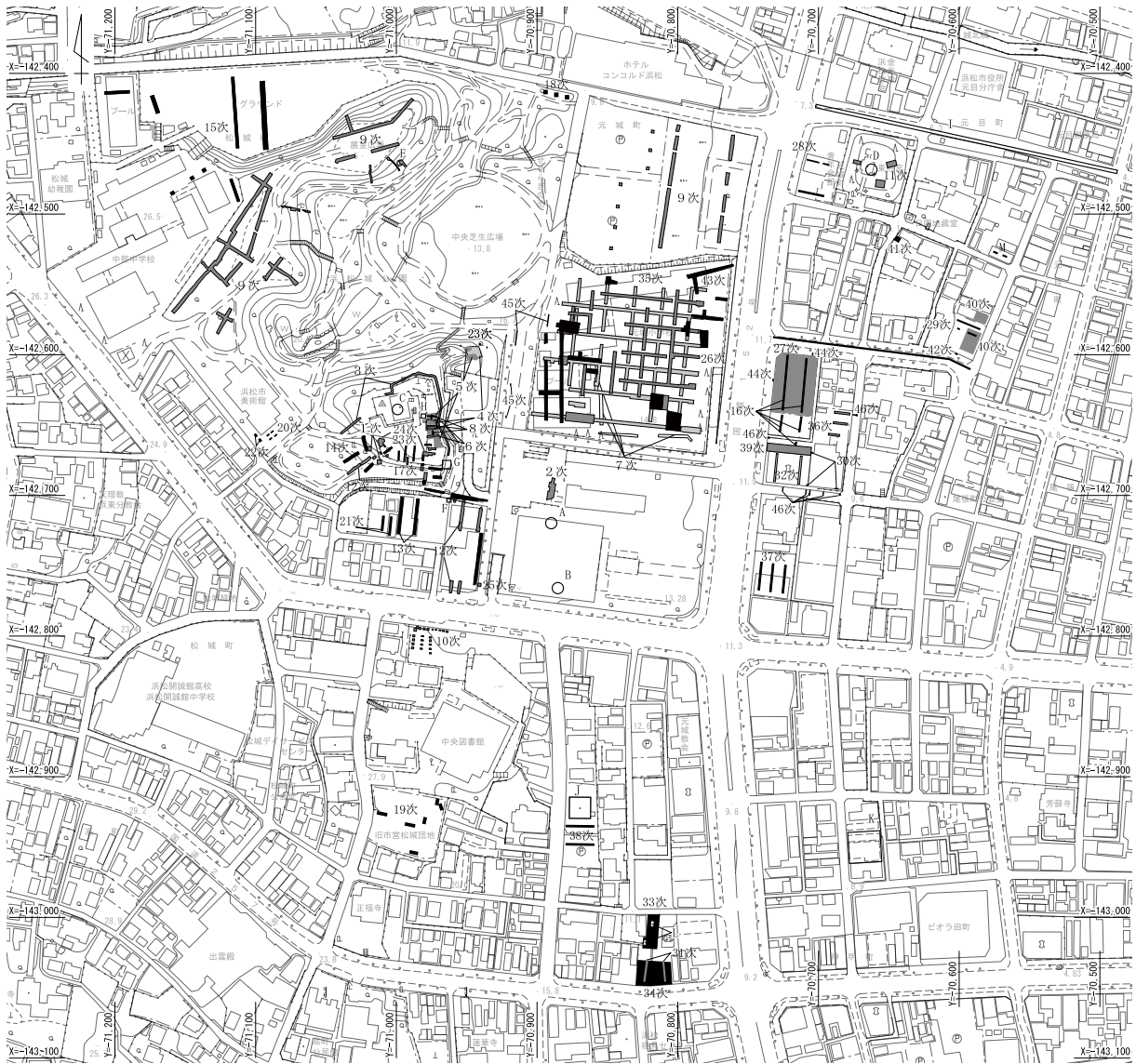
出土遺物実測図

第4章 詳細報告

1 浜松城跡 44・46次調査成果

(1) 調査の経緯

浜松城跡 44次調査・46次調査地点は近世浜松城における三の丸にあたり、前身城郭・引間城の段階では城内もしくは城下町にあたる。対象地と近接する地点では27次・36次・39次調査を実施し、15世紀代の堀跡、16世紀後半から17世紀初頭までの期間を中心に機能した堀跡、15世紀代から19世紀代に至る井戸等や柱穴などの遺構と出土遺物を確認し、中世から近世を中心とした時期の遺構や遺物が出土している（浜松市教委 2022a・2022b）。また、44次調査は下水道管の新設が、46次調査は下水道管とマンホールの新設がそれぞれに計画されたため、工事の進捗に合わせて本発掘調査を実施した。（2）を川西啓喜が、その他を和田達也が記載した。



第1図 浜松城跡の調査履歴と44次・46次調査地点

(2) 44 次調査の成果

調査の方法と経過 44 次調査は、下水道管理設工事に先立ち実施した本発掘調査である。工事区域に合わせて 3 箇所の調査区を設定し発掘調査を行った。調査対象地は令和元年（2019 年）～ 2 年（2020 年）にかけて実施した 27 次調査区と近接する。現地作業は、令和 4 年（2022 年）4 月 25 日～ 5 月 11 日にかけて実施した。調査面積は、35 m²である。

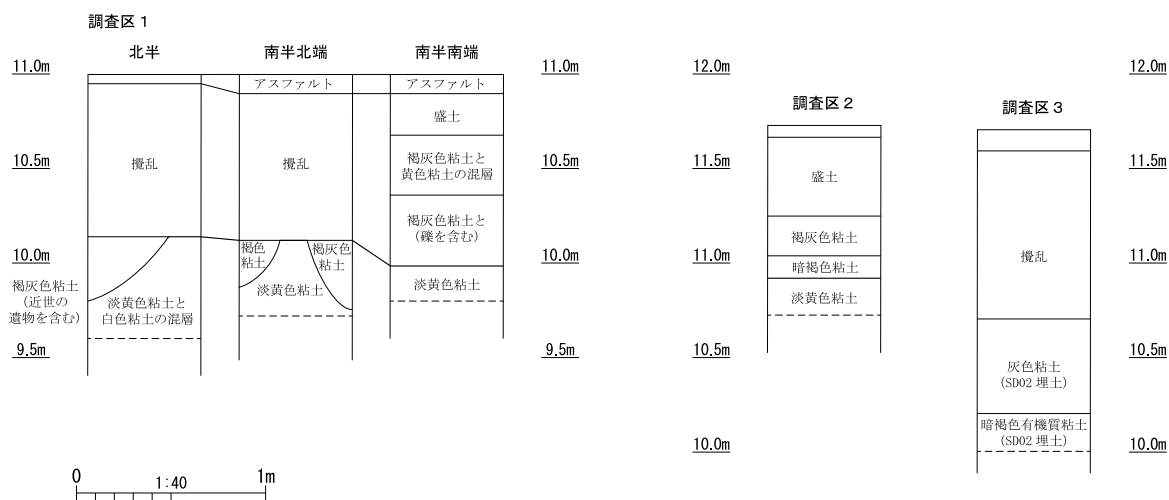
土層堆積状況 いずれの調査区も既存配管設等に伴う攪乱の影響を受けており、特に調査区 1・3 では基盤層直上まで及んでいた。比較的攪乱の影響が少ない調査区 2 において、27 次調査と近似した土層堆積状況を確認した。確認した土層堆積状況は、上層より盛土、褐灰色粘土、暗褐色粘土、淡黄色粘土（基盤層）の順である。

検出遺構 調査区 1・3 において小穴及び堀を検出した。調査区 1 において基盤層より掘り込まれた小穴 3 基を確認した。壁面の観察にて確認したものであり、詳細な規模は不明であるが、いずれも直径 15cm 程である。埋土内から遺物が出土しなかったため、詳細な帰属時期は不明と言わざるを得ないが、27 次調査で検出した遺構と埋土の特徴が近似していることから、15 世紀後半から 16 世紀頃の遺構と捉えておきたい。

調査区 3 において堀を確認した。既設配管の影響により、平面検出及び完掘には至らなかったが、検出した位置と埋土の特徴等から、27 次調査で確認した SD02 の南側延長部分と考えられる。また、埋土は灰色粘土と暗褐色粘土を確認したが、暗褐色粘土内には有機質が含まれることから、帯水環境化にあったと考えられる。

出土遺物 細片のため図化できた遺物はなかったが、調査区 1 の褐灰色粘土内から近世以降の陶器と陶磁器が出土した。また、調査区 3 において検出した堀の埋土から 15 世紀後半～ 16 世紀前半と考えられる内耳鍋が出土した。

小 結 今回の調査対象地は、浜松城の三の丸に位置しており、発掘調査の結果、三の丸に関わる明確な遺構は検出できなかったが、調査区 1・3 において遺構・遺物を確認した。調査区 1 では基盤層直上まで近代以降の掘削の影響を受けていたが、15 世紀後半から 16 世紀頃と考えられる小穴 3 基を検出した。調査区 3 において堀を検出し、埋土内から 15 世紀後半～ 16 世紀前半の内耳鍋が出土した。検出した堀は SD02 の延長部分と考えられ、今回の調査成果から SD02 の全長は 43m 以上であることが明らかとなった。



第 2 図 浜松城跡 44 次調査土層柱状図

(3) 浜松城跡 46 次調査の成果

調査の方法と経過 46 次調査は、下水道管とマンホールの新設に先立つ本発掘調査である。令和 5 年（2023）3 月 22 日から 6 月 8 日にかけて工事の進捗に合わせて断続的に実施した。

土層堆積状況 46 次調査区の土層堆積状況は、特徴や時期により 5 つに大別して認識することができる。

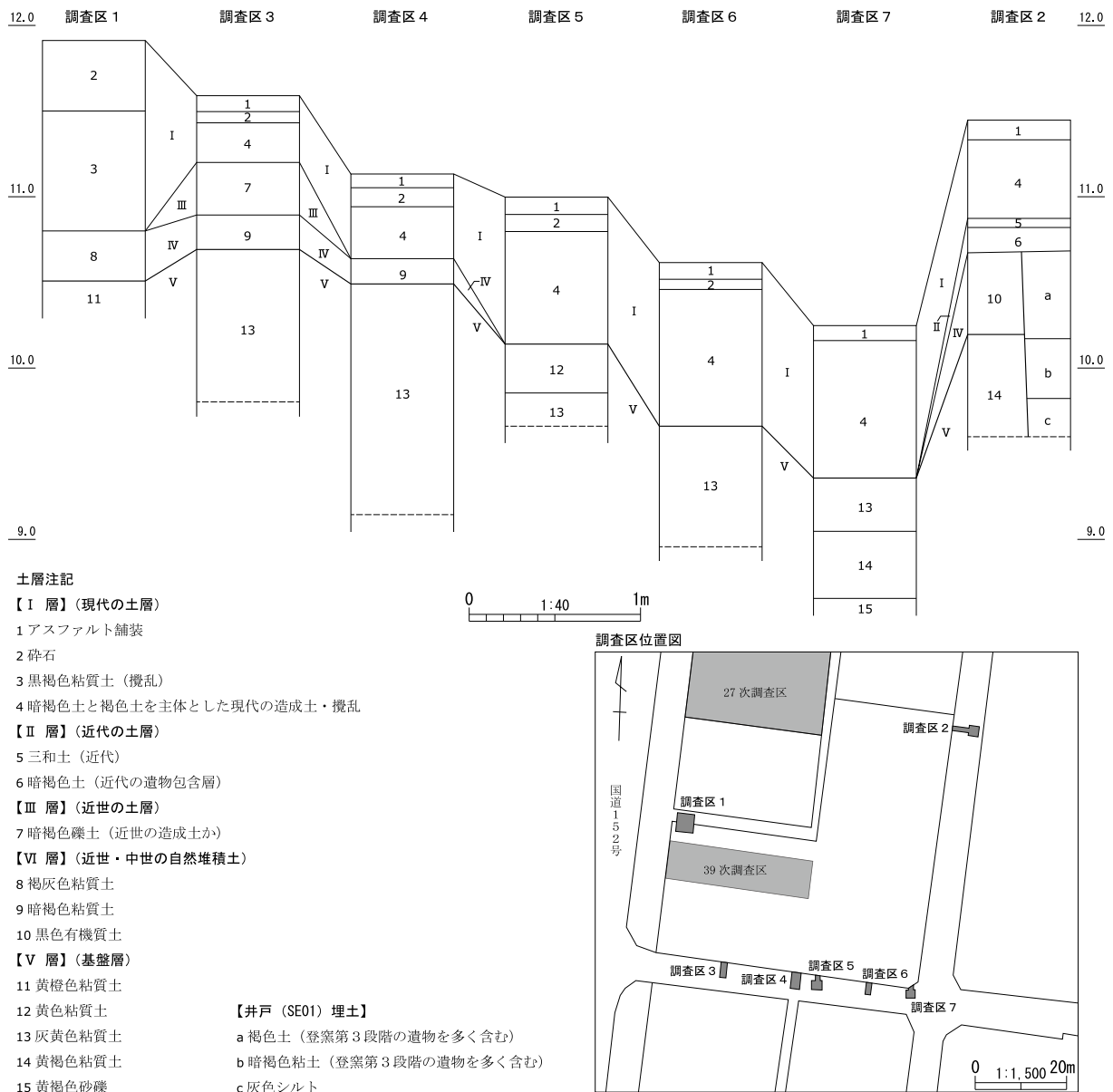
I 層は、現代の土層等である。アスファルト舗装や碎石、攪乱・造成土を認識することができる。

II 層は、近代の土層である。三和土や近世から近代にかけての遺物を多く含む暗褐色土の整地土が認識できる。

III 層は、近世の土層である。基盤層由来の暗褐色礫土であり、造成土とみられる。

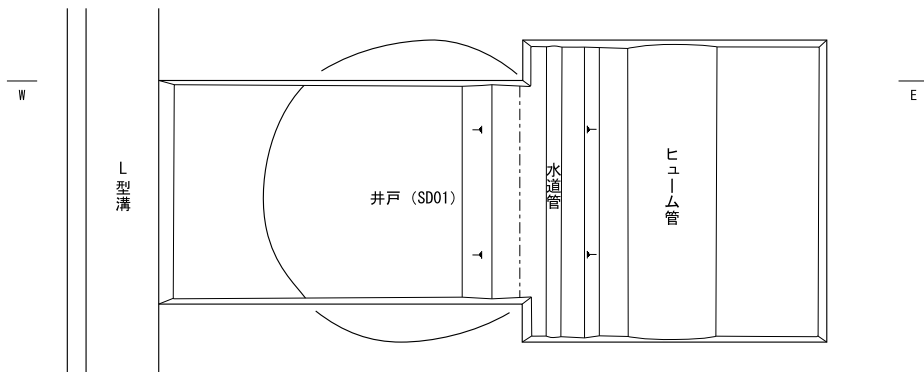
IV 層は、遺物を含まないが、土質や堆積状況から中世から近世にかけての時期の自然堆積土と推定できる。褐灰色粘質土や暗褐色粘質土、黒色有機質土が確認できる。

V 層は、基盤層である。黄橙色粘質土、黄色粘質土、黄褐色粘質土、灰黄色粘質土、黄褐色砂礫が認められる。平面検出上の遺構検出面は V 層上面である。

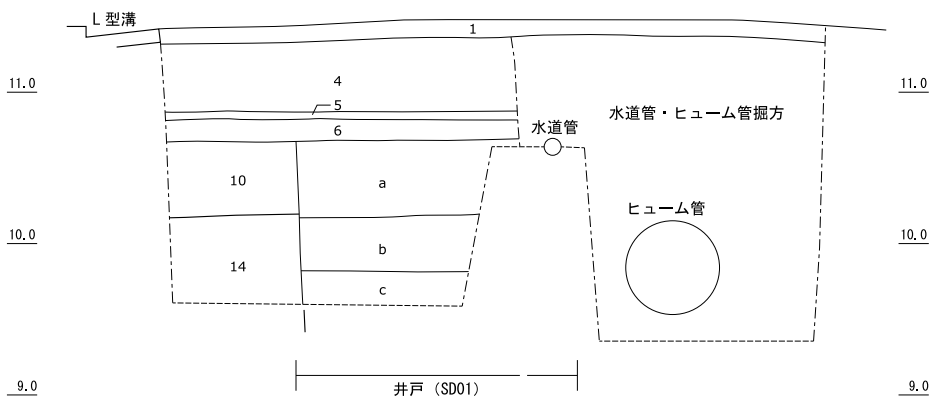


第 3 図 浜松城跡 46 次調査土層柱状図

調査区2 平面図



調査区2 土層断面図
12.0



土層注記

【I 層】(現代の土層)

- 1 アスファルト舗装
- 4 暗褐色土と褐色土を主体とした現代の造成土・攪乱

【II 層】(近代の土層)

- 5 三和土 (近代)
- 6 暗褐色土 (近代の遺物包含層)

【VI 層】(近世・中世の自然堆積土)

- 10 黒色有機質土
- 【V 層】(基盤層)
- 14 黄褐色粘質土

【井戸 (SE01) 埋土】

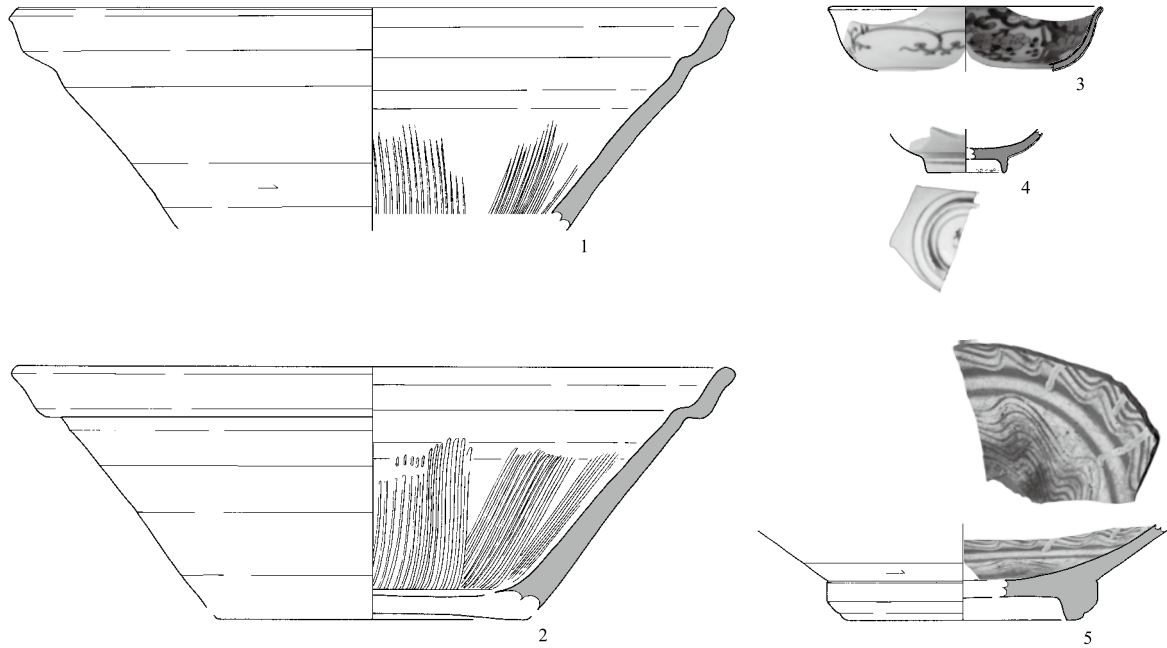
- a 褐色土 (登窯第3段階の遺物を多く含む)
- b 暗褐色粘土 (登窯第3段階の遺物を多く含む)
- c 灰色シルト

第4図 浜松城跡46次調査区2詳細図

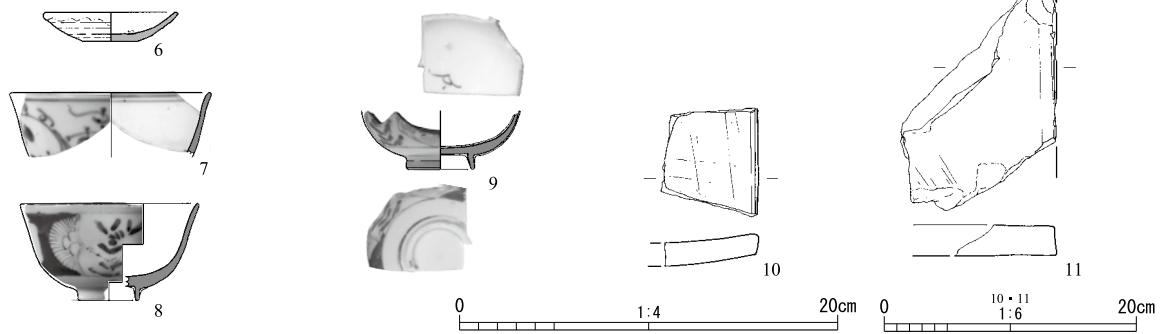
検出遺構 調査区2において井戸跡 (SE01) を検出した。SE01 は平面形が直径約2mの円形で、井戸側の構築材が認められないことから素掘りの井戸と判断できる。SE01 の構築面は、近代の整地により失われており、井戸枠は不明であるが、基盤層上に堆積した近世以前の表土と想定できる黒色有機質土を掘削して構築されている。検出深度が深く、調査区の幅が井戸よりも狭いため、安全を確保した発掘調査が実施できないことから、井戸の底面の検出には至らなかった。なお、発掘調査が行えなかった井戸跡の下部は、開発が及ばないため、現地に保存されている。廃絶時期は井戸跡埋土から出土した遺物の時期や検出状況から、江戸時代末期から近代初頭と捉えられる。

出土遺物 調査区2のSE01埋土及び、SE01の上位層において認識した近代の整地層から遺物が出土した。第5図-1～5はSE01埋土出土遺物である。1・2は瀬戸窯産の播鉢 (登窯第8～9小期) である。3・4は肥前産染付である。5は肥前産陶器の鉢また片口で、褐色の胎土に白土で波状文や横線文が施される。肥前陶磁IV期 (九州近世陶磁学会2000) を中心とした時期のものと捉えられる。

SE01 出土遺物



近代整地土出土遺物



第5図 浜松城跡 46次調査区2 出土遺物

第5図-6～11は近代整地土出土遺物である。6は美濃窯産の燈明皿、7は瀬戸窯産の磁器碗（登窯第3段階）、8・9は瀬戸窯産の色絵の碗（近代）である。10は平瓦もしくは棧瓦、11は塀瓦もしくは海鼠瓦である。

小 結 7つの調査区のうち、6つの調査区では、近現代の開発の影響が大きく遺構や遺物は認識できなかったが、調査区2において井戸跡を検出したことから、井戸のように掘削が深い遺構や近現代の開発を免れた地点では、遺跡が残存していることが明らかになった。また、27・36・39次調査において近世の遺構や遺物が限られていたが、近代に大規模な整地等の地形改変が行われ、すでに近世の遺構や遺物が失われていたためと捉えることができる。これまでの浜松城における発掘調査成果と近世浜松城を描いた絵図を対照すると、調査区1が城内通路もしくは侍屋敷、調査区2が侍屋敷、調査区3～7が城内通路にあたと捉えられる。

【引用・参考文献】

浜松市教育委員会 2022a 『令和2年度 浜松市文化財年報』

浜松市教育委員会 2022b 『浜松城跡 15』

九州近世陶磁学会 2000 『九州陶磁の編年』

藤澤良祐 2007 「総論」『愛知県史 別編 窯業2 中世・近世 瀬戸系』愛知県

2 浜松城跡 45 次調査報告

(1) 遺跡の概要と調査経緯

遺跡の立地と概要 浜松城跡は浜松市中区元城町とその周辺に築かれた戦国時代から近世に至る間、地域拠点として機能した城郭である。城郭の規模が最大となった江戸時代には東西 600 m、東西 650 m の範囲に及んだ。調査対象地は、徳川家康による浜松城築城から近世城郭に至るまで本丸等の中枢部にあたる。近世の城絵図には、周囲を石垣めぐらした本丸の姿が記録されている。廃城後本丸の東半の地形が改変され、本丸東半の範囲について物理的な根拠を持って示すことが不可能な状況であったが、2・10・14・26・35・43 次調査等の成果の蓄積により、物理的な定点を用いて本丸の範囲を示すことができるようになってきた（浜松市教委 1996・2015・2016・2023）。

調査・報告の経緯 45 次調査は、都市計画公園浜松城公園の南北通路の再整備が計画されたため、主管課である都市整備部公園課の依頼を受け、遺跡の埋没状況にかかわる情報を得るための確認調査を実施した。

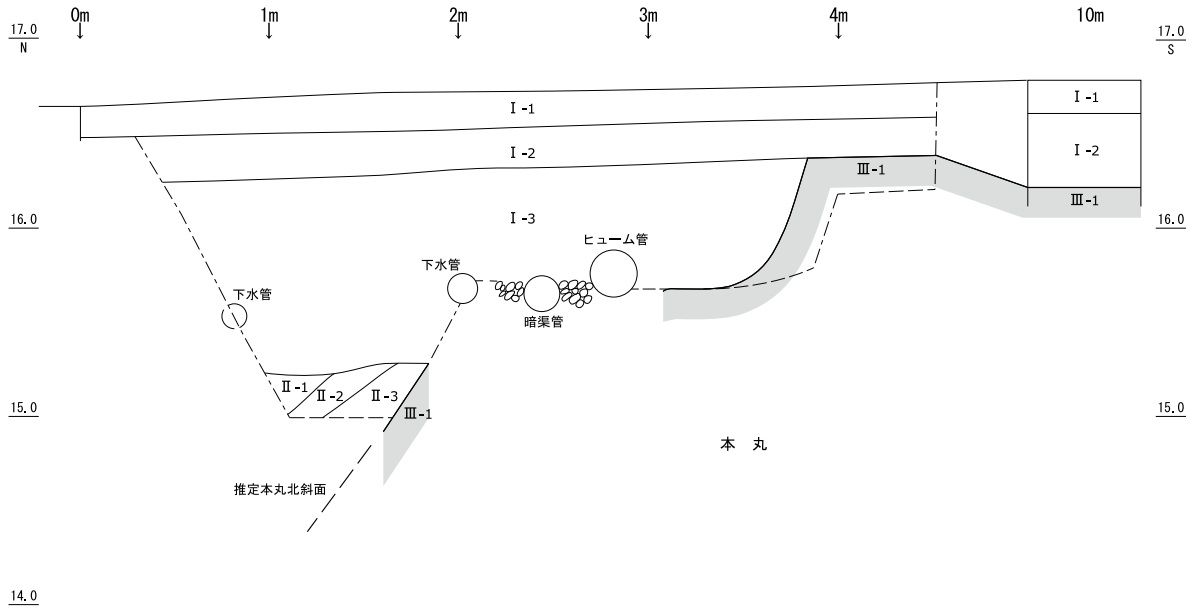
(2) 45 次調査の詳細

調査の方法と経過 調査対象地に 11 m×1 m、9 m×1 m、2 m×1 m 2 つの計 4 つの調査溝を設定した。バックホーで層位的に掘削して遺物の出土状況を確認したのち、人力で遺構の検出を試み、土層の堆積状況を観察した。調査終了後は埋め戻し、旧状に復帰した。

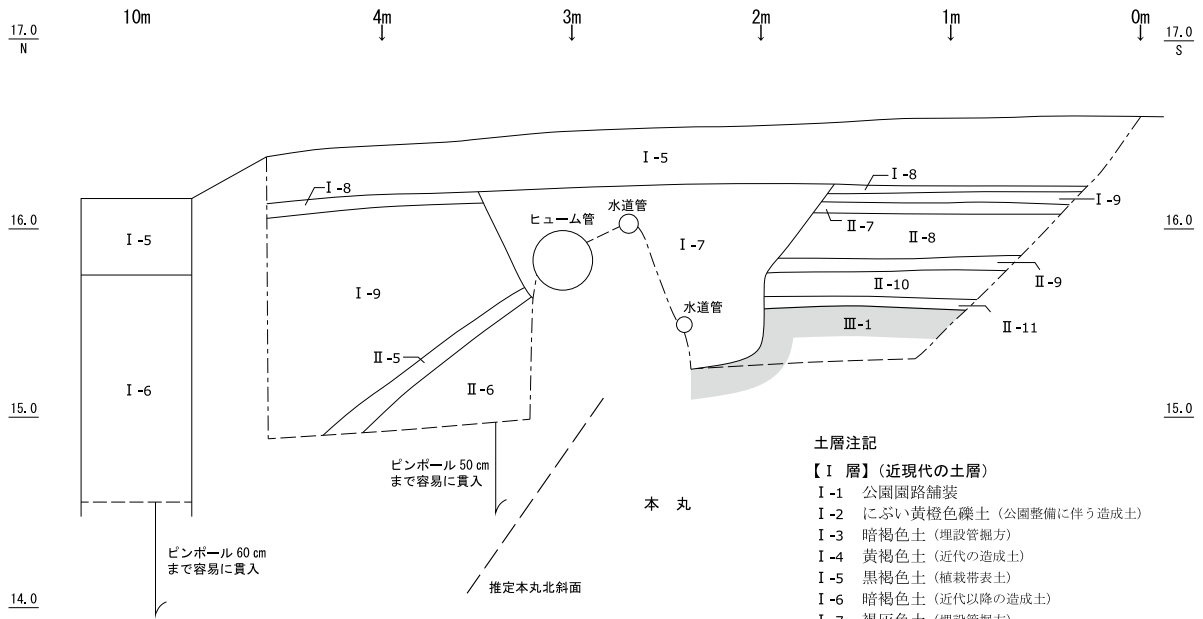


第 6 図 浜松城跡の調査履歴と 45 次調査地点

調査溝 1



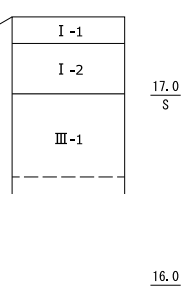
調査溝 2



調査溝 3



調査溝 4



土層注記

【I 層】(近現代の土層)

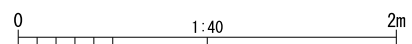
- I-1 公園園路舗装
- I-2 にぶい黄褐色礫土 (公園整備に伴う造成土)
- I-3 暗褐色土 (埋設管掘方)
- I-4 黄褐色土 (近代の造成土)
- I-5 黒褐色土 (植栽帯表土)
- I-6 暗褐色土 (近代以降の造成土)
- I-7 褐灰色土 (埋設管掘方)
- I-8 砕石層 (現代の表土)
- I-9 褐色礫土 (現代の造成土)

【II 層】(近世の土層)

- II-1 赤褐色砂
- II-2 灰褐色礫土
- II-3 暗褐色礫土 (灰白色粘土塊含む)
- II-4 円礫充填層
(50 ~ 100mm大の円礫層、
I-4層との境界部分に近世瓦を含む)
- II-5 灰褐色土
- II-6 褐色土
- II-7 灰褐色砂礫 (塀瓦含む)
- II-8 褐灰色礫土 (灰白色粘土塊含む、近世末造成土か)
- II-9 灰色砂礫 (塀瓦含む、近世末造成土か)
- II-10 褐灰色礫土 (近世末造成土か)
- II-11 灰褐色砂礫 (近世瓦含む、近世末造成土か)

【III 層】(基盤層)

- III-1 黄褐色砂



第 7 図 浜松城跡 45 次調査詳細図

土層堆積状況 調査対象地内は、地表から順に、Ⅰ層：近現代の土層、Ⅱ層：近世以前の堆積土や造成土、Ⅲ層：基盤層（黄橙色砂）の3つに分けて認識することができる。調査溝2では近世に遡るとみられる造成土を認識した。造成土は褐灰色礫土と近世瓦の小片を含む灰色系砂礫を交互に重ねて施工している状況が認識できる。

調査溝1 調査溝1では本丸の範囲を示すとみられる北向きの斜面（本丸北斜面）を攪乱の直下において検出した。本丸北斜面周辺の基盤層に高低差が認められる部分には、水道管や排水管、暗渠が設置されており、既存地形を利用して近代以降に給排水設備を設置したものとみられる。

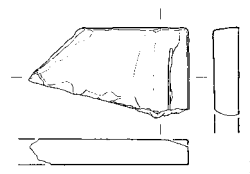
調査溝2 調査溝2では、本丸の範囲を示すとみられる南から北へと傾斜した土層堆積状況を認識した。また、傾斜面の南側（本丸側）では、基盤層上に褐灰色礫土と近世瓦含む灰色系砂礫を互層に積み重ねた盛り土造成を確認した。造成土内から出土した瓦は目板瓦（塀瓦）を含むが近世瓦に限られる。浜松城における目板瓦の採用時期が明らかでないが、調査溝2とその周辺において大規模な土木工事が想定されるのは、安政地震後に限られる。調査溝2における基盤層の検出標高は15.5mであり、本丸上面の標高が25m程度であることを踏まえると、10mほどの盛り土が部分的に行われていた可能性がある。明治5年の陸軍省城絵図の「浜松城郭」（富原2017）では、調査溝2を含む本丸北東隅角部付近までは石垣が表現されていないことや43次調査による本丸北東隅角部石垣北側の19世紀代と想定できる石垣崩落痕跡の検出状況から、盛り土造成による本丸の復旧が行われたことが想定できる。

調査溝3 調査溝3では、近現代の造成土の直下において円礫が充填された部分を検出した。円礫充填層の上面からは近世瓦が複数点出土した。また、円礫充填層からの湧水が顕著であった。調査範囲が限られ井戸側壁を検出できなかったため断言はできないが、「安政元年浜松城絵図」には本丸東側中央に井戸が記されており、井戸の底部付近である可能性が想定できる。

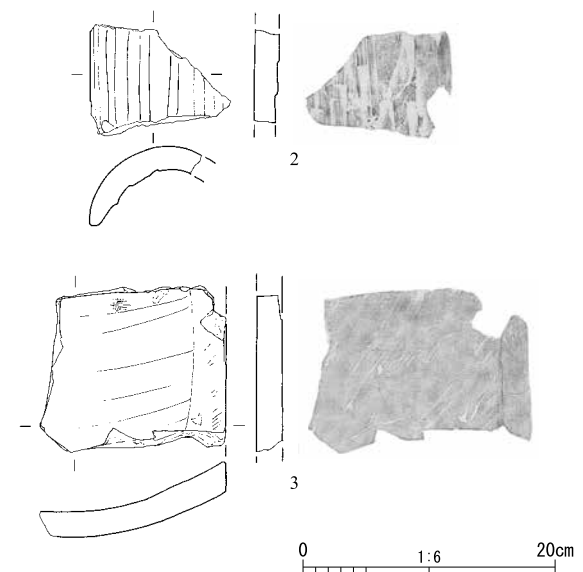
調査溝4 近現代の造成土直下において基盤層を検出した。遺構・遺物ともに認識できなかった。

出土遺物 出土遺物は調査溝2の造成土内と調査溝3の円礫充填層上面から近世瓦が出土した。1は調査溝2の近世造成土中から出土した目板瓦（塀瓦）である。目板瓦の採用時期は不明確であるが、焼成の特徴から18世紀以降を中心としていると捉えられる。2・3は調査溝3の円礫充填層上面から出土した瓦である。2は丸瓦で、凹面にコビキB技法の痕跡、細かい布目圧痕、棒状圧痕が認められ、17世紀代のもものと捉えられる。3は平瓦で、凹面にコビキA技法とみられる糸切り痕跡と布目圧痕が認められ、16世紀末から17世紀初頭にかけての時期を中心として生産されたものと捉えられる。

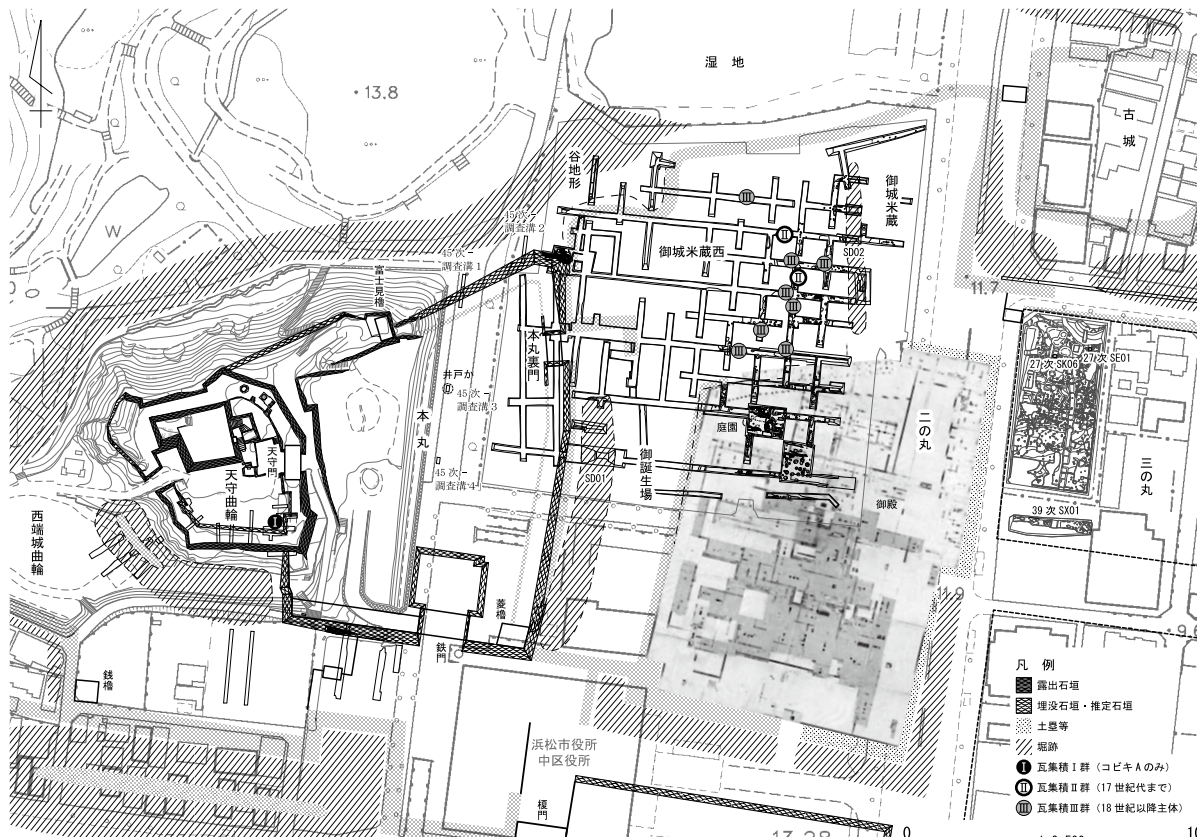
調査溝2出土遺物



調査溝3出土遺物



第8図 浜松城跡 45次調査出土遺物



第9図 近世における浜松城本丸の規模と構造

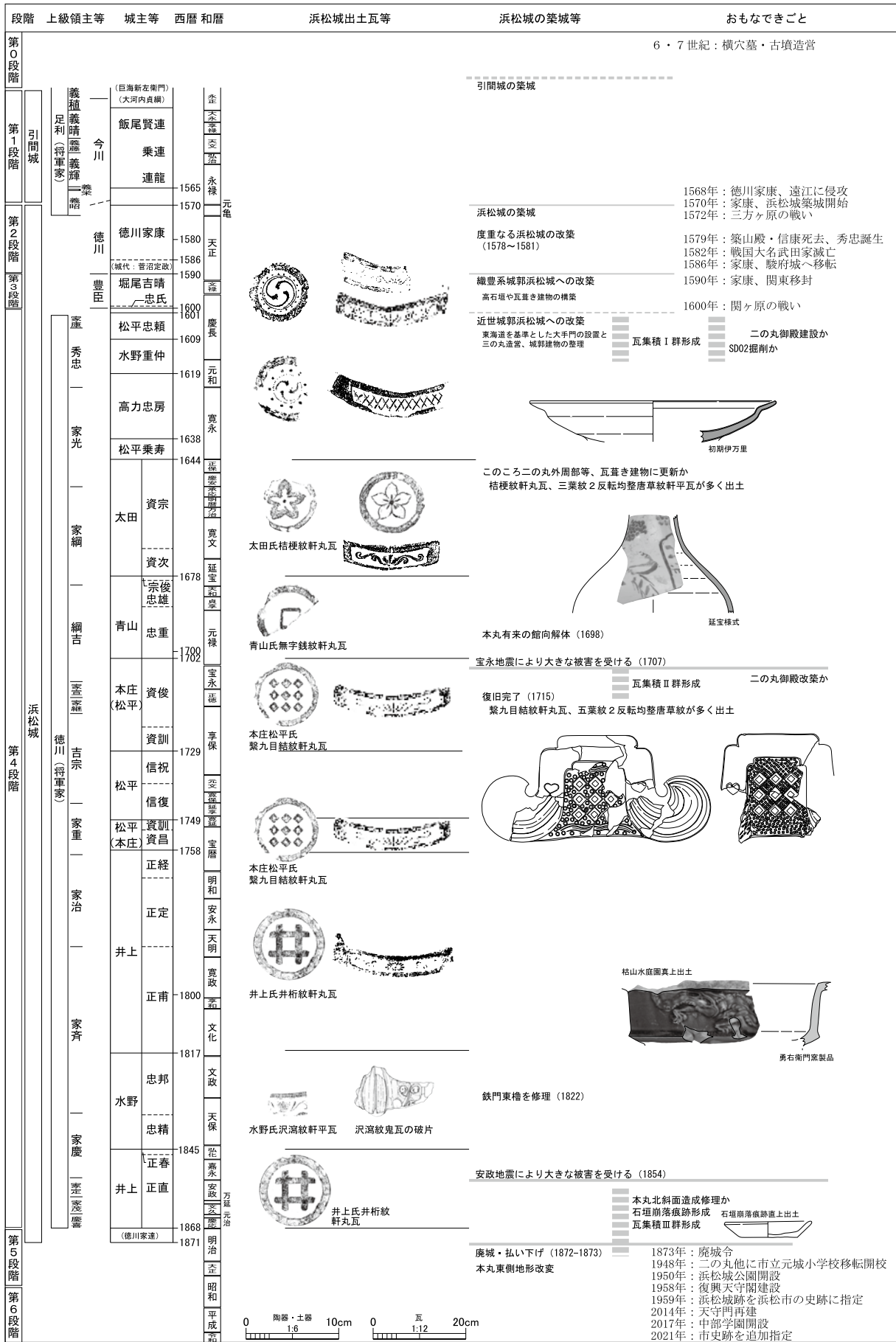
(3) 結語

調査溝1・2において本丸の範囲を示すとみられる基盤層の落ち込み（本丸北斜面）を確認し、現存する本丸北石垣下部の斜面地形が東北東へと本丸北東隅角部に向かって続いていることが明らかになった。本丸北面の石垣は検出できず、検出した斜面よりも上部に石垣が築かれていたと捉えられる。45次調査にて検出した本丸北側斜面の方向は、35・45次調査で検出した本丸北東隅石垣北面の石垣の石垣面の方向に比べて北へと振れており、45次調査における調査溝2で検出した斜面と本丸北東隅石垣北面の交点は出隅や鎬角等を持つ構造であったと捉えられ、「青山家御家中配列図」等の絵図の表現とも整合的である。また、調査溝3では井戸跡の可能性のある円礫充填層と湧水を確認した。「安政元年浜松城絵図」に記録された井戸の位置と整合的な位置で検出していることを含め、今後の調査・研究において留意する必要がある事象と言える。また、後世の地形改変が著しい地点において井戸跡等の深い遺構が残存している可能性を示す事例としても注目できる。

発掘調査成果の蓄積と絵図・史料の研究を進展させ、引き続き調査精度の向上を図るとともに、浜松城の歴史情報をより具体的に明らかにしていく必要がある。（和田達也）

【引用文献】

- 富原道晴ほか 2017『富原文庫蔵 陸軍省城絵図 一明治五年の全国城郭存廃調査記録』戎光祥出版
- 浜松市教育委員会 1996『浜松市指定文化財 浜松城跡 一考古学的調査の記録一』
- 浜松市教育委員会 2015『浜松城跡 10』
- 浜松市教育委員会 2016『浜松城跡 11』
- 浜松市教育委員会 2023『浜松城跡 17』



第10図 浜松城と浜松城のできごと

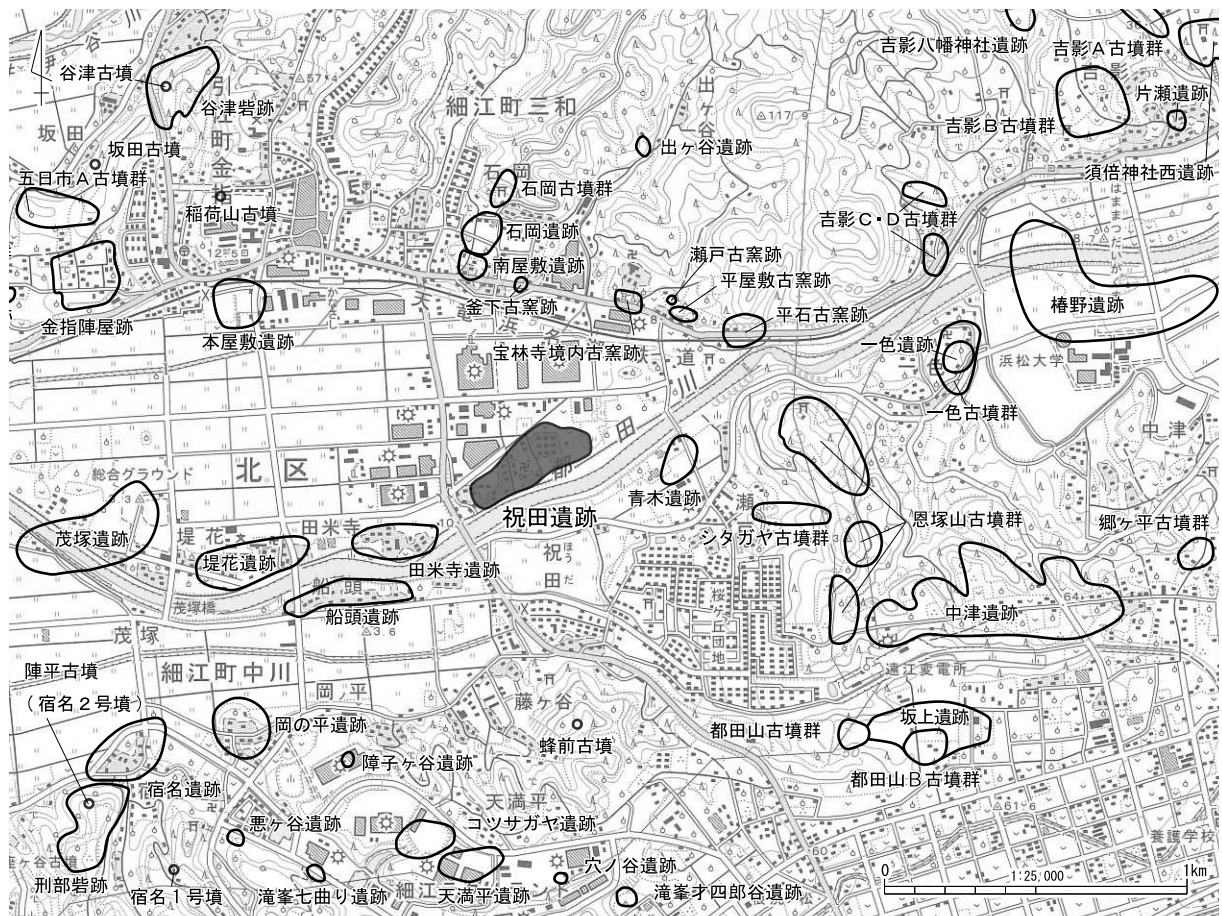
3 祝田遺跡 5・6次調査報告

(1) 遺跡の概要と調査経緯

遺跡の概要 祝田遺跡は、都田川北岸の微高地上に位置する弥生時代から近世の遺跡である。都田川流域には、縄文時代から中世にかけての遺跡が数多く確認されており、祝田遺跡周辺においても田米寺遺跡・茂塚遺跡・森遺跡・堤花遺跡などが分布している。さらに、都田川南岸の河岸段丘上に位置する岡の平遺跡では、縄文時代から奈良時代にかけての祭祀遺構や弥生時代後期の環濠が検出されており、環濠内からは同時期の土器に加えて、木製農具や建築部材などの木製品が数多く確認されている。また、岡の平遺跡の南東側には、滝峯才四郎谷遺跡をはじめとする6口の銅鐸が出土した「銅鐸の谷」が所在する。一方、祝田遺跡では、昭和57年(1982)～59年(1984)と平成4年(1992)に都田川の堤防改修に伴う発掘調査の結果、弥生時代後期の方形周溝墓や中世の掘立柱建物跡及び井戸等の遺構に加え、同時代の遺物が数多く確認されている。

調査経緯 令和元年度に入り、祝田遺跡の埋蔵文化財包蔵地内において、下水道管理設工事が計画された。工事に先立ち令和4年5月に予備調査(5次調査)を実施したところ、対象地の全域で弥生時代から近世の遺跡が確認された。こうした結果を受けて、遺跡の取扱いについて協議を行った結果、埋設工事により遺跡の保護が図れない部分について、記録保存のための本発掘調査(6次調査)を実施する運びとなった。

本発掘調査は、工事の進捗状況に合わせて令和5年1月26日～4月21日にかけて行った。調査面積は75㎡である。



第11図 祝田遺跡の位置と周辺遺跡の分布状況

(2) 5次調査の成果

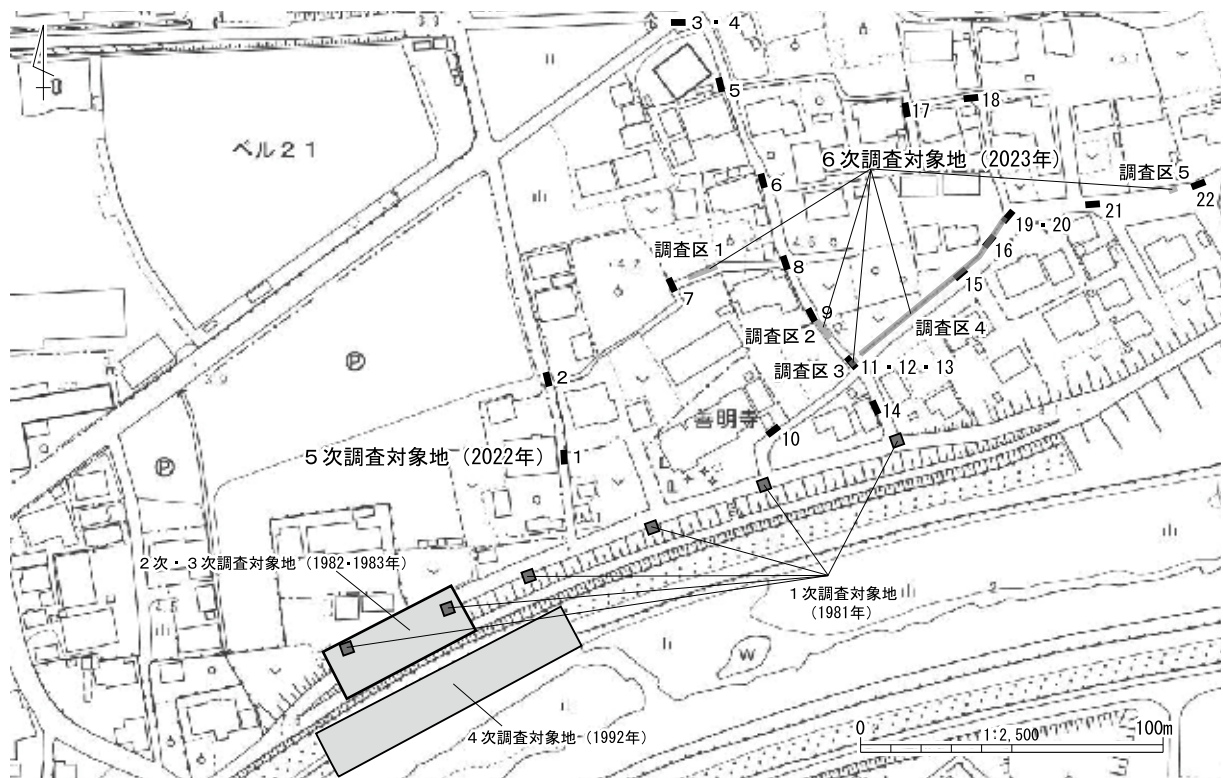
調査の概要 5次調査は下水道管理設工事に先立ち、遺跡の埋没状況を確認するため実施した予備調査である。調査対象地は、祝田遺跡の埋蔵文化財包蔵地の中央から東側に位置し、これまでに発掘調査の履歴は乏しかった。22箇所の調査坑を設定し、予備調査を行った結果、対象地内の全域において、弥生時代後期から近世の遺構・遺物が確認された。

土層堆積状況 調査対象地内における基本層序は次のとおりである。上層より、Ⅰ層：アスファルト・碎石・盛土・側溝、Ⅱ層：灰色～褐色系シルト・粘土（近代以降の堆積層）、Ⅲ層：暗灰色～褐色系シルト・粘土（弥生時代後期～中世の遺物包含層）、Ⅳ層：灰褐色～褐色系砂・シルト・粘土、Ⅴ層：灰色～褐色系砂・シルト・粘土、Ⅵ層：黒灰色粘土（植物片を多く含む）の順に確認した。土層堆積状況は、河川改修に伴い実施した4次調査と近似する。Ⅲ層は、弥生時代後期～中世にかけての遺物包含層である。厚いところでは、80cm程の堆積を確認し、1～3層に分層できるが、時期的な差を見出すことが困難であった。

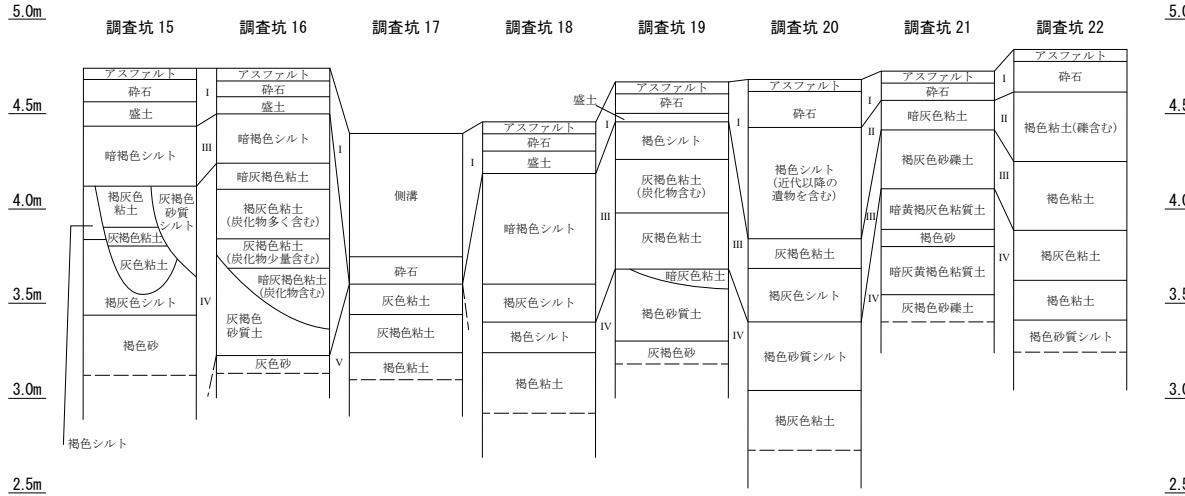
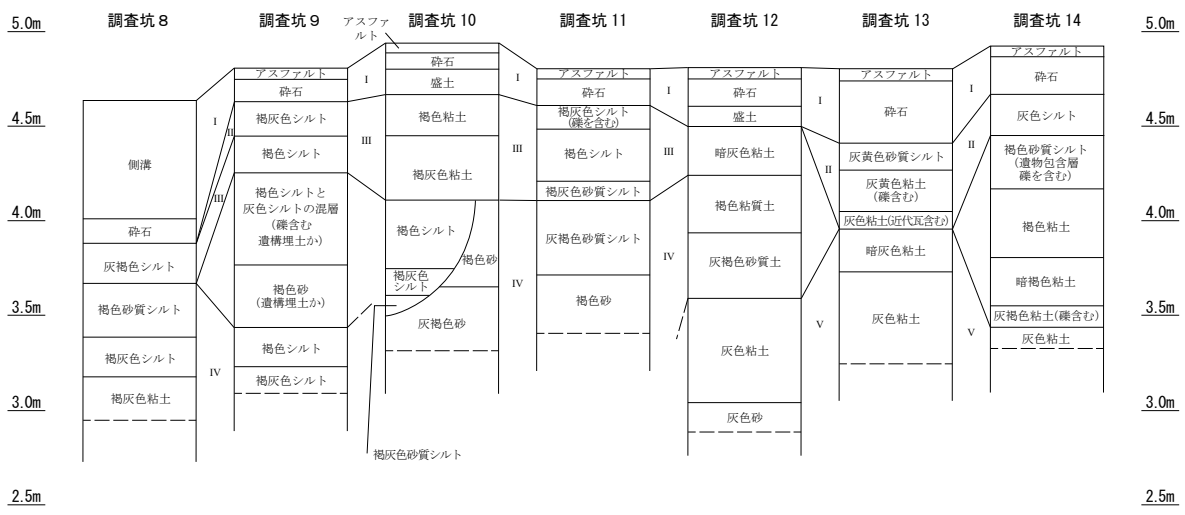
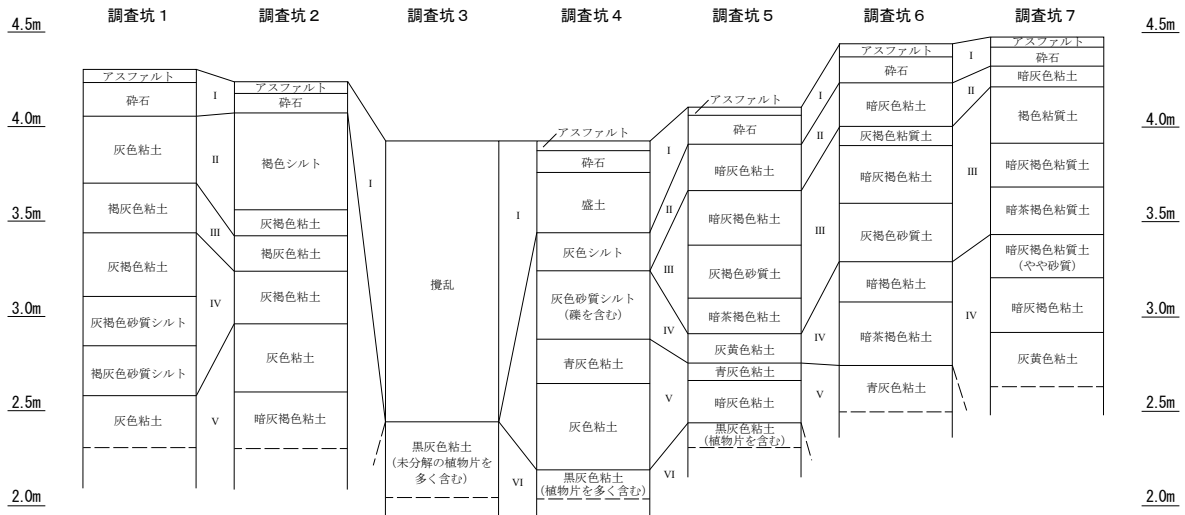
また、調査坑3・4・5においてⅥ層を確認した。植物片が多く含まれることから、対象地の北側では湿地が広がっていたと考えられる。

検出遺構 調査坑9・15・16・19において、Ⅳ層から掘り込まれた溝及び土坑を検出した。なかでも、調査坑9において、一定量の弥生時代後期の遺物が出土した。明確な遺構は確認できなかったが、南北2m以上の範囲に遺物が及んでいることから、溝などの可能性が考えられる。

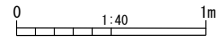
調査坑15において土坑及び溝を検出した。土坑内からは、細片のため図化できたものは無いが、弥生時代後期の土器が出土した。また、土層断面を観察した結果、溝は土坑を切って掘り込まれていることを確認した。この溝は、近接する調査坑16で検出した溝と、位置関係等から同一遺構と考えられ、調査坑16で検出した溝の埋土から内湾内耳鍋（48）が出土していることから、16世紀後半～17世紀前半の遺構と捉えられる。



第12図 祝田遺跡の調査状況



I層: アスファルト・砕石・盛土・コンクリート・攪乱・側溝
 II層: 灰色～褐色系シルト・粘土 (近代以降の堆積層)
 III層: 暗灰色～褐色系シルト・粘土 (弥生時代後期～中世の遺物包含層)
 IV層: 灰褐色～褐色系砂・シルト・粘土
 V層: 灰色系砂・粘土
 VI層: 黒灰色粘土 (未分解の植物片を多く含む)

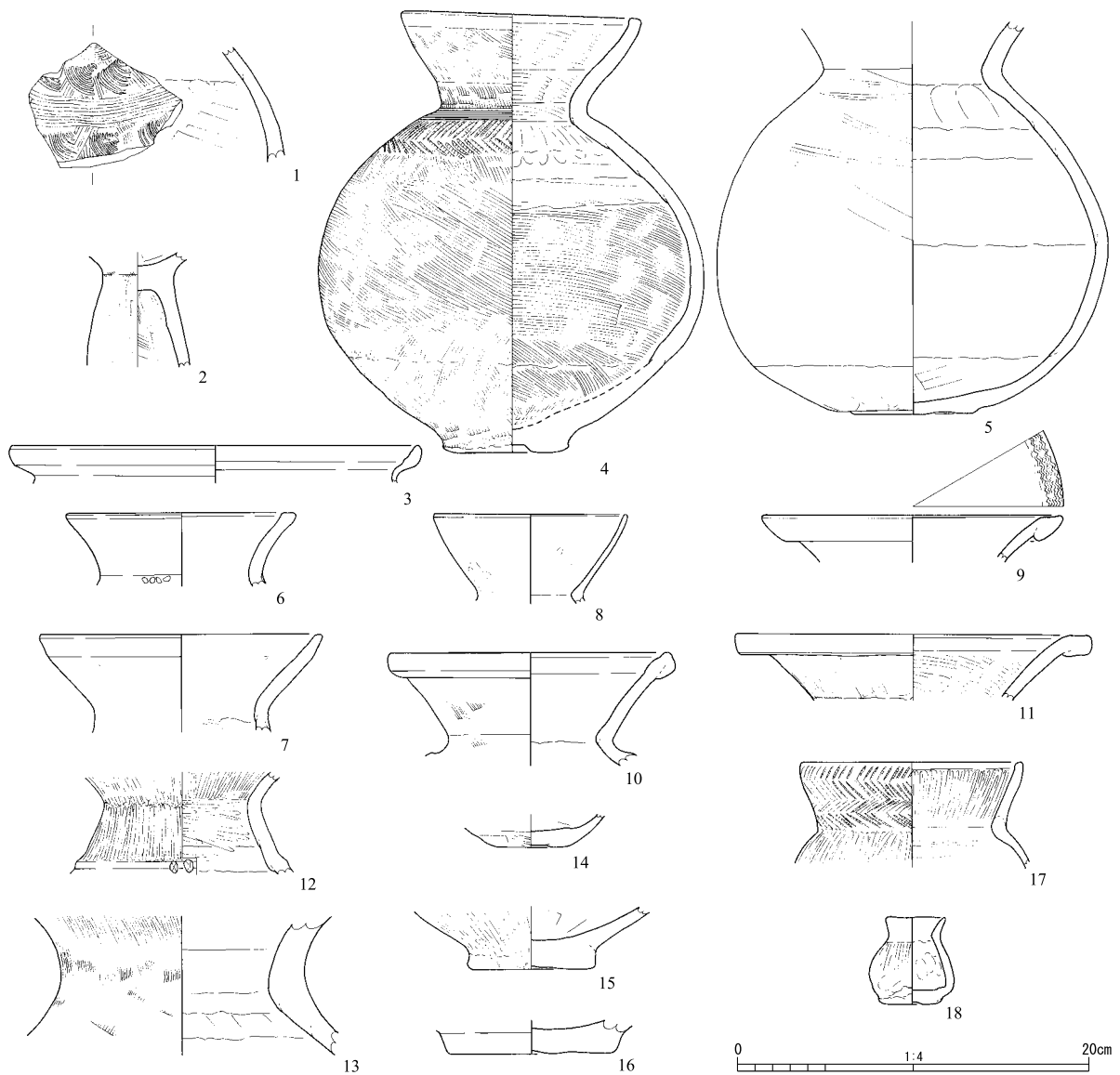


第 13 図 祝田遺跡 5次調査土層柱状図

出土遺物 出土遺物を第14～16図に示した。遺物は調査坑9を中心として、調査対象地全域で確認した。帰属時期は、弥生時代後期から近世までの幅広い時期のものがみられたが、弥生時代後期と中世の遺物を中心に確認した。

1～33は弥生土器である。器種は、壺・甕・高坏・鉢を確認し、加えてミニチュア土器(18)が1点出土した。壺の口縁形態は、内湾口縁(4・7・8)や折返口縁(9～11)のものがみられ、9は内面に波状文が施されている。胴部には扇形文(1)・羽状文(4)・刺突文(6)及び浮文(12)を施したものがみられる。台付甕は、口縁部に刺突が施されるもの(19～21)が多く、僅かに刺突のないもの(32)もみられる。また、19は接合部に粘土帯が貼り付けられている。高坏は、坏部に稜をもつ有稜高坏(28)や脚部が内湾する形状のもの(31)がみられる。

これらの遺物は、接合部に粘土帯が貼り付けた台付甕(19)など、一部後期前半(山中式)の様相を表すものもみられるが、刺突の施されない台付甕(32)や高坏の形状などから、後期後半(欠山期)の遺物が中心と考えられる。

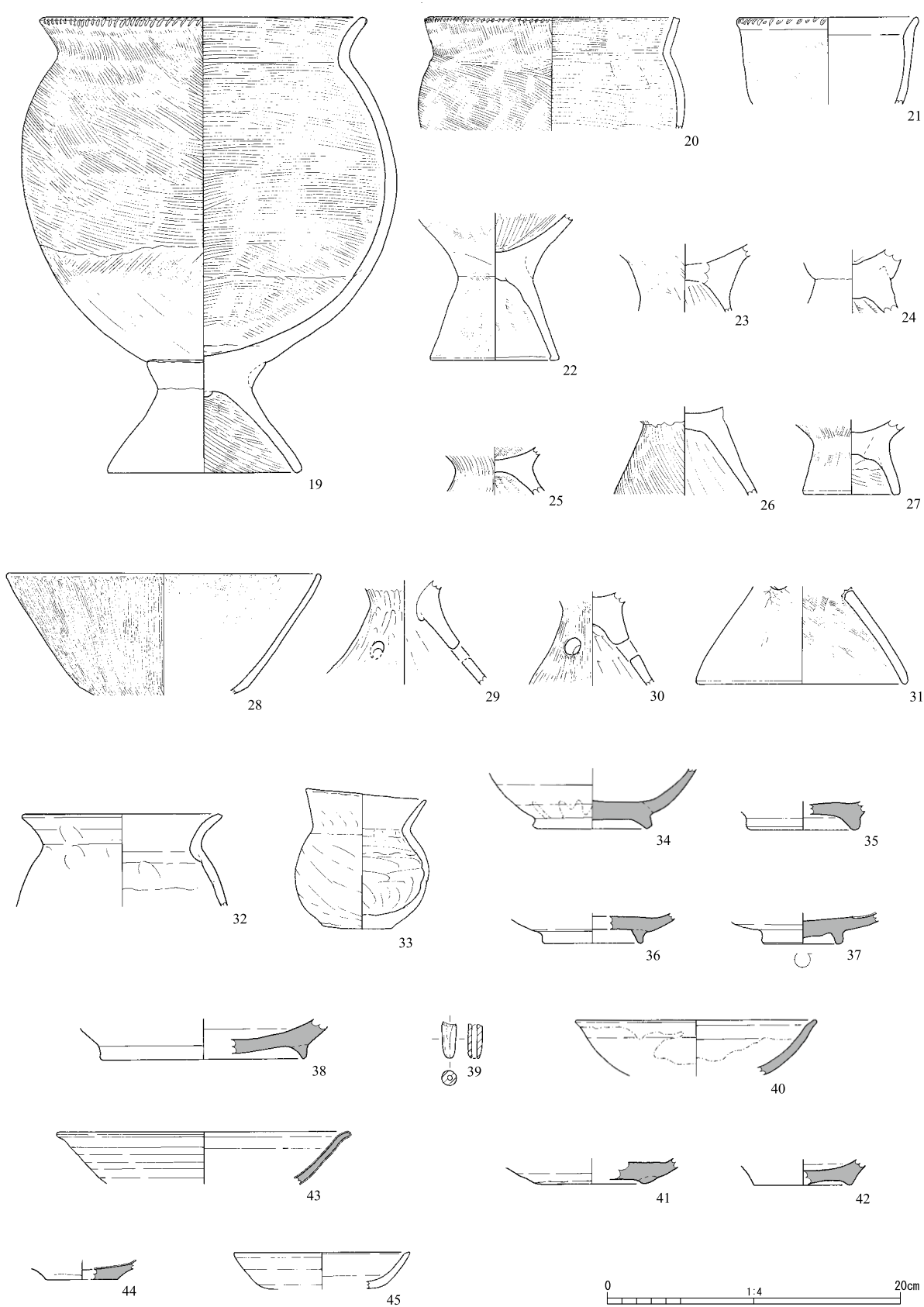


1・5・12～16：弥生土器(壺) 2：弥生土器(高坏) 3：土師質土器(伊勢鍋) 4・7・8：弥生土器(内湾口縁壺) 6：弥生土器(外反口縁壺)

9～11：弥生土器(折返口縁壺) 17：弥生土器(鉢) 18：弥生土器(ミニチュア土器)

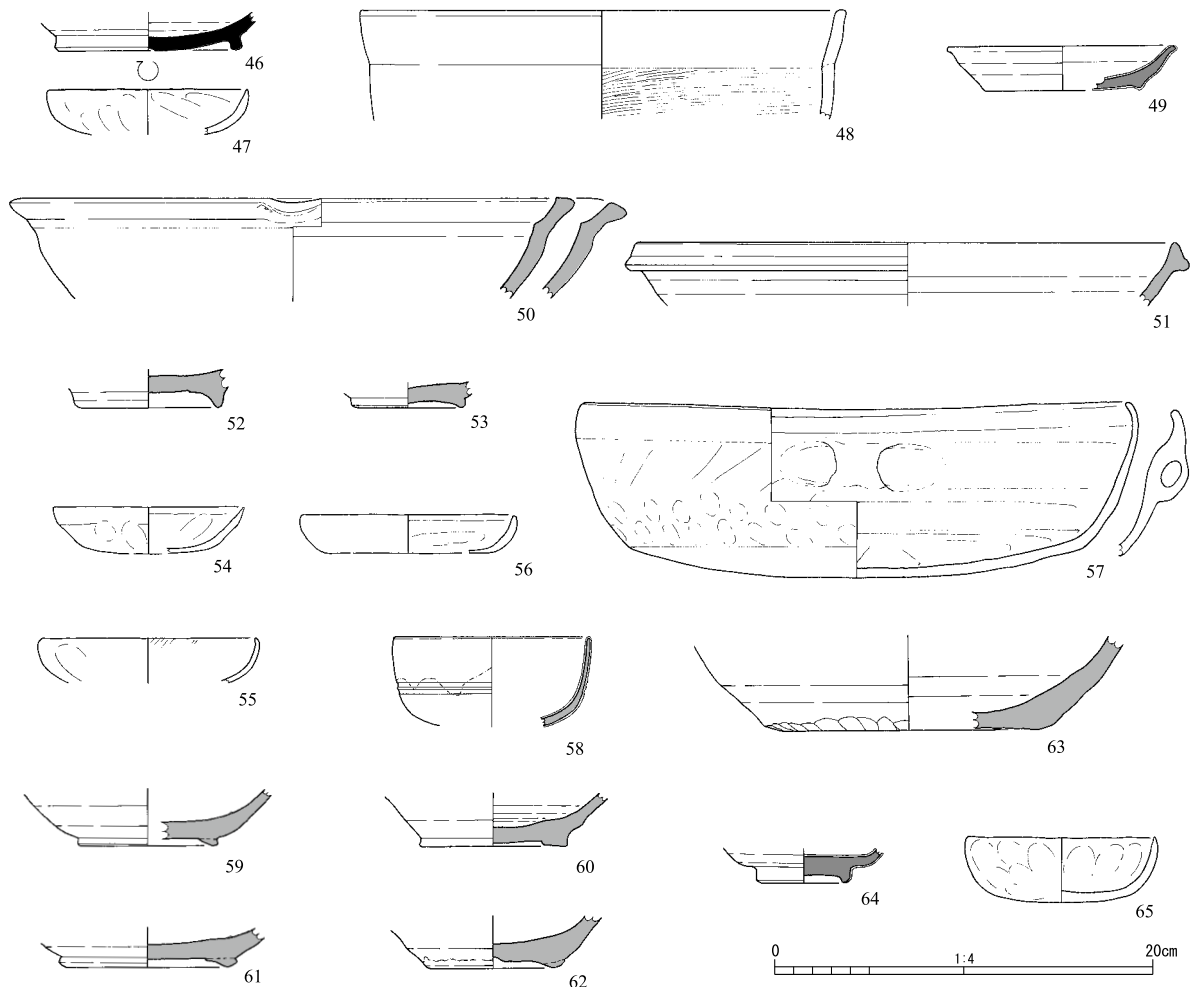
1・2：調査坑2出土 3：調査坑7出土 4～18：調査坑9出土

第14図 出土遺物(1)



19～27：弥生土器（台付甕） 28～31：弥生土器（高坏） 32：弥生土器（甕） 33：弥生土器（鉢） 34～37・41・42：中世陶器（山茶碗） 38・43：陶器（碗か）
 39：土製品（土鏝） 40：陶器（碗） 44：陶器（皿） 45：土師器（坏身）
 19～31：調査坑9出土 32～39：調査坑11出土 40～42：調査坑12出土 43・44：調査坑13出土 45：調査坑15出土

第15図 出土遺物（2）



46：須恵器（右台坏身） 47・54～56・65：土師質土器（非ロクロかわらけ） 48：土師質土器（内耳鍋） 49：陶磁器（皿） 50・51：陶器（播鉢）
 52・53・59～62：中世陶器（山茶碗） 57：土師質土器（内湾内耳鍋） 58：陶器（腰鍔茶碗） 63：陶器（壺か） 64：貿易陶磁器（青磁碗）
 46～51：調査坑16出土 52～58：調査坑19出土 59～65：調査坑22出土

第16図 出土遺物（3）

中世～近世の遺物は、中世陶器（34～37・41・42・52・53・59～62）・陶器（38・40・43・44・49～51・58・63）・貿易陶磁器（64）及び土師質土器（3・47・48・54～57・65）が出土した。中世陶器は全て山茶碗である。高台はやや高いものから扁平に退化したものがみられ、12～13世紀代の製品と考えられる。陶器は破片のため詳細な帰属時期が不明なものも多いが、49は17世紀中頃の皿、51は大窯Ⅱ～Ⅲ段階の播鉢、58は18～19世紀代の腰鍔茶碗である。土師質土器は、かわらけや内耳鍋などが出土した。3は13世紀代の伊勢型鍋である。かわらけは全て非ロクロ成形の製品である。48・57は内湾内耳鍋である。48は16世紀後半～17世紀前半、57は17世紀代のものである。

小 結 5次調査の結果、調査対象地の全域において弥生時代後期から近世の遺構・遺物を確認した。遺構・遺物の密度は、調査区の南側で高く、北側で低い傾向がみられた。確認した土層堆積状況から、北側は湿地が広がっていたと考えられ、集落の中心は都田川に近い対象地の南側に存在すると想定される。

また、遺物包含層内から弥生時代後期から近世までの遺物が出土した。対象地の東側ほど中世以降の遺物が多く、包蔵地の東端に位置する調査坑22では中世の遺物のみ確認され、遺跡の範囲が中世以降、東側に広がったとみられる。

(3) 6次調査の成果

調査の概要 6次調査は、下水道工事に伴う開発予定地の一部を対象に行った。現地発掘調査は、工事の工程に合わせて5区画に分けて実施した。発掘調査の結果、弥生時代後期から近世にかけての遺構・遺物が確認された。

土層堆積状況 5次調査と近似した土層堆積状況を確認した。上層よりⅠ層：アスファルト・砕石・盛土、Ⅱ層：灰色～褐色系シルト・粘土（近代以降の堆積層）、Ⅲ層：暗灰色～褐色系シルト・粘土（弥生時代後期～中世の遺物包含層）、Ⅳ層：灰色～褐色系シルト・粘土、Ⅴ層：灰色～褐色砂の順に確認した。

検出遺構 調査区4と調査区5において小穴とみられる遺構を確認した。いずれも湧水等の影響により、平面検出に至らず、壁面での確認にとどまる。

調査区5において溝とみられる落ち込みを確認した。埋土は砂礫が含まれており、自然流路の可能性が考えられる。かわらけ(65)が1点出土しており、近世の遺構と考えられる。

その他に調査区2において、多くの弥生土器が出土した。明確な遺構は検出できなかったが、南北5m以上の範囲にわたり遺物が分布することから、土器集積や溝の可能性が考えられる。

出土遺物 出土遺物を図18～20に示した。いずれも弥生時代後期～近世の遺物である。

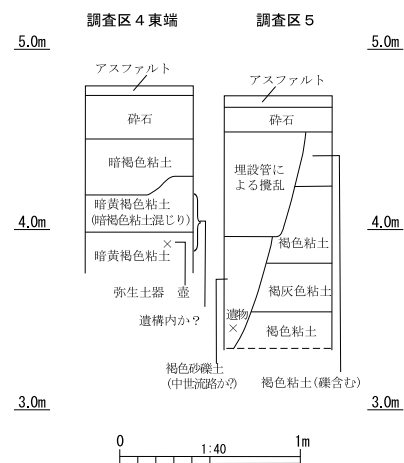
1～3は調査区1から出土した挿鉢である。1は口縁形態から大窯Ⅲ～Ⅳ段階の製品と考えられる。4～43は調査区2から出土した弥生土器である。4～24は壺である。口縁の形態は、外反口縁(4～7)、内湾口縁(8)、折返口縁(9)、拡張口縁(10)、複合口縁(11～13)がみられる。胴部には、羽状文(4・9)や直線文(10)が施されている。25は鉢である。内外面は丁寧なミガキと赤彩が施されている。26～32は台付甕である。口縁部には刺突が施されている。33～42は高坏である。口縁部の形状は、坏部に稜をもつもの(33・34)、内湾するもの(35～38)、外反するもの(39・40)がみられる。脚部の形状はいずれも内湾し、41は円形とみられるスカシが施されている。43は手づくね土器である。底部にはへらによる線刻が施されている。これらの遺物の帰属時期は、形態的特徴から、弥生時代後期後半(欠山式)が中心になると考えられる。

44～46は調査区3から出土した遺物である。44・45は弥生土器の壺である。46は大平鉢の高台部である。12～13世紀代の製品と考えられる。

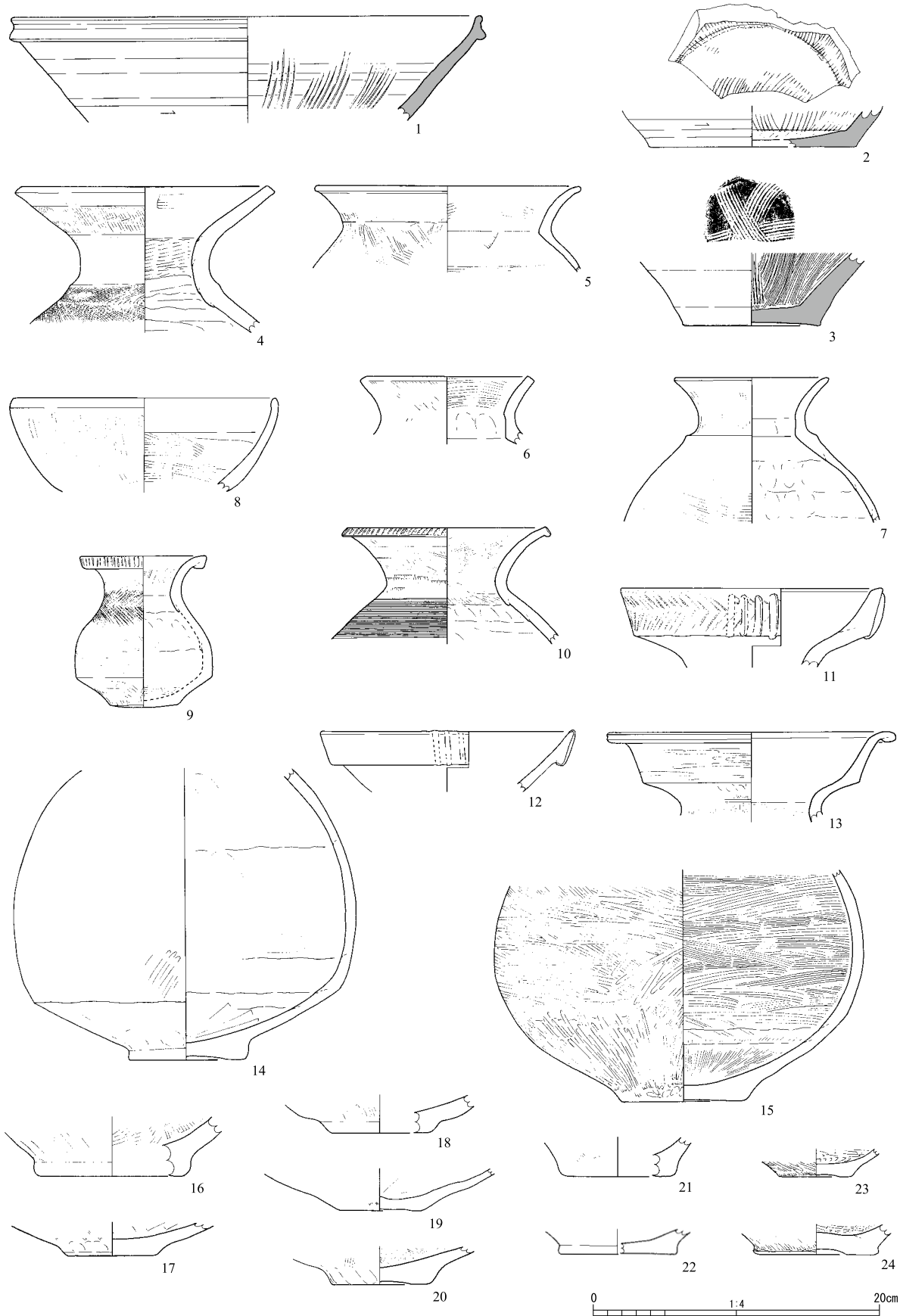
47～64は調査区4から出土した遺物である。47～54は弥生土器の壺である。49は頸部に刺突、51は口縁部内面に波状文がみられる。55・56は弥生土器の鉢である。57は須恵器の坏身、58は12～13世紀代の山茶碗である。59は内耳鍋、60は焙烙である。いずれも16世紀後半から17世紀頃の製品である。61・62は皿、64は匣鉢である。いずれも16世紀後半の初山焼の製品である。63は大皿の口縁部片である。

65は調査区5から出土したロクロ成形のかわらけである。近世の製品と考えられる。

小 結 調査区2において弥生時代後期後半の土器が集中して出土し、調査区5では近世の自然流路とみられる溝を検出した。遺物は、弥生時代後期後半と中世の土器を中心として確認した。煮沸具等が含まれることから、当該地一帯に弥生時代後期～近世の集落跡が展開していることが追認された。

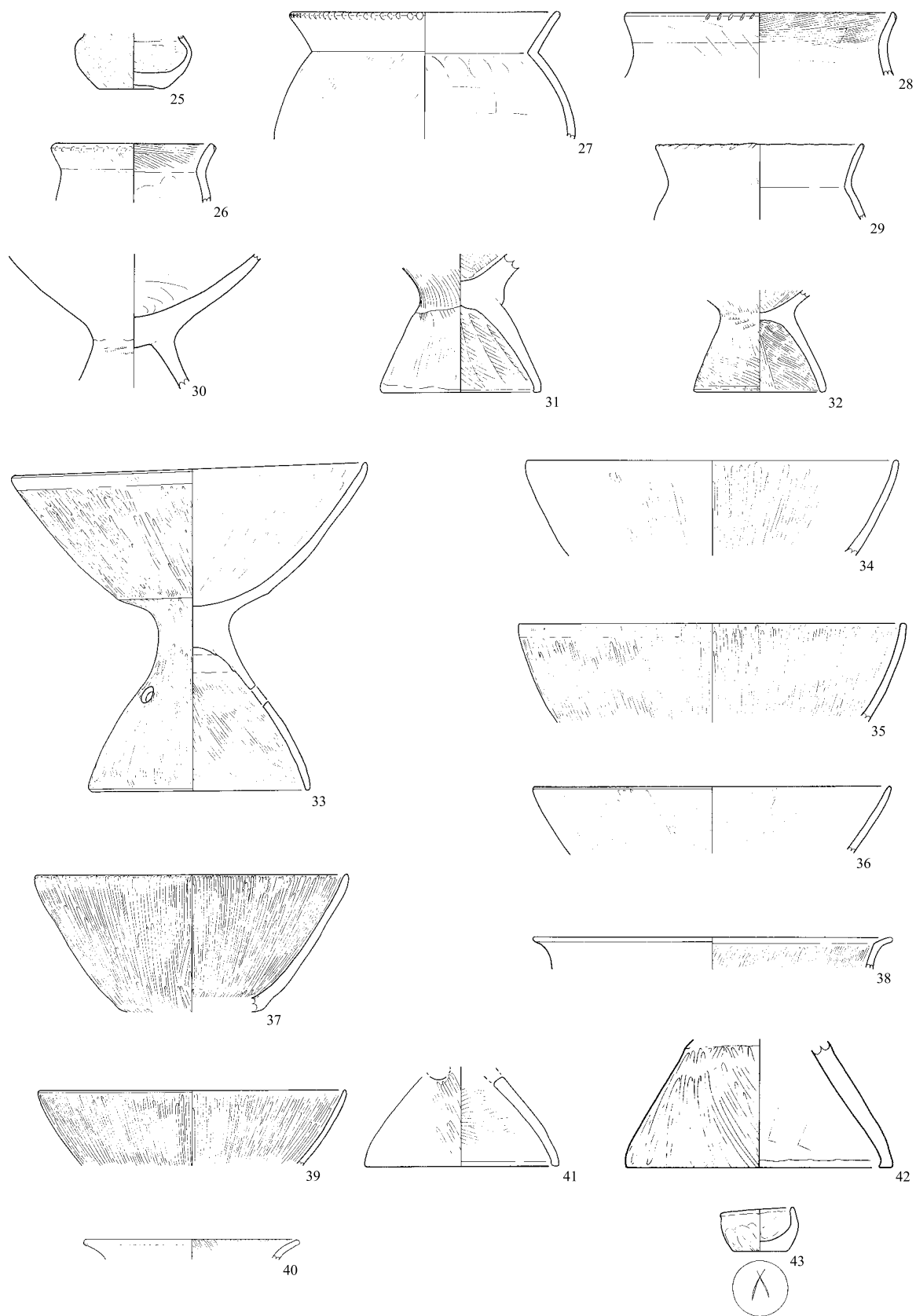


第17図 祝田遺跡6次調査土層柱状図



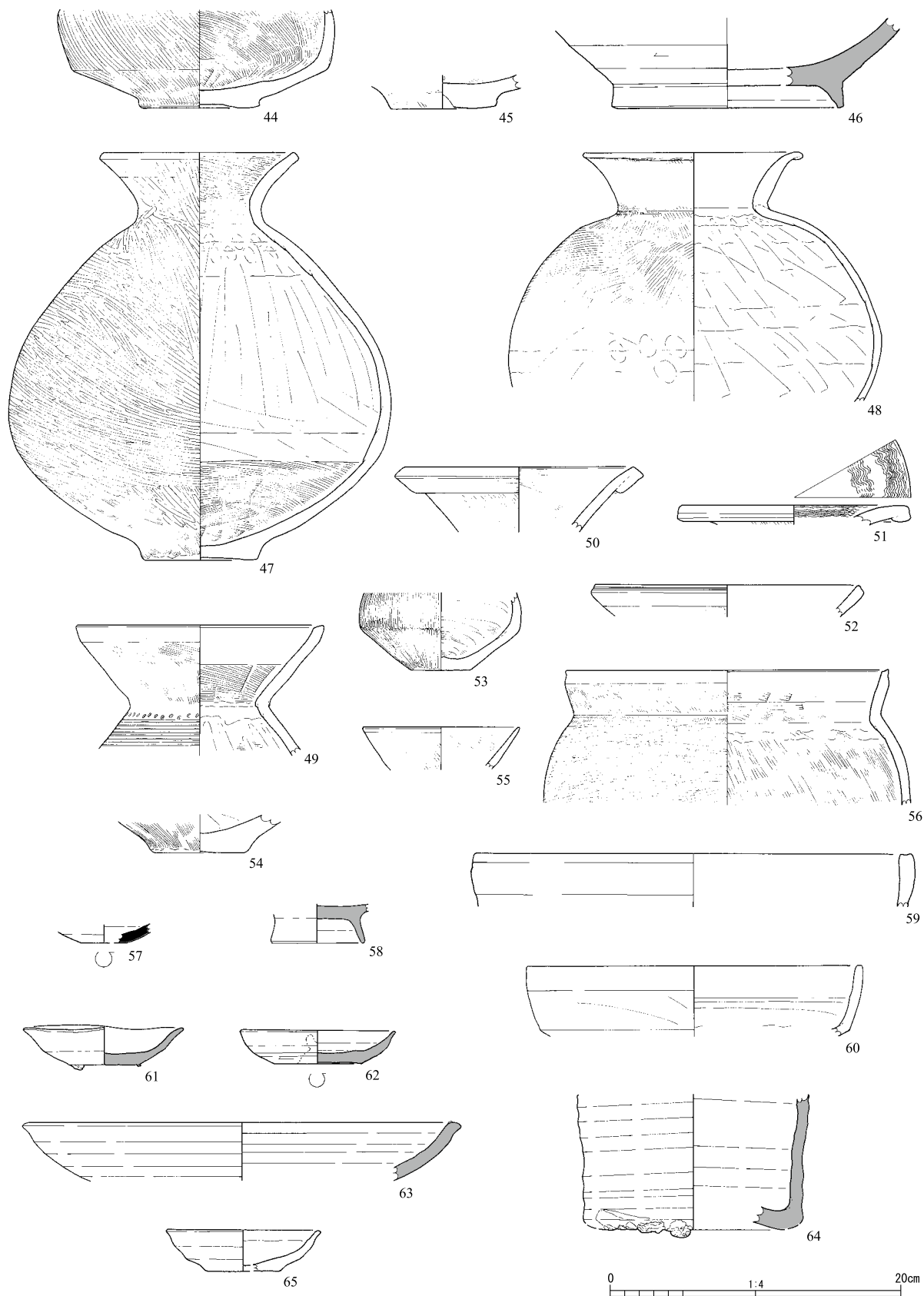
1～3：陶器（摺鉢） 4～7：弥生土器（外反口縁壺） 8：弥生土器（内湾口縁壺） 9・10：弥生土器（折返口縁壺） 11～13：弥生土器（複合口縁壺） 14～24：弥生土器（壺）
 1～3：調査区1出土 4～24：調査区2出土

第18図 出土遺物（1）



25：弥生土器（鉢） 26～32：弥生土器（台付甕） 33～42：弥生土器（高坏） 43：弥生土器（手づくね）
25～43：調査区2出土

第19図 出土遺物（2）



44・45：弥生土器（壺） 46：中世陶器（大平鉢） 47・48：弥生土器（外反口縁壺） 49：弥生土器（内湾口縁壺） 50・51：弥生土器（折返口縁壺） 52～54：弥生土器（壺）
 55・56：弥生土器（鉢） 57：須恵器（坏身） 58 中世陶器（山茶碗） 59 土師質土器（内湾内耳鍋） 60：土師質土器（焙烙） 61・62：初山 陶器（皿） 63：陶器（大皿）
 64：初山 陶器（匝鉢） 65：土師質土器（ロクロかわらけ）
 44～46：調査区3出土 47～64：調査区4出土 65：調査区5出土

第20図 出土遺物（3）

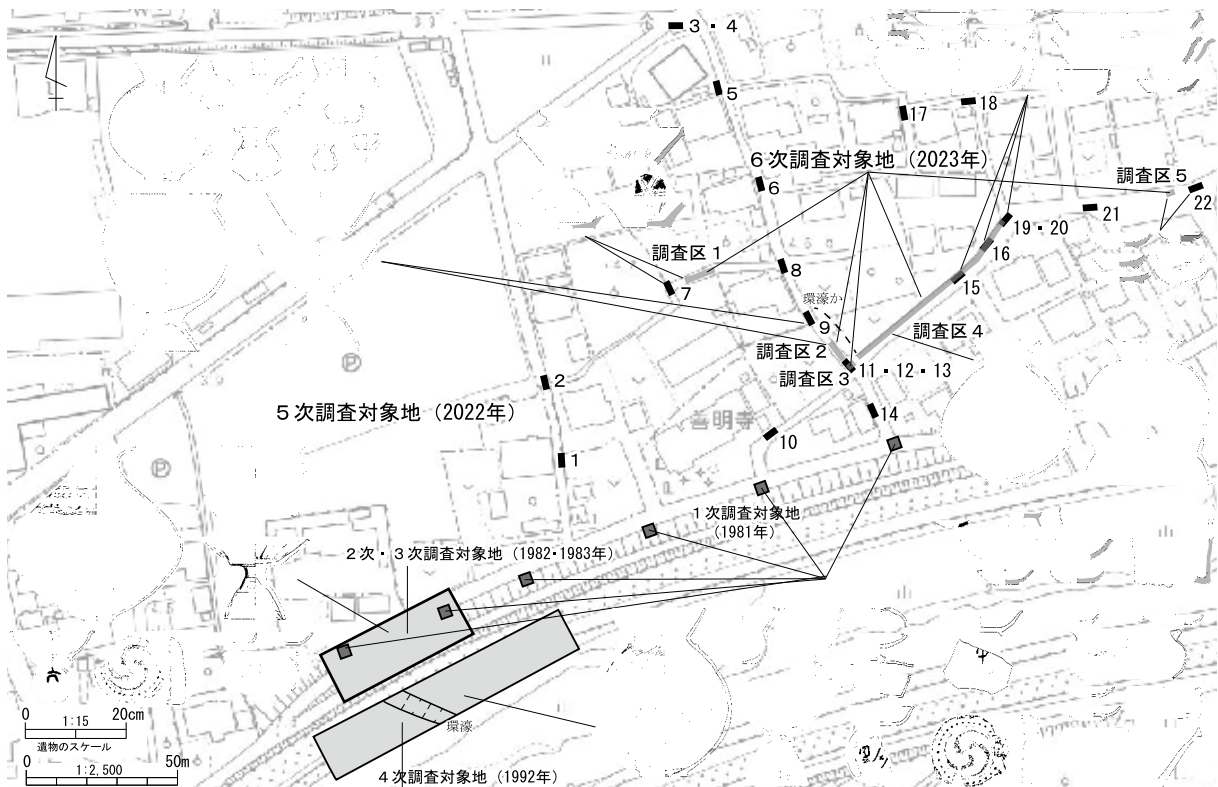
(4) 総括

5・6次調査では、攪乱や調査範囲の制約などにより、遺構の性格を明らかにできたものは多くはないが、弥生時代後期から近世にかけての遺物が出土した。最後に両発掘調査の成果をまとめ、加えて若干の考察を述べて総括としたい。

弥生時代 弥生時代後期の遺物を確認した。出土遺物は、一部後期前半の特徴を表すものもみられるが、後期後半のものが中心である。なお、1・2次調査では、中期の遺物も出土しているが、今回の発掘調査では確認されなかった。

遺構は明確に検出されなかったが、調査坑9及び調査区2において後期後半の土器が多く出土した。遺物の分布は、調査坑9で南北2m以上、調査区2では5m以上の範囲に及んでおり、大型の破片も含まれることから、溝の可能性が考えられる。根拠が乏しいため、調査成果の増加を待つて検討する必要があるが、両調査地を境として対象地の東側では、同時期の遺物量が少なくなる傾向がみられることから、溝は環濠の可能性が考えられ、調査坑9及び調査区2周辺が集落の東端にあたと推測される。なお、4次調査において集落の西端とみられる環濠が確認されており、今回の調査結果を踏まえると、集落域は東西約190mの規模と考えられる。

古代 古墳時代～奈良時代の須恵器をわずかに確認したが、遺構は検出されなかった。これまでの発掘調査においても古代の遺構・遺物の出土例は少なく、今回の発掘調査でも同様の傾向がみられた。祝田遺跡では、遺物の出土状況などから、古墳時代に入ると弥生時代後期に展開した大規模な集落はみられなくなるが、少数ながら遺構・遺物が確認されていることから、古代においても継続して小規模な集落が営まれていたと考えられる。一方、当遺跡から2km程下流に位置する川久保船渡遺跡では、古墳時代の集落跡や奈良時代の祭祀遺構などが確認されており、近隣の森遺跡や堤花遺跡においても同時期の遺物が確認されていることから、当該期の遺跡の中心が下流域に移ったと考えられる。



第21図 祝田遺跡の様相

中世～近世 明確な当該期の遺構は多くないが、調査対象地の東側において中世から近世にかけての溝を2条検出した。今回の発掘調査では、調査対象地の東側ほど中世以降の遺物量が増え、さらに東端では当該期の遺物のみ確認されたことから、中世以降に集落の範囲が東側へ広がったと考えられる。

遺物は調査対象地の全域で確認したが、東側を中心に出土した。主に確認したのは、12～13世紀代の山茶碗、16世紀後半～17世紀代の陶器の皿・播鉢、内耳鍋・かわらけである。

陶器は、瀬戸美濃産とみられる皿などに加えて、初山焼の皿と匣鉢が出土した。

初山焼は、浜松市浜名区細江町中川に位置する初山宝林寺周辺において、16世紀後半に生産された在地の施釉陶器である。これまでに宝林寺境内古窯や釜下古窯において窯跡が確認されている。これらの窯跡と祝田遺跡は、直線距離で500m程の位置関係にあり、今回の調査のほかに、4次調査において皿と匣鉢が確認されている。いずれの発掘調査においても出土事例が少ないため、今後調査事例の蓄積を待って検討する必要があるが、都田川を利用した運搬経路が想定され、当遺跡が流通の要所であった可能性が考えられる。

かわらけは、ロクロ成形と非ロクロ成形の製品が出土した。当地におけるかわらけの分布状況は、都田川流域や天竜川平野の集落遺跡では、非ロクロ成形のかわらけが卓越することが指摘されている（鈴木2009）。今回出土したかわらけは、ロクロ成形と非ロクロ成形のものが混在して出土しているが、非ロクロ成形の製品が主体的であることから、周辺地域と同様の傾向が確認されたと言える。（川西啓喜）

【参考文献】

栗原雅也 20 史「資料編六

鈴木一有 2009「北神宮寺遺跡における中近世の遺構について」『北神宮寺遺跡』財団法人浜松市文化振興財団
細江町 1986「細江町史」資料編六

細江町 2000「細江町史」通史編中

細江町教育員会 1981「都田川流域の遺跡」細江町都田川河川改修工事に伴う遺跡範囲確認調査

細江町教育員会 1982「川久保遺跡ほか、発掘調査概報」細江町都田川河川改修工事に伴う遺跡調査報告

細江町教育委員会 1985「初山焼」釜下古窯発掘調査報告書

細江町教育員会 1993「川久保船渡遺跡」都田川河川改修事業にともなう川久保船渡遺跡発掘調査報告

細江町教育員会 2005「岡の平遺跡発掘調査報告書」

財団法人静岡県埋蔵文化財研究所 1984「祝田遺跡Ⅰ」昭和57・58年度都田川河川改修工事（細江地区）埋蔵文化財発掘調査報告書

財団法人静岡県埋蔵文化財研究所 1985「祝田遺跡Ⅱ」昭和57～59年度都田川河川改修工事（細江地区）埋蔵文化財発掘調査報告書

財団法人静岡県埋蔵文化財研究所 1993「祝田遺跡」平成4年度二級河川都田川住宅地関連公共施設設備促進事業工事に伴う埋蔵文化財発掘調査概報

財団法人静岡県埋蔵文化財研究所 1994「祝田遺跡」平成4年度二級河川都田川住宅地関連公共施設設備促進事業工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

財団法人浜松市文化振興財団 2008「堤花遺跡」

圖 版

PLATE



摩醯首羅菩薩像 修理後



秋葉神社神門全景（北東から）



正面扁額周辺



中央北東側彫刻（上から虎、力人、獅子）



中央北西側彫刻（上から虎、力人、獅子）



中央北東側彫刻詳細（虎）



中央北東側獅子



中央北東側獅子



中央北西側獅子



中央南東側獅子



中央南西側獅子

图版 4



中央北東側力人



中央北東側力人



中央北西側力人



中央南東側力人



中央南西側力人



迦陵頻伽

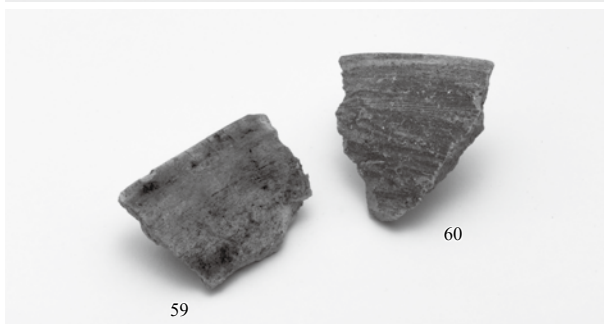
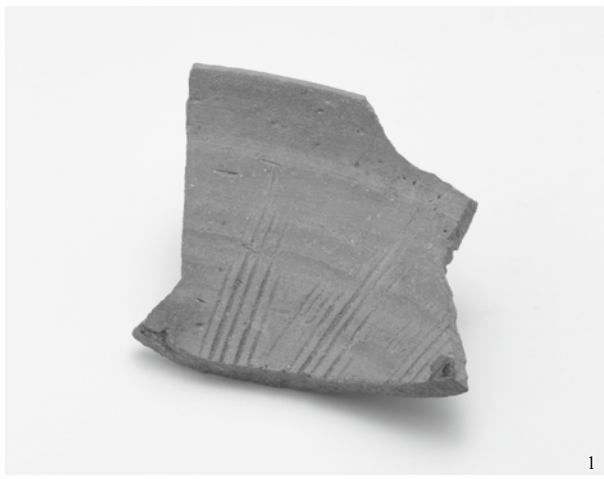


祝田遺跡 5・6 次主要出土遺物





祝田遺跡 6 次出土遺物 (1)



報告書抄録

書名(ふりがな)	令和4年度 浜松市文化財年報 (れいわ4ねんど はままつしぶんかざいねんぼう)							
編著者名	岡本佳枝(編集)、井口智博、和田達也、川西啓喜							
編集発行機関	浜松市教育委員会(浜松市市民部文化財課が補助執行) 浜松市市民部文化財課 〒430-8652 浜松市中央区元城町103番地の2 TEL(053)457-2466							
発行年月日	2024年3月22日							
ふりがな 遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査 面積	調査原因
		市町村	遺跡 番号					
はままつじょうあと 浜松城跡 (44次)	浜松市 中区 元城町	221317	1-4-14	34度 71分 21秒	137度 72分 81秒	2022年4月25日、27日～ 5月11日	35 m ²	下水道管理設に 伴う本発掘調査
はままつじょうあと 浜松城跡 (45次)	浜松市 中区 元城町	221317	1-4-14	34度 71分 32秒	137度 72分 60秒	2022年5月16日～19日	24 m ²	史跡整備に伴う 確認調査
はままつじょうあと 浜松城跡 (46次)	浜松市 中区 元城町	221317	1-4-14	34度 71分 13秒	137度 72分 82秒	2023年3月22日～ 6月8日	34 m ²	下水道管理設に 伴う本発掘調査
ほうだいせき 祝田遺跡 (5次)	浜松市 北区 細江町	221350	5-3-35	34度 81分 15秒	137度 68分 74秒	2022年5月16日～31日	36 m ²	下水道管理設に 伴う確認調査
ほうだいせき 祝田遺跡 (6次)	浜松市 北区 細江町	221350	5-3-35	34度 81分 13秒	137度 68分 85秒	2023年1月26日～ 4月21日	75 m ²	下水道管理設に 伴う本発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
浜松城跡(44次)	城館跡	戦国時代・近代		溝(堀)		土師質土器、陶磁器		
浜松城跡(45次)	城館跡	戦国時代～近世		本丸北側斜面		瓦		本丸北辺の位置が確定
浜松城跡(46次)	城館跡	近世・近代		井戸		陶器、磁器、瓦		
祝田遺跡(5次)	集落跡	弥生時代・古代・ 中世		土坑、溝		弥生土器、須恵器、土師器、 土師質土器、中世陶器、 貿易陶磁器、		
祝田遺跡(6次)	集落跡	弥生時代・古代・ 中世・近世		溝、自然流路		弥生土器、須恵器、土師器、 土師質土器、陶器、		
要約	<p>浜松城跡44次調査では27次調査で確認したSD02(中世堀跡)の南西延長部分を検出した。45次調査では、現存する本丸北石畳下部の南から北へと標高を減じる谷地形が、43次調査において検出した本丸北東隅角の石垣へと続く可能性が高いことを確認し、本丸北辺の範囲について物理的根拠をもって示すことができるようになった。近代の廃城以後、不明確になっていた本丸の規模と構造が明らかになった点において45次調査の意義は大きい。46次調査では、調査区2において近世の井戸跡を検出した。44・46次調査は、市街地の道路下においても掘削規模が大きな遺構は残存していることを示す重要な成果である。</p> <p>祝田遺跡の発掘調査では、弥生時代後期後半と中世を中心とした遺物を確認した。明確な遺構は多く検出されなかったが、弥生時代後期の溝とみられる土器集積や中世の自然流路を検出した。また、中世には集落域が東側に広がる事が明らかとなった。</p>							

令和4年度 浜松市文化財年報

2024年3月22日

発行 浜松市教育委員会

(浜松市市民部文化財課が補助執行)

印刷 中部印刷株式会社

